

取扱ガイドについて

■本書の見方

本書では、お車の運転操作や装備の基本的な操作、緊急時に必要な情報や、安全に関する重要な情報を抜粋して説明しています。詳しい取り扱いについては、日産ホームページに掲載されている取扱説明書をお読みください。

取扱説明書（電子）

https://www.nissan.co.jp/OPTIONAL-PARTS/NAVIOM/index_ariya.html

スマートフォン、タブレットなどで右側の二次元コードを読み取ると、簡単にアクセスいただけます。



- お車を安全・快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。
- 「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。
- 印刷版の取扱説明書（詳細版）をご希望される方は、日産販売会社にお問い合わせください。

■乗りはじめガイド(動画)のご案内

初めてこのお車にお乗りになる方にも安心してご利用いただけるよう、基本操作の説明動画をご用意しております。

スマートフォン、タブレットなどで右側の二次元コードを読み取ると、簡単にアクセスいただけます。



乗りはじめガイド

P.3

安全にお使いいただくために

P.33

トラブルがおきたときは

P.43

重要事項

P.65

メンテナンス

P.115

MEMO

運転席まわり

インストルメントパネル

運転する前に

インテリジェントキー	P.7
タッチセンサー／ドアハンドルセンサー	P.7
ドア（接近時アンロック機能／降車時オートロック機能）	P.7
パワースイッチ	P.7

運転姿勢調整

前席シート	P.8
パーソナルドライビングポジションメモリーシステム	P.8
ハンドルの調節	P.8
ドアミラースイッチ	P.9
インテリジェントルームミラー	P.9

走行中の操作

セレクトレバー	P.10
e-Pedal Step	P.10
ドライブモードセレクター	P.11
オートブレーキホールド	P.11
先進事故自動通報システム	P.11

視界、空調調整

ライトスイッチ	P.12
ワイパー	P.12
オートエアコン	P.13

ステアリングヒーター	P.13
------------	------

走行支援機能

プロパイロットの使いかた	P.15
--------------	------

メーターの見かた

ヘッドアップディスプレイ★	P.16
アドバンスドドライブアシストディスプレイ	P.16
メーター警告灯・表示灯	P.16

その他装備

ワイヤレス充電器	P.20
AC外部給電コネクタ（V2L（普通充電ポート））	P.20
USB 電源ソケット	P.21

駐車する

電動パーキングブレーキ	P.22
インテリジェントアラウンドビューモニター	P.22
プロパイロットパーキング	P.22
プロパイロットリモートパーキング★	P.23
リモコンオートバックドア	P.23

充電する

充電の種類	P.25
充電ケーブル（コントロールボックス付）★	P.26
充電ポート、充電インジケータ	P.26
普通充電をする	P.27
タイマー機能を使う	P.27

充電コネクタロック	P.28
-----------	------

NissanConnectインフォテインメントシステム

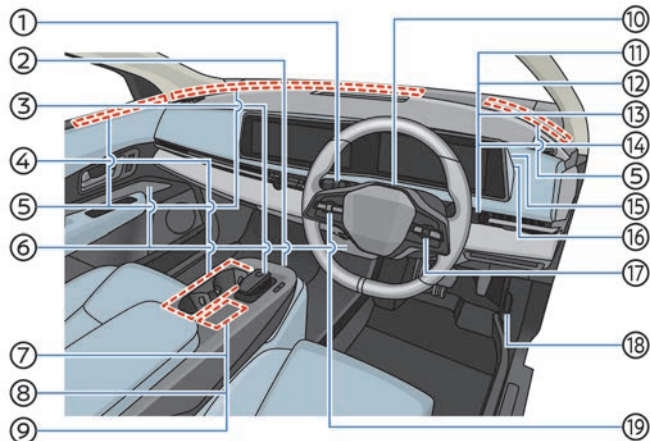
各部の名称と機能	P.29
----------	------

機器接続（Bluetooth®対応機器の接続）	P.30
-------------------------	------

Google アプリおよびサービスについて	P.30
-----------------------	------

Google アプリおよびサービスの利用にあたって必要なこと	P.30
--------------------------------	------

運転席まわり

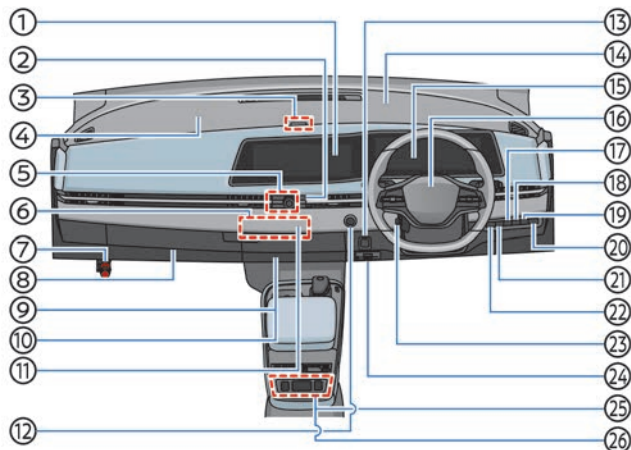


- ① ワイパー・ウォッシャースイッチ (➡P.12)
- ② ワイヤレス充電器 (➡P.20)
- ③ セレクトレバー (➡P.10)
- ④ カップホルダー
- ⑤ アドバンスドアンビエントライティング★
- ⑥ 行燈照明
- ⑦ ドライブモードセクター (➡P.11)
- ⑧ プロパイロットパーキングスイッチ (➡P.22)
- ⑨ e-Pedal スイッチ (➡P.10)
- ⑩ ドライバーモニターカメラ★
- ⑪ ライトスイッチ (➡P.12)
- ⑫ 方向指示器スイッチ
- ⑬ フォグランプスイッチ★
- ⑭ リヤフォグランプスイッチ★
- ⑮ ODO TRIPスイッチ
- ⑯ イルミネーションコントロールスイッチ

- ⑰ ステアリングスイッチ (右)
-プロパイロット (➡P.15)
-ハンズフリーフォン (➡P.29)
-音声操作 (➡P.29)
- ⑱ ボンネットオープナー
- ⑲ ステアリングスイッチ (左)
-アドバンスドドライブアシストディスプレイ (➡P.16)
-オーディオ (➡P.29)

※参照ページがない装備については、取扱説明書（電子）をご確認ください。

インストルメントパネル



- ⑬ 運転席SRSエアバッグ
- ⑭ オートブレーキホールドスイッチ (➡P.11)
- ⑮ ヘッドアップディスプレイスイッチ★ (➡P.16)
- ⑯ ハンドル支援スイッチ
- ⑰ VDC OFFスイッチ★
- ⑱ 即充電スイッチ
- ⑲ リモコンオートバックドア運転席スイッチ (➡P.23)
- ⑳ ハンドル位置調節スイッチ (➡P.8)
- ㉑ ETCユニット
- ㉒ USB電源ソケット (➡P.21)
- ㉓ 後席ヒーターシートスイッチ

※参照ページがない装備については、取扱説明書（電子）をご確認ください。

- ① センターディスプレイ（NissanConnectインフォテインメントシステム） (➡P.29)
- ② 非常点滅表示灯スイッチ
- ③ 充電インジケーター (➡P.26)
- ④ 助手席SRSエアバッグ
- ⑤ オーディオスイッチ (➡P.29)
- ⑥ オートエアコンシステム (➡P.13)
- ⑦ 発炎筒
- ⑧ グローブボックス
- ⑨ センターボックス
- ⑩ HDMI端子 (➡P.29)
- ⑪ リヤデフォグガススイッチ
- ⑫ パワースイッチ (➡P.7)
- ⑬ 電動パーキングブレーキスイッチ (➡P.22)
- ⑭ ヘッドアップディスプレイ★ (➡P.16)
- ⑮ メーター (➡P.16)

インテリジェントキー

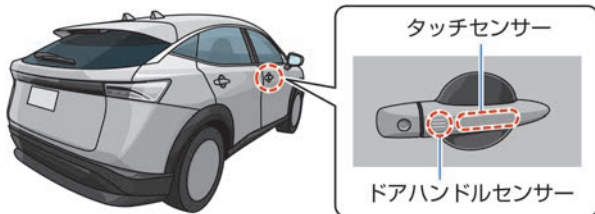


スイッチを押すと、全ドアが施錠します。

スイッチを押すと、全ドアが解錠します。

インテリジェントキーは車種により異なります。

タッチセンサー／ドアハンドルセンサー



インテリジェントキーを携帯しているとき、ドアハンドルで施錠・解錠できます。

- 施錠するときは、ドアハンドルセンサーに触れます。
- 解錠するときは、ドアハンドルを握ります。ドアハンドル裏側のタッチセンサーに触れるようにドアハンドルを握ると解錠されます。

ドア（接近時アンロック機能／降車時オートロック機能）

接近時アンロック機能

インテリジェントキーを携帯して車に近づくと自動で車両が解錠されます。

降車時オートロック機能

EVシステムを停止したあと、ドア開閉をしてからインテリジェントキーを携帯して車から離れると自動で車両が施錠されます。

車両から離れるときは、アンサーバック機能で施錠されていることを確認してください。

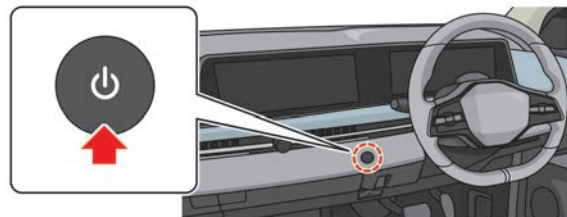
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで、接近時アンロック機能と降車時オートロック機能のON・OFFを切り替えられます。

パワースイッチ

パワースイッチについて


インテリジェントキーを携帯しているとき、<パワースイッチ>で次の操作ができます。

- ブレーキペダルを踏み込んだ状態で<パワースイッチ>を押すと、EVシステムの始動・停止ができます。
- EVシステム停止状態でブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押すと、モードが切り替わります。



前席シート

シート調節



■ 腰部の張り出し量／上下位置★の調節
(ランバーサポート) (運転席)

上へ
下へ
少ない ← → 多い

● 調節したい方向にスイッチを押します。

■ 前後位置の調節
(スライド)

後ろへ 前へ

● 調節したい方向にスイッチを動かします。

■ 上下位置の調節

全体が動く (リフター) 前側が動く (サイサポート)

後ろへ 前へ

● シート全体を調節するときはスイッチの後ろ側を、シートの前側を調節するときはスイッチの前側を動かします。

■ 背もたれの角度調節
(リクライニング)

後ろへ 前へ

● 調節したい方向にスイッチを動かします。

パーソナルドライビングポジションメモリーシステム

あらかじめ運転ポジションを記憶させることで、記憶した運転ポジションを<メモリースイッチ>で呼び出すことができる機能です。

スイッチメモリー機能の使いかた

2名分の運転ポジションを記憶させて呼び出すことができます。

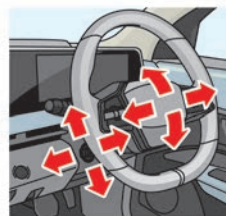
1. 正しい運転姿勢が取れる運転ポジションに調節します。
2. スイッチ①を押し、5秒以内に記憶させたい方のスイッチ②を押します。
記憶が完了すると、ブザーが鳴るとともに記憶されたスイッチの表示灯が数秒間点灯します。



3. 呼び出すときは、記憶を呼び出したい方のスイッチ②を押します。

ハンドルの調節

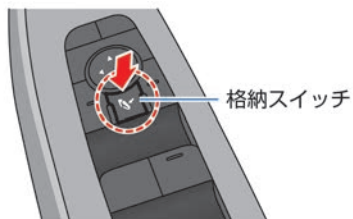
スイッチを前後上下に押して調節します。



ドアミラースイッチ

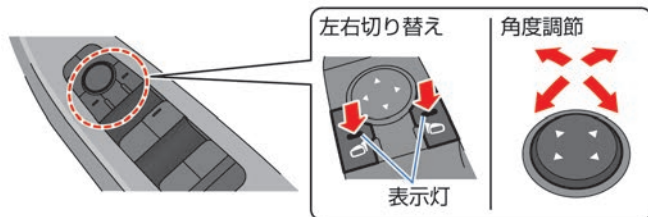
ドアミラーの格納のしかた

- <格納スイッチ>を押すと、左右のミラーが格納されます。
- <格納スイッチ>をもう一度押すと、元の位置に戻ります。



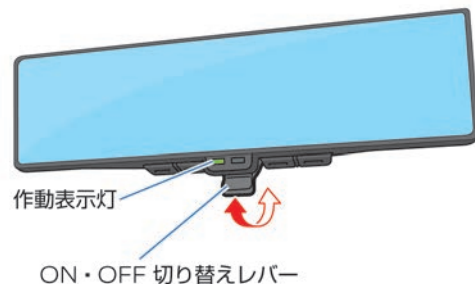
ドアミラーの角度調節のしかた

- 調節するミラー側の<左右切り替えスイッチ>を押します。（スイッチの表示灯が点灯）
- <角度調節スイッチ>を前後左右に押して、鏡面角度を調節します。



インテリジェントルームミラー

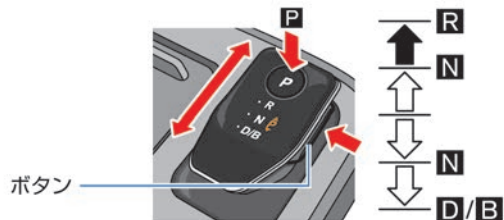
ON・OFF切り替えレバーでインテリジェントルームミラーモードに切り替えると、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。



走行中の操作

セレクトレバー

セレクトレバーの使いかた



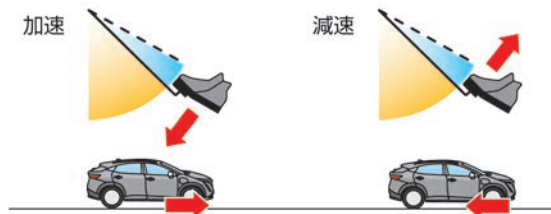
シフトポジション	操作方法	働き
D	ブレーキペダルを踏みながら、車両後方に2段階スライドさせます。	通常走行するとき
B	D のときに車両後方に2段階スライドさせると B に切り替わります。もう一度2段階スライドさせると D に戻ります。	下り坂などで、強い回生ブレーキが必要なとき

e-Pedal Step

アクセルペダルの操作のみで加減速を行い、ブレーキペダルへ踏み替える頻度を大幅に減らすことができます。

e-Pedal Step について

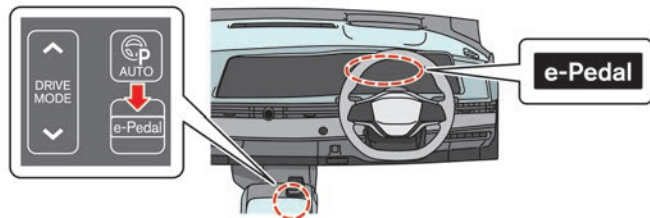
- e-Pedal Step を ON にすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。
- e-Pedal Step はアクセルペダルを離れたときの減速度が従来の車より強いいため、アクセルペダルを完全に離さずゆっくりと緩めることで、なめらかに減速することができます。
- アクセルペダルを離しても減速度が足りないときおよび停車に向けて減速するときや停車時は必ずしっかりとブレーキペダルを踏んでください。



シフトポジション	操作方法	働き
P	セレクトレバーにあるⓅスイッチを押します。	駐車および EV システムを始動するとき
R	ブレーキペダルを踏みながら、ボタンを押して車両前方へ2段階スライドさせます。	後退するとき
N	P のときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方、または車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 D・B のときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 R のときは、ブレーキペダルを踏みながら車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。	動力が伝わらない状態

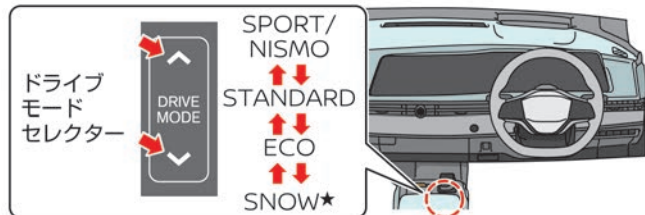
e-Pedal Step の使いかた

<パワースイッチ>がONのとき <e-Pedal> スイッチを操作することでON・OFFが切り替わります。（メーター内のe-Pedalインジケータに状態を表示します。）



ドライブモードセクター

複数のドライブモードがあります。目的に応じて使い分けてください。ドライブモードは、SPORT/NISMO、STANDARD、ECO、SNOW★から選択することができます。



オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどの停車中にブレーキペダルを踏み続けなくても、ブレーキ力を保持する機能です。

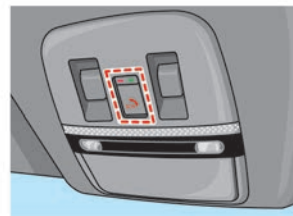
オートブレーキホールド機能のON・OFFのしかた

- <パワースイッチ>がONのとき<オートブレーキホールドスイッチ>を操作することでON・OFFが切り替わります。（ONにすると、スイッチの表示灯が点灯します。）
- 使用できる条件になると、オートブレーキホールド表示灯（白色）が点灯し、待機状態になります。
- ブレーキ力が保持されているときは、オートブレーキホールド表示灯（緑色）が点灯します。



先進事故自動通報システム

<SOS コールスイッチ>を押すことでSOS コールを開始できます。また、事故発生時（エアバッグやプリテンショナーシートベルトが作動するレベルの事故）には自動でSOS コールを開始します。



ライトスイッチ

ランプの点灯・消灯

スイッチを回してスイッチ位置をマークに合わせます。通常時は<AUTO>の位置で使用してください。

ライトの点灯・消灯状態は、ライトスイッチを操作したときにメーターに表示されるガイダンスとメーター内の表示灯で確認してください。



スイッチ位置	点灯する灯火
< 1x >	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
< AUTO >	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯、LEDデイトタイムランニングランプが自動点灯・消灯 <AUTO>の位置でヘッドランプが点灯しているときに、ライトスイッチ横のボタンを押すとアダプティブLEDヘッドライトのON・OFFをすることができます。
< 30km/h / OFF > (< 30km/h / OFF >の位置にしても手を離すと自動で<AUTO>の位置に戻ります。)	停車時に< 30km/h / OFF >の位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。 停車時に< 30km/h / OFF >の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。 走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ランプが自動点灯・消灯します。

ワイパー

フロントワイパー



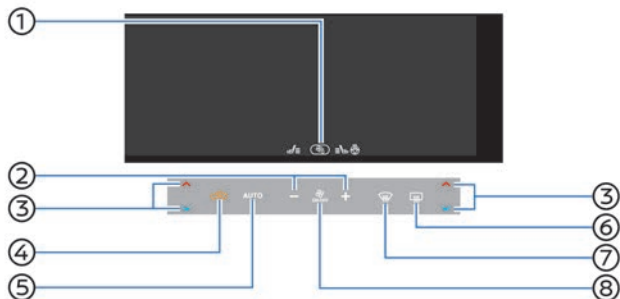
スイッチ位置	作動
< 1x >	スイッチを上げている間作動 手を離すとOFF
< OFF >	停止
< AUTO >	自動制御（スイッチを回して雨滴感知センサー感度の高い、低いを調節）
< — >	低速連続作動
< — >	高速連続作動

- スイッチを手前に引くとフロントウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。
- スイッチを車両前方に押すとリヤウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

オートエアコン

各部名称と機能

センターディスプレイおよび下部のスイッチでエアコンを操作することができます。



- ① [電源] スイッチ
エアコンシステム操作画面が表示されます。
- ② 風量調節スイッチ
風量が切り替わります。
- ③ 温度調節スイッチ
設定温度が切り替わります。
- ④ 内外気切り替えスイッチ
外気導入／内気循環／自動制御モードが切り替わります。
- ⑤ AUTO スイッチ
吹き出し温度、吹き出し口、風量、ステアリングヒーター、前席ベンチレーションシート★、前席ヒーターシートの切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。
- ⑥ リヤデフォグガースイッチ
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。
- ⑦ デフロスタースイッチ
フロントガラスのくもりが取れます。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備 WEB：取扱説明書（電子）を参照願います

- ⑧ ON・OFFスイッチ
オートエアコンシステムのON・OFFを切り替えます。

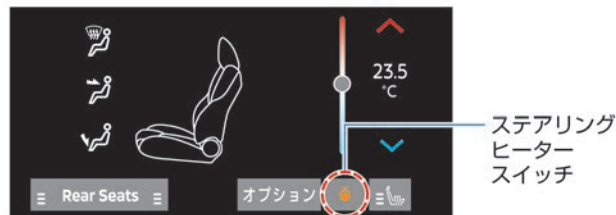
ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部分を温かく保ちます。

ステアリングヒーターの使いかた

センターディスプレイの [電源] をタッチしてオートエアコンシステム操作画面を表示させた後、<ステアリングヒータースイッチ>をタッチします。

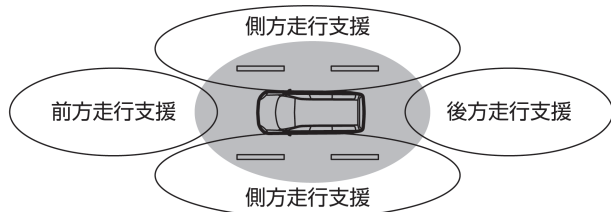
スイッチをタッチするごとに、AUTO⇒OFF⇒ON⇒AUTOの順に切り替わります。



走行支援機能

⚠ 注意

- 走行支援機能は運転者の安全運転を補助するものであり、あらゆる状況での衝突を回避するものではありません。運転者はシステムに頼った運転をせず、周囲の状況に注意して常に安全運転を心がけてください。
- 重要な警告・注意事項がありますので、ご使用前には必ず取扱説明書（電子）をお読みください。



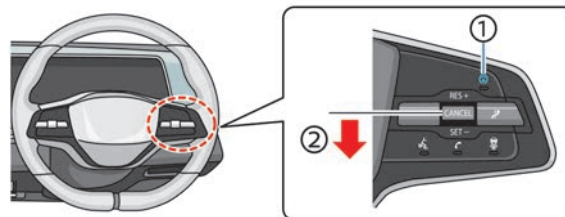
範囲	機能名	機能	支援内容
前方 側方	プロパイロット 2.0 ★ プロパイロット★	前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを自動制御することで運転操作の負担を減らします。	支援

範囲	機能名	機能	支援内容
前方	インテリジェント ディスタンスコントロール	前方の車両からの距離および相対速度に応じてブレーキをかけ、運転者が追従距離を維持するのを支援します。	支援
	インテリジェント エマージェンシー ブレーキ	前方の車両や歩行者、自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。	
前方 後方	踏み間違い衝突防止アシスト	ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違えや、ブレーキ操作遅れが起きたときに警報音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。	支援
前方	インテリジェント FCW（前方衝突予 測警報）	前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合に警報します。	情報提 供 警報
	標識検知機能	運転者に最高速度標識／はみ出し通行禁止標識／車両進入禁止標識／一時停止標識があることを知らせます。	

範囲	機能名	機能	支援内容
側方	インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）	隣車線に車両がいる時に車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻すよう支援します。	支援
	インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、車線内に戻す操作を支援します。	
	BSW（後側方車両検知警報）	車線変更時、隣車線に車両がいる場合に警報します。	警報
	LDW（車線逸脱警報）	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報します。	
	インテリジェントDA（ふらつき警報）	ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、警報音と表示により運転者に休憩を促します。	
後方	RCTA（後退時車両検知警報）	後退時、後方を横切ろうとする車両があるとき、警報します。	警報

プロパイロットの使いかた

1. <プロパイロットスイッチ>①を押します。（1.5秒未満）
 - プロパイロットがONになります。
 - アドバンスドドライブアシストディスプレイにプロパイロットの状態が表示されます。
2. <SET->②方向に押したときの車速でプロパイロットを開始します。



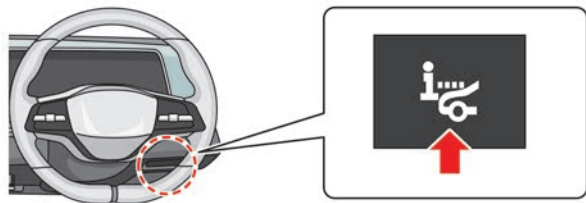
ステアリングスイッチの仕様は車種により異なります。

メーターの見かた

ヘッドアップディスプレイ★

ヘッドアップディスプレイは車速、走行支援システム、ナビゲーションのルートガイドなど、様々な機能の作動状態をフロントガラスに投影することができます。

<ヘッドアップディスプレイスイッチ>で ON・OFF を切り替えることができます。

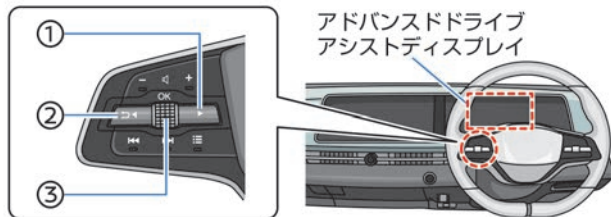


アドバンスドドライブアシストディスプレイ

ディスプレイの切り替えかた (メインメニュー)

ステアリングスイッチでメーター内の画面表示が切り替わります。

- ①または②を押すと「項目」が切り替わります。
- ③を回すと項目を選択します。



ステアリングスイッチの仕様は車種により異なります。

メーター警告灯・表示灯







メーター警告表示

警告灯が点灯または点滅し続けたときは、取扱説明書（電子）の「警告灯がついたときは」を確認のうえ、日産販売会社にご相談ください。

	12V系充電警告灯 <ul style="list-style-type: none">●メーター内の走行可能表示灯 [READY] が点灯しているとき、12Vバッテリーの充電システムに異常があると点灯します。
	SRSエアバッグ警告灯 <ul style="list-style-type: none">●<パワースイッチ>が ON のとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると点灯または点滅します。
	ブレーキ警告灯 <ul style="list-style-type: none">●<パワースイッチ>が ON のとき、次の場合は点灯し続けます。<ul style="list-style-type: none">－ブレーキ液が不足しているとき－ブレーキシステムに異常があるとき
	電動パーキングブレーキ警告灯 <ul style="list-style-type: none">●<パワースイッチ>が ON のとき、電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。
	電制シフト警告灯 <ul style="list-style-type: none">●<パワースイッチ>が ON のとき、電制シフトに異常があると点灯します。
	シートベルト警告灯 <ul style="list-style-type: none">●<パワースイッチ>が ON のとき、乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。






メーターの見かた

	手放し警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● プロパイロットで車線維持機能（ハンドル支援）を行っているとき、ハンドルを持っていないまたはハンドル操作が検出されないと点灯します。 ● 手放し警告灯が点灯しているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告灯が点滅し、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。 ● プロパイロットのシステムに異常があると点灯します。
	マスターウォーニング <ul style="list-style-type: none"> ● メーターに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。
	EPS（電動パワーステアリング）警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● <パワースイッチ>が ON のとき、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。
	VDC OFF 表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● <パワースイッチ>が ON のとき、VDCをOFFにしていると点灯します。
	VDC 警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● <パワースイッチ>が ON のとき、VDCが作動すると点滅します。
	ABS 警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● <パワースイッチ>が ON のとき、ABS のシステムに異常があると点灯します。

	ブレーキシステム警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● <パワースイッチ>が ON のとき、次の機能に異常があると点灯します。 <ul style="list-style-type: none"> － ブレーキシステム － 回生ブレーキ － ヒルスタートアシスト － 電動パーキングブレーキ
	リヤフォグランプ表示灯★ <ul style="list-style-type: none"> ● リヤフォグランプを点灯させると点灯します。
	踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● 踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしているときに点灯します。 ● その他の点灯については、取扱説明書（電子）をお読みください。
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしているときに点灯します。 ● その他の点灯については、取扱説明書（電子）をお読みください。
	リチウムイオンバッテリー残量警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● <パワースイッチ>が ON のとき、リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると黄色く点灯します。
	EV システム警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● <パワースイッチ>が ON のとき、モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。

メーターの見かた

	出力制限表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● メーター内の走行可能表示灯 [READY] が点灯しているとき、リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下していると点灯します。 ● その他の点灯については、取扱説明書（電子）をお読みください。
	タイヤ空気圧警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● タイヤ空気圧が低下すると点灯し、アドバンスドドライバシストディスプレイに警告が表示されます。 ● その他の点灯については、取扱説明書（電子）をご覧ください。
	車両接近通報システム警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ● 車両接近通報装置に異常があると点灯します。
	方向指示表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● 非常点滅表示灯を作動させると左右同時に点滅します。 ● <パワースイッチ>が ON のとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。
	プラグイン表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● 充電コネクタを接続すると点灯し、充電中は点滅します。
	走行可能表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● 走行できる状態になると点灯します。（走行中も点灯し続けます。）
	アダプティブLED ヘッドライト表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● アダプティブ LED ヘッドライトをONにすると点灯します。
	ヘッドランプ下向き表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● ヘッドランプのロービーム（下向き）を点灯させると点灯します。

	テールランプ表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。
	フォグランプ表示灯★ <ul style="list-style-type: none"> ● フォグランプを点灯させると点灯します
	オートブレーキホールド表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● オートブレーキホールド機能が作動しているとき緑色に点灯します。
	ヘッドランプ上向き表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。
	オートブレーキホールド表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ● オートブレーキホールド機能が待機状態のとき白色に点灯します。

警告メッセージが表示されたとき

メーター内のディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、取扱説明書（電子）の「警告メッセージが表示されたときは」を確認のうえ、日産販売会社にご相談ください。

次の表示は代表例です。

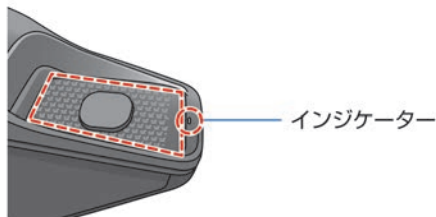
画面表示	名称	表示する条件
キーシステム故障 取扱説明書を見てください	キーシステム警告	● キーシステムに異常があると表示します。
シャシー制御システム故障 取扱説明書を見てください	シャシー制御表示	● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。
ヘッドランプシステム異常 取扱説明書を見てください	ヘッドランプ警告	● LED ヘッドランプに異常があると表示します。
システム故障 取扱説明書を見てください	システム故障警告	● プロパイロット、インテリジェントディスタンスコントロール、インテリジェントエマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、BSW（後側方車両検知警報）、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）、RCTA（後退時車両検知警報）、インテリジェントDA（ぶらつき警報）、標識検知機能が故障すると表示します。
ソナー故障 取扱説明書を見てください	ソナーシステム異常警告A	● ソナーが故障したときに表示します。

ワイヤレス充電器

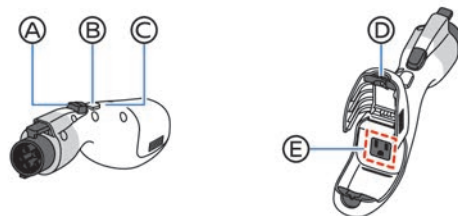
ワイヤレス充電器はQi規格、もしくはQi2規格に対応したスマートフォン用の充電専用です。

ワイヤレス充電器の使いかた

- ワイヤレス充電器はセンターコンソールにあります。
- スマートフォンを充電エリア内に置くと充電が始まります。（インジケータがオレンジ色に点灯）
- 充電が完了するとインジケータが緑色に点灯します。



AC外部給電コネクタの使いかた



1. <パワースイッチ>がOFFになっている、またはON（〔READY〕が点灯していない状態）であることを確認します。
 2. AC外部給電コネクタのコンセントカバー①を開き、電気製品のプラグをコンセント②に差し込みます。
 3. コンセントカバー①を閉じ、AC外部給電コネクタを普通充電ポートに接続します。
 4. V2Lボタン③を2回押します。LEDインジケータ④が点灯します。
 5. OFFにするには、V2Lボタン③を長押しするか、ラッチボタン④を押して、普通充電ポートからAC外部給電コネクタを引き抜きます。
- V2L（普通充電ポート）の電源周波数は、50Hzに設定されています。車両の電源周波数と異なる電化製品を使用すると、誤作動や故障の原因となるおそれがあります。

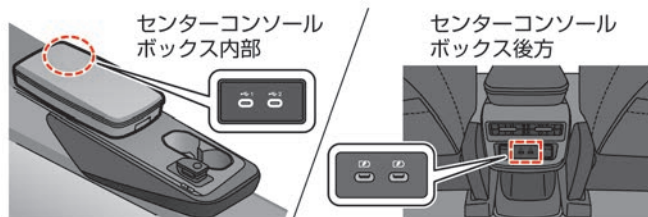
AC外部給電コネクタ（V2L（普通充電ポート））

普通充電ポート（運転席側）にAC外部給電コネクタを差し込み、車両のリチウムイオンバッテリーの電力を利用して、家電製品やキャンプ用品などの電化製品に電力を供給することができます。

リチウムイオンバッテリーの残量が、お客さまがあらかじめ設定されている給電停止バッテリー量に達すると、AC外部給電コネクタ（V2L（普通充電ポート））は給電を停止します。

USB 電源ソケット

USB電源ソケットでモバイル機器などを充電できます。
センターコンソールボックス内のUSB電源ソケットは通信も可能です。

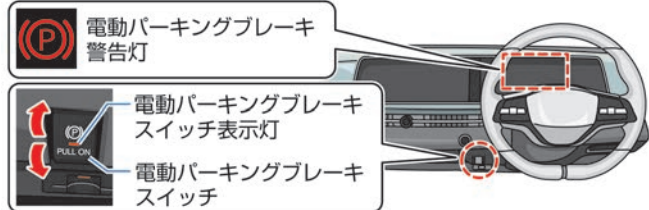


電動パーキングブレーキ

スイッチ操作で、電動パーキングブレーキをかけることができます。

電動パーキングブレーキの使いかた

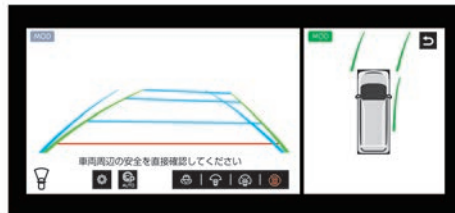
- ブレーキペダルをしっかり踏んでスイッチを操作します。
- 作動させるとき：スイッチを引きます。
<電動パーキングブレーキスイッチ>表示灯：点灯
電動パーキングブレーキ警告灯：一定時間後に点灯
- 解除するとき：スイッチを押します。
<電動パーキングブレーキスイッチ>表示灯：消灯
電動パーキングブレーキ警告灯：消灯



インテリジェントアラウンドビューモニター

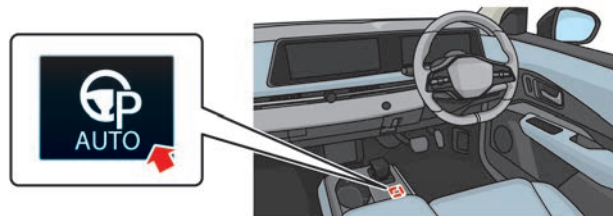
インテリジェントアラウンドビューモニターは自車位置を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

<パワースイッチ>がONのときに、<CAMERAスイッチ>を押すか、シフトポジションを**R**にすると表示します。



プロパイロットパーキング

プロパイロットパーキングは、車庫入れや縦列駐車時の運転操作を支援するシステムです。



プロパイロットリモートパーキング★

プロパイロットリモートパーキングは、車外からプロパイロットリモートパーキング用インテリジェントキーを用いて、車両の前進および後退を行い、駐車操作を支援します。

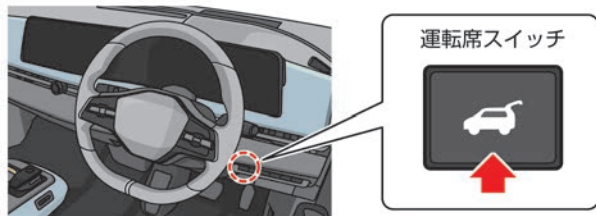


リモコンオートバックドア

リモコンオートバックドアは、スイッチの操作やハンズフリー機能でバックドアを自動（電動）開閉することができます。

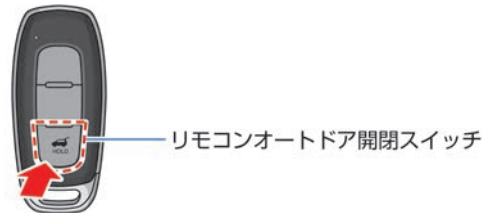
リモコンオートバックドア運転席スイッチ

<運転席スイッチ>を約1秒間押すことでバックドアを自動（電動）で開閉することができます。



リモコンオートバックドア開閉スイッチ

ドアを解錠してからリモコンスイッチのボタンを約1秒間押しとバックドアを自動（電動）で開閉することができます。

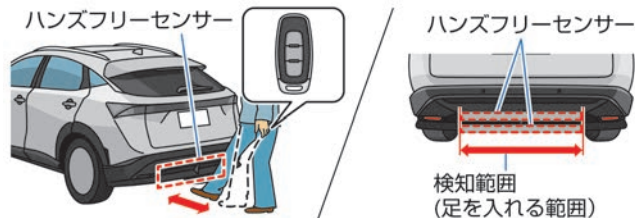


インテリジェントキーは車種により異なります。

ハンズフリーセンサー

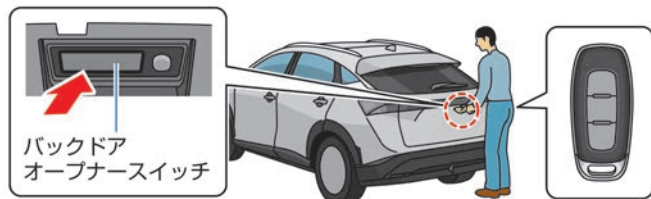
インテリジェントキーを携帯し、リヤバンパー下側に足先を入れてすぐに引くとリヤバンパー下部に設けられたセンサーによって足の動きを感知し、バックドアの開閉を自動（電動）で行います。

- リヤバンパーの下に足を入れたままにしていると作動しません。
- バックドアが自動（電動）開閉中に、足先を入れて引く動作を行うとその位置で停止します。再度、足先を入れて引く動作を行うと、停止前とは反対の方向に動き、全開または全閉します。



バックドアオープナースイッチ

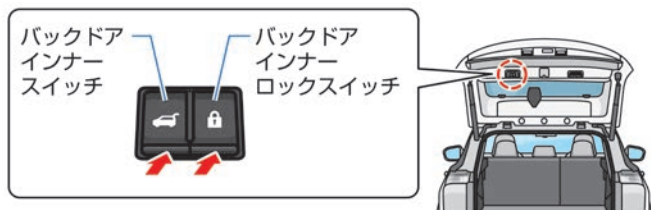
インテリジェントキーを携帯してスイッチを押すと自動（電動）でバックドアが開きます。



バックドアインナースイッチ、バックドアインナーロックスイッチ

<バックドアインナースイッチ>を押すと自動（電動）でバックドアが閉まります。

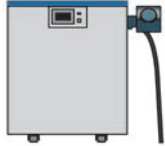
<バックドアインナーロックスイッチ>を押すと、全ドアが施錠されバックドアが全閉します。



充電の種類

充電の種類には普通充電、急速充電、V2H 充電などがあります。

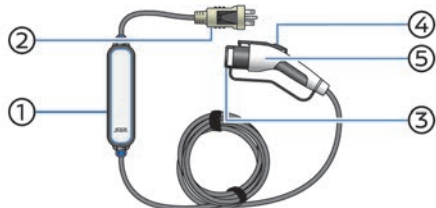
充電の種類		充電内容	充電器の一例
普通充電 (200V)	3kW 普通充電	主に自宅の電源（コンセント）に充電ケーブルを接続して充電を行います。	
	6kW 普通充電	3kW 普通充電のおよそ2倍のスピードで充電を行います。6kW 普通充電を行うためには、6kW 普通充電に対応した6kW 普通充電器（車載用）と専用の6kW 普通充電器（壁掛型）の両方が必要です。	
急速充電		外出先などに設置された急速充電器を使用し、短時間で充電を行うことができます。この車両は、CHAdemo ※（チャデモ）仕様の急速充電器を使用してください。	

充電の種類	充電内容	充電器の一例
V2H充電	急速充電と同じ CHAdemo 仕様の急速充電コネクタを使い 3kW ~ 10kW 程度の双方向充電を行います。V2Hの詳細については、各 V2Hメーカーのカタログなどをご確認ください。	

- ※：CHAdemo とは、日本発の電気自動車用急速充電規格です。
- ここで紹介している充電器の外観は一例です。普通充電器、急速充電器ともに機種によって形状および手順が異なる場合があります。その場合、それぞれの充電器の手順に従ってください。
 - この車両は最大130kWの急速充電に対応しています。

充電する

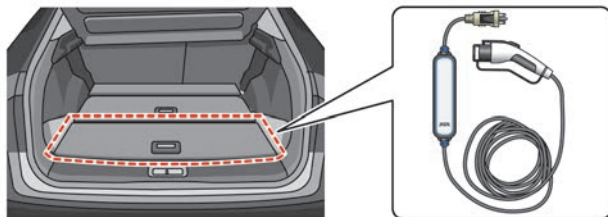
充電ケーブル（コントロールボックス付）★



- ① コントロールボックス
- ② プラグ
AC200Vの電源に接続します。
- ③ キャップ
充電が終わったらキャップを必ず装着してください。
- ④ リリーススイッチ
- ⑤ 充電コネクタ

格納場所

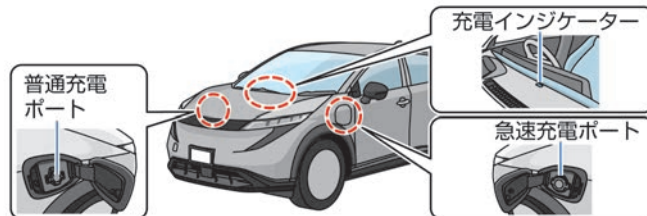
充電ケーブル（コントロールボックス付）は、ラゲッジアンダーボックスに収納できます。



充電ポート、充電インジケータ

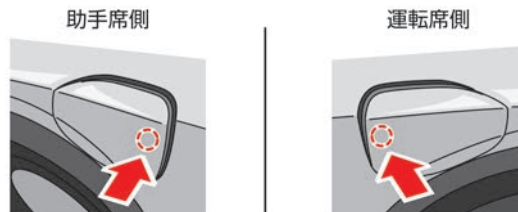
充電ポートは車両左右のポートリッド内にあり、助手席側が急速充電ポート、運転席側が普通充電ポートです。

充電中は、インストルメントパネル部の充電インジケータが青色に点滅します。リチウムイオンバッテリーの充電が進むにつれて、インジケータの点滅速度が遅くなります。



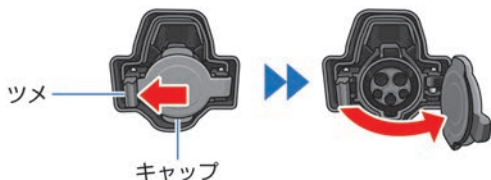
充電ポートリッドの開けかた

リッドの車両後方側中央部あたりを押すとリッドが開きます。



充電ポートキャップの開けかた

ツメを押してキャップを開けます。
※イラストは普通充電ポートです。



普通充電をする

1. <パワースイッチ>がOFFになっていることを確認します。
2. 普通充電をするときは、ラゲッジアンダーボックスから充電ケーブル（コントロールボックス付）★を取り出し、コンセントに接続します。
3. ドアが解錠されている状態で、充電ポートリッドを押し、充電ポートリッドを開けます。
4. 充電ポートのキャップを開け、充電コネクタを確実に差し込み固定します。
普通充電の場合は、正常に接続されるとブザーが1回鳴ります。
5. 充電が開始されるとブザーが2回鳴り、充電インジケータの表示が変わります。
インストルメントパネル部の充電インジケータで充電状態が確認できます。
6. 充電を終了するときは、充電コネクタのリリーススイッチを押しながら、充電ポートから充電コネクタを引き抜きます。
普通充電で充電コネクタロックがかかっている場合は、充電コネクタロックを解除してください。

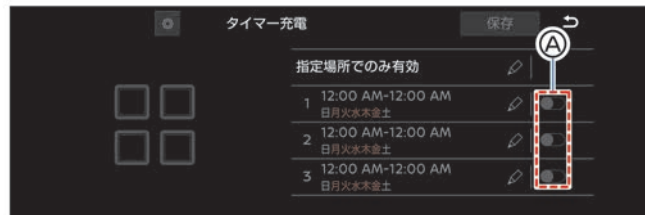
☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備 WEB：取扱説明書（電子）を参照願います

7. 充電ポートのキャップを閉めてから、充電ポートリッドを確実に閉めます。
 - 急速充電器およびV2Hを利用するときは、充電器の種類によって操作方法が異なるため、充電器本体の取り扱い方法を必ずご確認ください。
 - 車両の状態によりブザーが鳴らない場合がありますが、異常ではありません。

タイマー機能を使う

タイマーで充電する

1. センターディスプレイで次の操作をして、タイマー充電の設定画面を表示させます。
[🏠] ⇒ [🔌] ⇒ [EV] ⇒ [タイマー充電]
2. ⒶをタッチしてタイマーをON（インジケータ点灯）にします。



3. [🔌] をタッチしてタイマー設定画面に切り替えます。
4. [開始時刻] をタッチしてタイマー充電を開始する時刻を設定します。
5. [停止時刻] をタッチしてタイマー充電を停止する時刻を設定します。
6. タイマー充電を行う曜日タッチして設定します。
7. [OK] をタッチします。
8. [保存] をタッチして設定を保存します。
9. <パワースイッチ>をOFFにし、充電ケーブルを接続します。

充電コネクタロック

いたずら防止のため普通充電をしている間、普通充電コネクタをロックして車両から抜けなくする機能です。

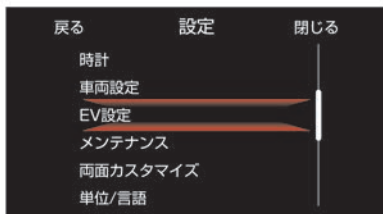
充電コネクタロックモードの使い分けかた

充電コネクタロックモードは、シフトポジションがPのときに作動し、状況に応じて次のように使い分けます。

モード	機能
AUTO	充電中のみロックし、充電が終わると自動的にロックが解除されます。
LOCK	いたずら防止のため、充電中以外の時間帯でも常時ロックしたいときに使用します。
UNLOCK	ロック機能を使わないときに使用します。

充電コネクタロックモードの設定のしかた

1. ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチ、<OK>スイッチを操作し、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定画面を表示します。
設定 [⚙] ⇒ [EV 設定] ⇒ [充電コネクタロック]



2. ステアリングスイッチの<OK>スイッチを回して設定したいモードを選択し、<OK>スイッチを押して決定します。

充電コネクタロックモードの解除のしかた

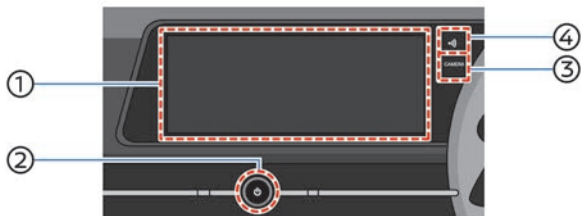
ドアが施錠されている状態から解錠すると、約30秒間ロックが解除されます。

普通充電コネクタを車両から取り外さなかった場合は、再度ロックされます。

NissanConnectインフォテインメントシステム

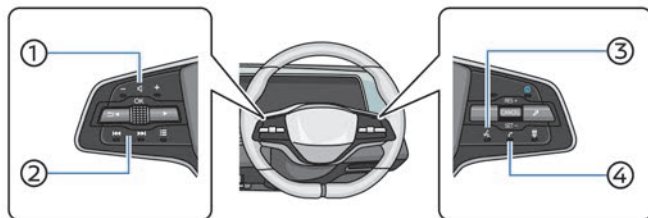
各部の名称と機能

タッチパネル周辺の名称と機能



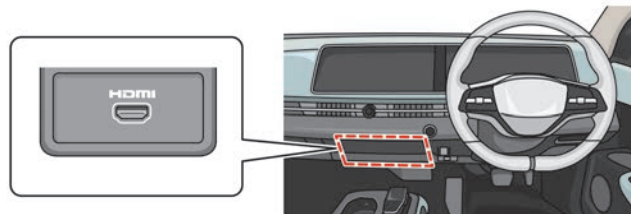
- ① タッチパネル（センターディスプレイ）
画面タッチでさまざまな機能の操作や設定をします。
- ② < 電源 / VOL > ダイヤル
押すごとにオーディオをON・OFFします。回すと音量を調節します。
オーディオがOFFのときに回すとONになります。
- ③ < CAMERAスイッチ >
カメラの画面を表示します。
- ④ < 交通情報 > ボタン
交通情報をききます。

ステアリングスイッチの名称と機能



- ① < 音量 > スイッチ
音量を調整します。
- ② < 戻る / 進む > スイッチ
ラジオ／テレビの選局やiPodなどの選曲をします。
長押しすると、再生中の曲の早戻し、早送りができます。
- ③ < Google Assistant > スイッチ
Google アシスタントを起動します。
Apple CarPlay またはAndroid Auto™ 操作時に長押しすると音声で操作ができます。
- ④ < ハンズフリー > スイッチ
ハンズフリーフォン操作画面に切り替えたり、通話に应答したり終了したりします。

外部機器入力について



- HDMI端子は、センターボックス内にあります。
外部機器を接続して映像や音声を視聴できます。

機器接続 (Bluetooth®対応機器の接続)

Bluetooth®対応機器の初期登録外部機器入力について



Bluetooth®対応の携帯電話を使ってハンズフリーフォンとして使用したり、Bluetooth®対応のオーディオ機器を使ってBluetooth®オーディオとして使用したりすることができます。

ランチャーメニューの [] → [] → [機器接続] → [登録機器] → [登録] をタッチし、Bluetooth®対応機器のBluetooth®設定でデバイス検索し、[MY_CAR] を選択することで、Bluetooth®対応機器を登録します。

Bluetooth®対応機器の機種によって、パスキー入力が必要です。

※Bluetooth®対応機器の操作手順は、各社取扱説明書をご覧ください。

Google アプリおよびサービスについて

Google 搭載のNissanConnectインフォテインメントシステムでは、Google アプリおよびサービスをご利用いただけます。一部の機能については、インターネット接続やGoogle アカウントへのログインが必要です。

アプリ	機能
Google マップ	運転ルートの案内や近くの施設の検索などのナビゲーション機能が使え、最新の道路状況や地図が表示されます。
Google アシスタント	「OK Google」と話しかけるだけで、音楽再生、目的地設定、電話発信など、さまざまな機能を音声で操作できます。
Google Play	さまざまなアプリをダウンロードして使用することができ、音楽アプリなどのコンテンツを車内で楽しみいただけます。

Google アプリおよびサービスの利用にあたって必要なこと

Google アプリおよびサービスのご利用には、Google アカウントとインターネット接続が必要です。

Google アカウント

Google アカウントの作成は、以下のWEBサイトを参照してください。

<https://www.google.com/intl/ja/account/about/>



Google、Android、Google Play、Google マップ、およびその他のマークはGoogle LLCの商標です。

ご利用には、互換性のあるAndroid スマートフォンと互換性のある有効なデータプランが必要です。

インターネット接続

インターネット接続に関しては以下の2つの方法がございます。

1. お手持ちの携帯電話等のWi-Fi通信機器でインターネット接続する



ランチャーメニューの [設定] → [機器接続] → [Wi-Fi] → [Wi-Fi] をタッチしてONにし、Wi-Fiネットワークを選択します。パスワードを入力することで、Wi-Fi機器を登録します。

※Wi-Fi機器の操作手順は各社取扱説明書をご覧ください。

2. NissanConnect サービスに加入しインターネット接続する

NissanConnect サービスにご加入頂ければ外部のWi-Fi機器でインターネット接続せずにGoogle のアプリおよびサービスをご利用頂けます*。

【NissanConnect サービスとは】

車両搭載の通信機を利用して、快適で安心、便利な様々なサービスを提供しています。

例えば、遠く離れている場所からスマホのアプリでエアコンを作動させることができたり、車の鍵の閉め忘れがチェックでき、開いていたらリモート操作でロックができていたりします。

詳細については、次のWEBサイトを参照してください。

<https://www3.nissan.co.jp/connect.html>



* Google Playでダウンロードしたアプリをお使いの場合、NissanConnect サービスでの通信環境以外のインターネット接続も必要になります。

初期設定手順

- 初期設定を行う場合、車両を安全な場所に駐車してください。
- 初期設定手順は、以下のWEBサイトの動画でご確認いただけます。
https://www.nissan.co.jp/CATALOG/QR/CONNECT/OM/mov_gas_setting.html



1. <パワースイッチ>をONします。
2. ランチャーメニューの [設定] をタッチする。
3. 画面をスワイプして [ユーザー切替] をタッチする。
4. ユーザー画面上部の [設定] をタッチする。
5. プロファイルをタッチする。
6. ユーザープロファイル画面の [プロファイル設定] をタッチする。

NissanConnectインフォテインメントシステム

7. 言語を選択し、[開始] をタッチする。
8. Wi-Fiに接続するため、ネットワーク名を選び、パスワードを入力した後、[接続] をタッチする。
ただし、NissanConnect サービスにご加入いただいている場合、表示されません。
9. プロフィール名を入力し、[次へ] をタッチする。
10. プロフィールをカスタマイズする画面が表示されるので、各項目を設定する。
11. [設定完了] をタッチすると、完了します。

上記の初期設定手順は、WEBサイトの動画でもご確認くださいませす。

https://www.nissan.co.jp/CATALOG/QR/CONNECT/OM/mov_gas_setting.html

※初期設定の手順は予告なく変更される場合があります。

プロフィールのカスタマイズ項目

カスタマイズ項目	操作手順
NissanConnect サービス	NissanConnect サービスのIDとパスワードを入力しログインする。
アシスタントとアプリの設定	<ul style="list-style-type: none">● Google アカウントと連携させるため、画面表示の二次元コードを携帯電話のカメラで読み取り、携帯電話の表示に従い、Google にログインしてください。● あるいは、画面の[別の方法] をタッチし、Google アカウントのIDとパスワードを入力しログインしてください。
スマートフォンをBluetoothで接続	<ul style="list-style-type: none">● Bluetooth®接続をオンにした機器のデバイス名を選択してください。● [ペア設定する] をタッチすると、Bluetooth®機器にもBluetooth®ペア設定コードが表示されるため、同じであることを確認し、ペアリングを許可し接続する。

カスタマイズ項目	操作手順
プロファイルのロック	パターンコード、PINコード、パスワード、プロファイルロックを使用しないの4種類の設定ができます。画面の指示に従い設定します。

※Wi-Fi設定を含め各項目はスキップできます。後から設定する手順は、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」をご確認ください。

Google アプリおよびサービスに関するお問い合わせ

Google アプリおよびサービスに関するお問い合わせは、次のWEBサイトを参照してください。

<<https://support.google.com/built-in/#topic=9858252>>



安全に車を使用するための注意事項

正しい運転姿勢に調節する	P.34
正しいシートベルトの着用	P.34
SRSエアバッグの効果を最大限発揮する	P.35
お子さまを乗せるときは	P.36
電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響	P.36
車両に積んではいけないもの、積むときの注意	P.37
不正改造の影響、電装品装着の注意	P.37
フロアカーペットの正しい装着	P.38

運転時の注意事項

天候（雨、雪）や路面状況に応じた運転	P.39
緊急時の車両停止方法	P.40
運転支援機能の使用上の注意	P.40

安全に車を使用するための注意事項

正しい運転姿勢に調節する



走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調節し、ドアミラー、ルームミラーなどを後方視界が十分確認できる位置に調節してください。

正しいシートベルトの着用

走行前に必ず次のことを守り、シートベルトを正しく着用してください。



妊娠中のシートベルトの着用に関する注意

- 妊娠中や疾患のある方も医師に注意事項を確認の上、万一のときのためにシートベルトを着用してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

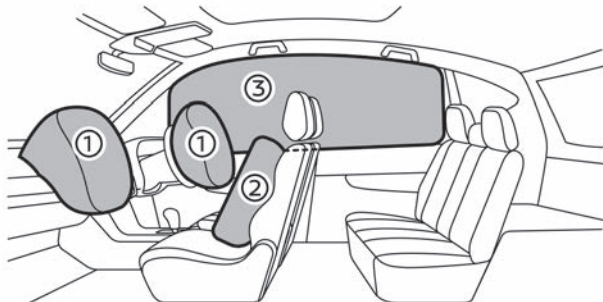
安全に車を使用するための注意事項

SRSエアバッグの効果を最大限発揮する

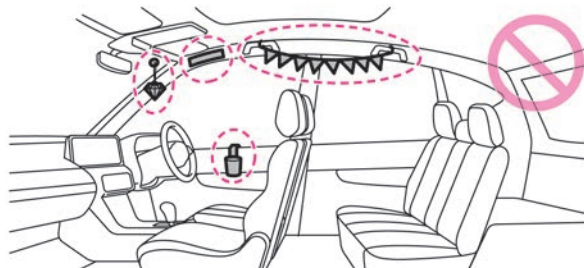
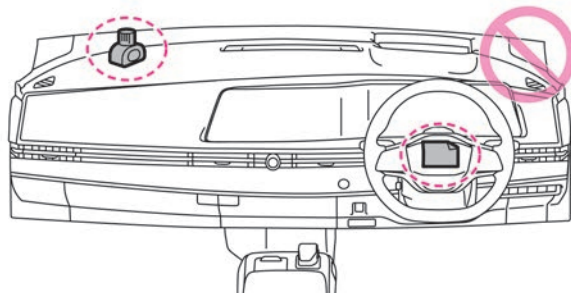
SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの種類

- ① SRSエアバッグ（前席）
- ② SRSサイドエアバッグ（前席）
- ③ SRSカーテンエアバッグ



SRSエアバッグの注意事項



次のSRSエアバッグ格納部付近に何かを付けたり、置いたり、かけたりしないでください。SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

- ハンドルのパッド部
- 助手席ダッシュボード上部
- フロントガラス
- ドアガラス
- ドア
- フロントピラーおよびリヤピラー
- ルーフサイドレール
- アシストグリップ

安全に車を使用するための注意事項

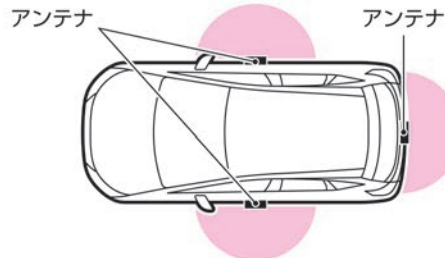
お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは次のことを必ずお守りください。思わぬ事故や重大な傷害を受けるおそれがあります。



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用してください。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けることを推奨します。
- お子様が操作できないように、チャイルドセーフティドアロックやパワーウインドーロックスイッチを使用してください。
- 車から離れるときは、必ずお子さまと一緒に降ろしてください。炎天下では車内が高温になり、生命にかかわるおそれがあります。

電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響

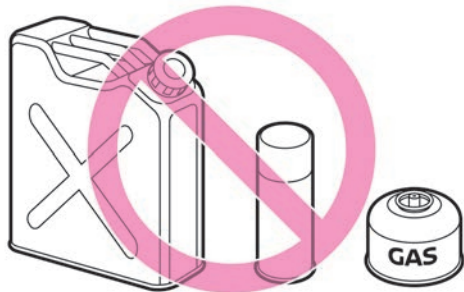


インテリジェントキーについて

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけないでください。ドアおよびバックドア開閉時、ドアにあるスイッチ操作時、電気自動車やe-POWERシステム、またはエンジン始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用してください。キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

安全に車を使用するための注意事項

車両に積んではいけないもの、積むときの注意



燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まないでください。引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れれない。また、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。

荷物を積みすぎない

- 助手席や後席に荷物を重ねて積まないでください。急ブレーキなどのとき荷物が落ちてきて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

不正改造の影響、電装品装着の注意

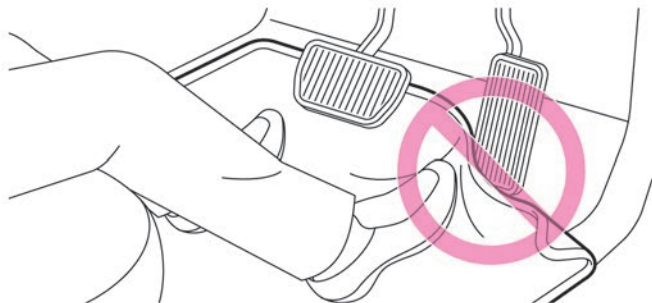


日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しないでください

- 正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

安全に車を使用するための注意事項

フロアカーペットの正しい装着



運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守ってください

- 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しないでください。
- フロアマットをすべての固定フック（クリップ）で、正しい位置にしっかりと固定してください。
- 運転する前、電源ポジションがOFFの状態でごペダルをいっばいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

運転時の注意事項

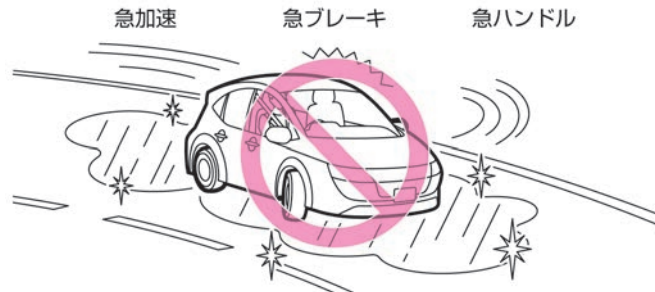
天候（雨、雪）や路面状況に応じた運転

雨天時の走行



- 路面がぬれると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転を心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。特に摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン破損や車両事故につながるおそれがあります。

雪道の走行



滑りやすい路面の走りかた

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離をとり、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。

走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効が悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、低速走行でブレーキを軽く踏み、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

緊急時の車両停止方法

緊急の場合以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止すると、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。

非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。

非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

ガソリンエンジン車

緊急時など、走行中に強制的にエンジンを停止させるときは、次の操作を行ってください。

- <エンジンスイッチ>を2秒以上押し続ける。

e-Power車、EV車

緊急時など、走行中に強制的にEVシステム、またはe-Powerシステムを停止（<パワースイッチ>OFF）させるときは、次の操作を行ってください。

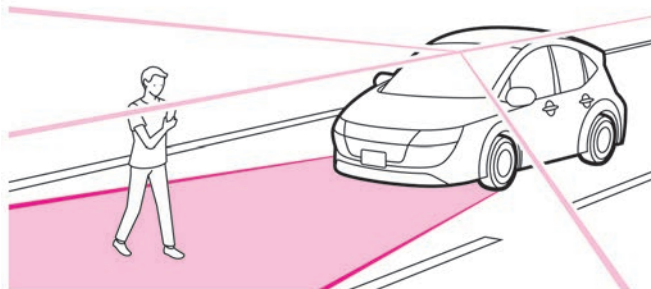
- <パワースイッチ>を2秒以上押し続ける。

運転支援機能の使用上の注意

運転支援機能は、自動で運転する装置ではありません。運転者は交通法規を遵守し、常に周囲に注意し、道路・交通・自車の状況に応じハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。

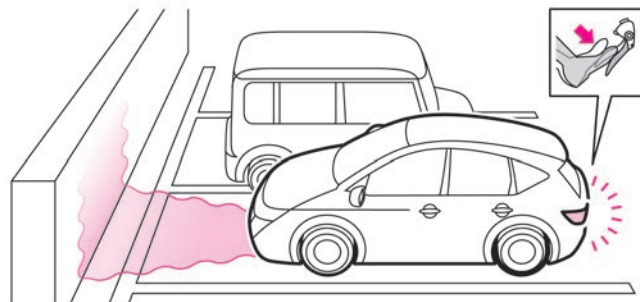
詳細については、取扱説明書（電子）をご覧ください。

インテリジェントエマージェンシーブレーキについて



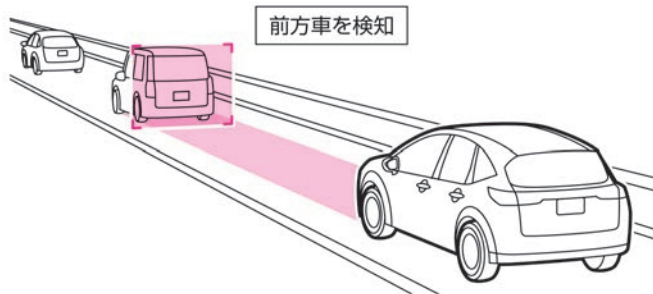
- インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持してください。
- 次のような障害物は検知しません。
 - 子供などの背の低い人、動物
 - 対向車両
 - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）
- システムは車両の後端を認識するため、次の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
 - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
 - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
 - 前方を横切って通過する車両
 - 斜めもしくは前向きに止まっている車両

踏み間違い衝突防止アシスト機能について



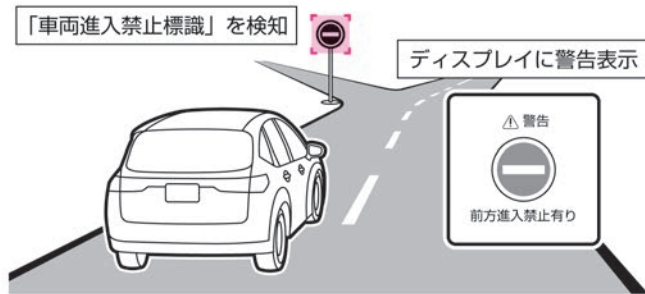
- 踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

プロパイロットについて



- プロパイロットは自動で運転する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。
- プロパイロットは高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。
- プロパイロットは同一方向に走行する車両を検出し、車間距離を保つようアクセル、ブレーキを制御します。
- プロパイロットは車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方から車両が近づいてきても反応しません。
- プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。
- プロパイロットを解除せずに降車しないでください。

標識検知機能について



- 走行中は必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。
- マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。
- 標識の近傍にある補助標識は検知しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

トラブルがおきたときは

まずはじめに

故障したときは	P.44
発炎筒	P.45
けん引について	P.45

緊急時の対処法

パンクしたときは	P.49
ドアが開かないときは	P.53
充電コネクタロックが解除できないときは	P.53
EVシステムを始動できないときは	P.54
12Vバッテリーがあがったときは	P.54
出力制限表示灯が点灯したときは	P.58
リチウムイオンバッテリーの残量がなくなったときは	P.59
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.60
窓ガラスがくもったときは	P.61
雪道やぬかるみにはまったときは	P.62
水没したときは	P.62
外装ランプが点灯しないときは	P.63
ヒューズが切れたときは	P.63

まずはじめに

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

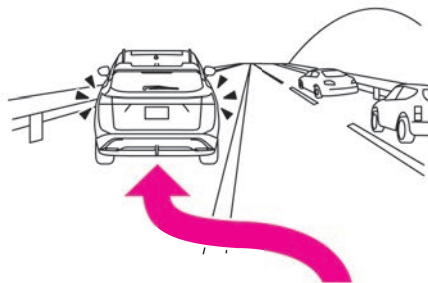
⚠ 警告

- 発炎筒はトンネル内では使用しない。
煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。非常点滅表示灯を使ってください。

⚠ 注意

- 走行中にメーター内の走行可能表示灯【READY】が消灯したときは、慎重に運転する。
故障により走行可能表示灯が消灯すると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。すみやかに安全な場所に停車してください。

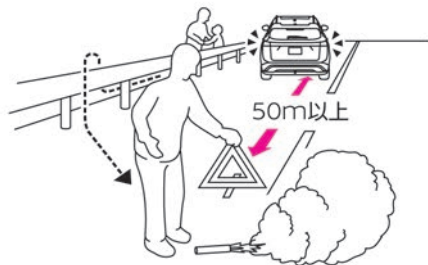
1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
路肩がない場所では、可能な限り広いところまで自走します。



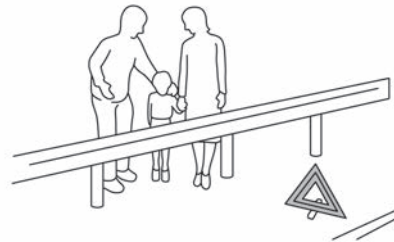
2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。

➡ WEB

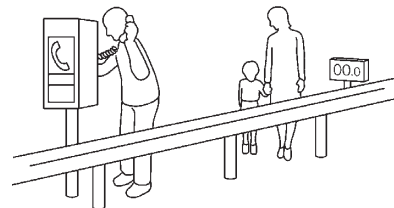
避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。



3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。



4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。



🚗 アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。

まずはじめに

- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

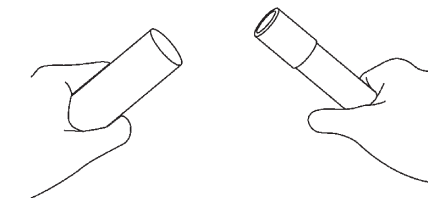
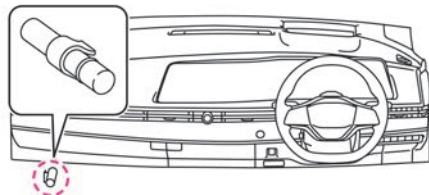
発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

発炎筒の使いかた

⚠ 警告

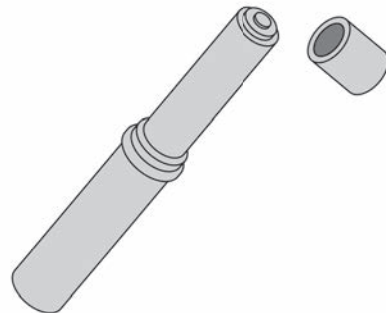
- **お子さまには触らせない。**
いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
やけどをするおそれがあります。

1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。



2. 本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。

3. 先端のふたを取り、ケースのすり藁で発炎筒の先端をこすって着火しませず。



🚗 アドバイス

- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

やむをえずけん引されるときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

この車両で他車をけん引することはできません。

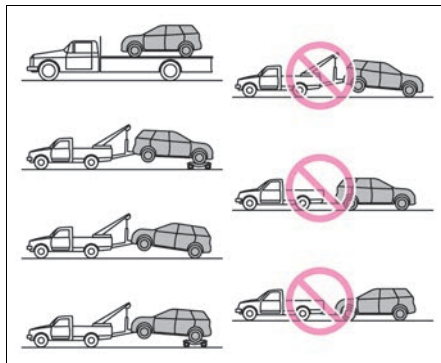
まずはじめに

けん引時の注意事項

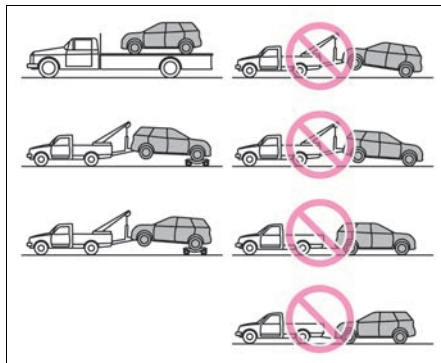
⚠ 注意

- **2WD車の前輪を持ち上げてけん引するときは、<パワースイッチ>をOFFにする。**
VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。
- 車両が動かなかったり、異常な音が生じたりするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE (4WD) 車は4輪を持ち上げてください。
- やむをえず4輪接地の状態ではけん引されるときは、(👉WEB)をお読みください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷付けないように注意してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。
- けん引中は、e-Pedal StepをOFFにしてください。
- けん引中は、フロパイロットをOFFにしてください。
- けん引中は、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしてください。

2WD車



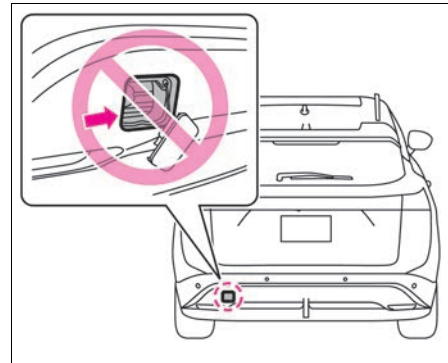
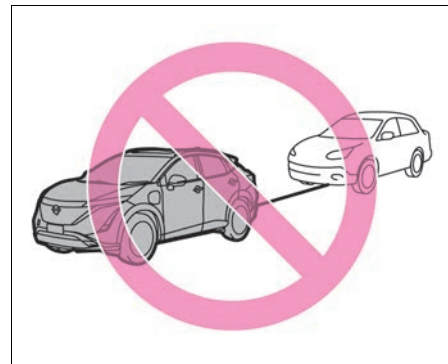
e-4ORCE (4WD) 車



リヤフックについて

後ろ側についているフック取り付け穴は船舶輸送時の固定専用です。

けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対使用しないでください。



🚗 アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

まずはじめに

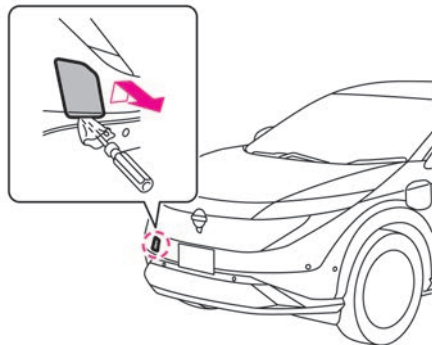
やむをえず4輪接地でけん引される ときは

⚠ 警告

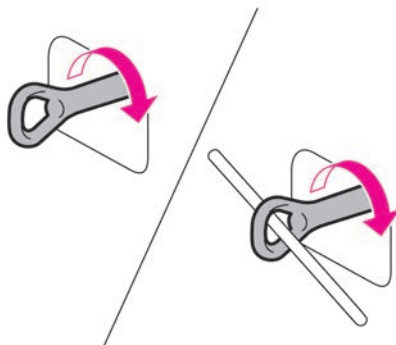
- 4輪接地でけん引される時は、<パワースイッチ>をOFFにしない。
この車両は、オートP機能(⌚WEB)により、<パワースイッチ>がOFFのときはシフトポジションをPからNに切り替えることができません。そのため、12Vバッテリーあがりなどで<パワースイッチ>がOFFから切り替えられないときは、4輪接地の状態ですけん引できません。

⚠ 注意

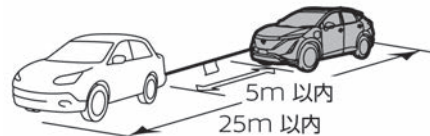
- けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。
フック部が破損するおそれがあります。
 - 長い下り坂ではけん引しない。
ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。
 - やむをえず4輪接地の状態ですけん引される時は、シフトポジションNにした状態で行ってください。
 - 4輪接地ですけん引してもらうときは、速度30km/h以下で路肩に寄せる程度の移動のみとしてください。
1. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。



2. 金属の固い棒などを使用して、けん引フックを取り付けます。
⌚WEB



3. 自転車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm×30cm以上の白い布を取り付けます。



4. EVシステムを始動しシフトポジションをNにして、パーキングブレーキを解除します。
EVシステムが始動できないときは<パワースイッチ>をONにし、シフトポジションNにしてください。

🚗 アドバイス

- 4輪接地の状態ですけん引される時は、EVシステムを始動するか<パワースイッチ>をONにしてシフトポジションをNにした状態で行ってください。
<パワースイッチ>がOFFのときは、オートP機能によりシフトポジションをNに切り替えられないため、けん引することができません。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。

まずはじめに

- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両には、スベアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

- タイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については日産販売会社または専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- シフトポジションをPにする。
- <パワースイッチ>をOFFにする。
- 非常点滅表示灯を点滅させる。
- 次の場合はタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。
 - 約5mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

- タイヤサイド部が損傷を受けたとき
- ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 修理剤の有効期限が切れているとき

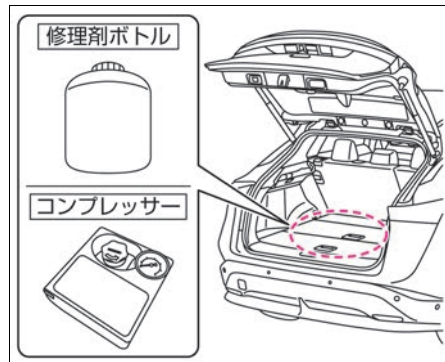
アドバイス

- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにタイヤ応急修理キットで応急修理してください。

タイヤ応急修理キットについて

※車種により、タイヤ応急修理キットの内容や部品形状が異なります。

- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、タイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内のフロアカバー★またはラゲッジボードの下に格納されています。
➔ WEB
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに日産販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。



応急修理のしかた

⚠ 注意

- ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。
- ホースとタイヤのバルブの接続をしっかり行う。接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散ったりするおそれがあります。
- 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。
- タイヤに亀裂や変形が生じている場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、修理を中止する。

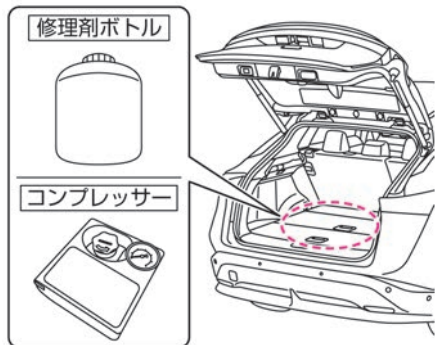
緊急時の対処法

バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほどで下がります。

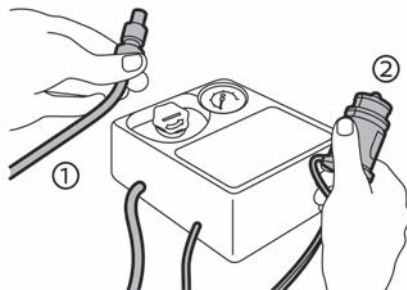
- 空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。

■ コンプレッサーの準備

1. ラゲッジルームからタイヤ応急修理キットを取り出します。



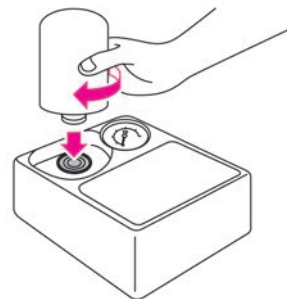
2. コンプレッサーからホース①、電源プラグ②を取り出します。



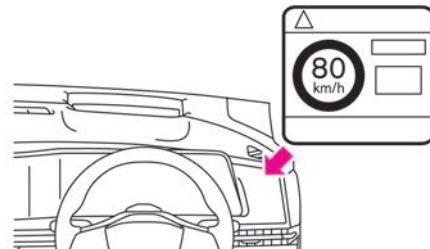
3. コンプレッサーから、ボトルホルダーのキャップを外します。



4. 修理剤ボトルのキャップを外し、内ぶたを付けたままボトルホルダーに取り付けます。
(ボトルホルダーにねじ込むと内ぶたが破れます。)



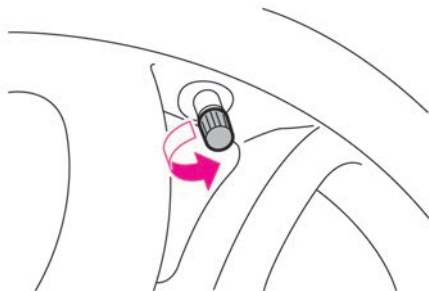
5. コンプレッサーの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。



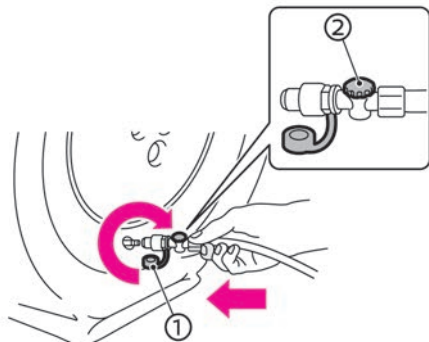
■ エアの注入

1. パンクしたタイヤのバルブからキャップを外します。

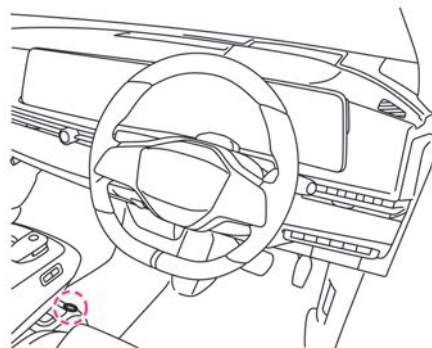
緊急時の対処法



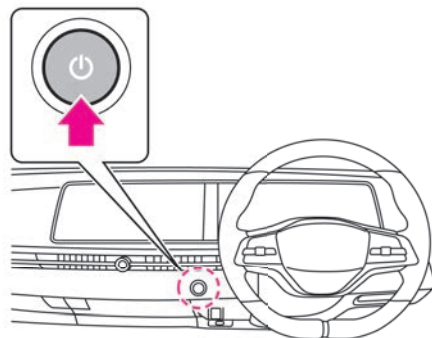
2. ホース先端の保護キャップ①を外し、ホースをパンクしたタイヤのバルブに確実にねじ込みます。このとき、排気バルブ②が閉まっていることを確認してください。



3. コンプレッサーのスイッチがOFF（「O」の位置）の状態、電源プラグを車室内の電源ソケットに差し込みます。



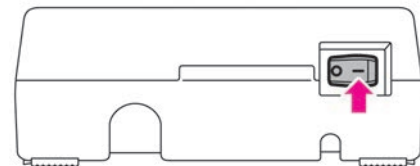
4. <パワースイッチ>をONにします。



5. コンプレッサーのスイッチをON（「I」の位置）にし、タイヤを指定空気圧または180kPa以上になるまで空気を充てんします。この際、実際の空気圧が測れるようにコンプ

レッサーを一時停止して空気圧計で測定してください。

※タイヤの指定空気圧は、運転席ドア開口部に表示されています。



6. 指定空気圧または180kPa以上まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「O」の位置）にし電源プラグを電源ソケットから抜きます。
7. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

🚗 アドバイス

- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。
- 修理剤ボトルは、コンプレッサーのボトルホルダーから取り外さないでくだ

緊急時の対処法

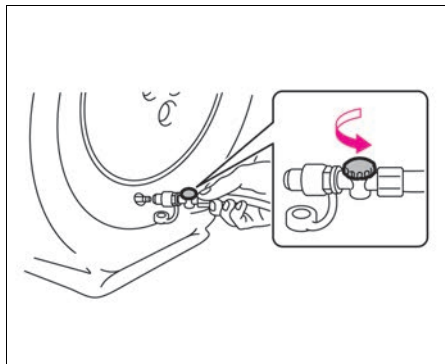
さい。取り外すとボトル内に残った液剤がこぼれるおそれがあります。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理をすることはできません。日産販売会社またはJAFなどに連絡してください。

空気を入れすぎてしまったとき

排気バルブを反時計回りに回して、空気を抜いてください。



■ 点検走行

⚠ 注意

- 走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。

1. ただちに走行を始め、10分間または3km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認します。コンプレッサーからのホースをタイヤのバルブに取り付け、タイヤ空気圧を確認してください。

🚗 アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、日産販売会社または修理会社で点検を受けてください。
- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「|」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに日産販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

タイヤ応急修理キットの注意事項

⚠ 注意

タイヤ応急修理キットについて

- タイヤ応急修理キットは搭載車両専用のため、他の車には使用しない。
- タイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充てんや空気圧チェック以外で使用しない。
- タイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。
- 分解、改造などは絶対にしない。
- コンプレッサーに衝撃を与えない。故障の原因となります。
- お子さまが誤って手を触れないように注意する。

修理剤について

- 修理剤を口に入れない。修理剤を飲み込むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- 万一、目や皮膚に付着したときは、水でよく洗い流す。それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

🚗 アドバイス

- タイヤ応急修理キットは、必ず日産純正品を使用してください。

緊急時の対処法

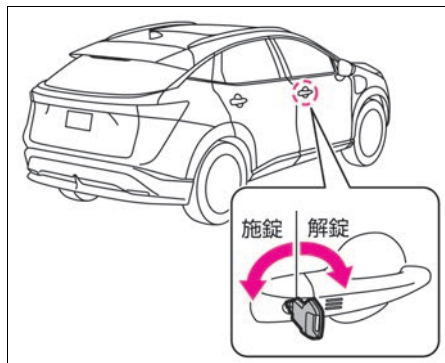
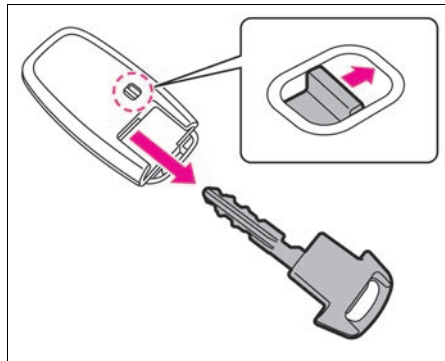
- 水やほこりを避けて使用してください。

ドアが開かないときは

インテリジェントキーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた

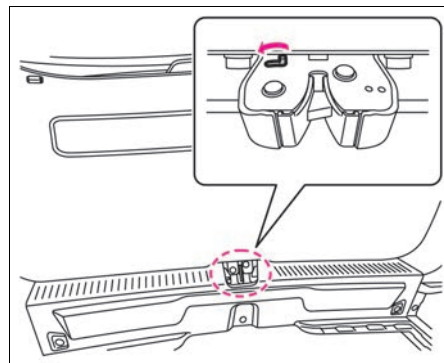
運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両前方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両後方に内蔵キーを回します。



緊急時のバックドアの開けかた

12Vバッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

- お手持ちの工具（プラスドライバーまたはマイナスドライバーなどの細い工具）を使用して、バックドアの車室内側にあるロック機構のレバーを矢印の方向に動かして解錠し、バックドアを持ち上げます。



🚗 アドバイス

- 次の手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- <バックドアオープナースイッチ>などの故障につながるおそれがあるため、操作をしたときは日産販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く日産販売会社で点検を受けてください。

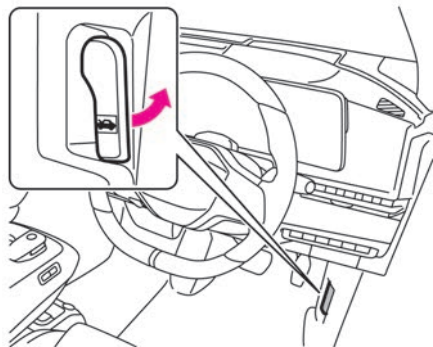
充電コネクタロックが解除できないときは

緊急時の充電コネクタロックの解除のしかた

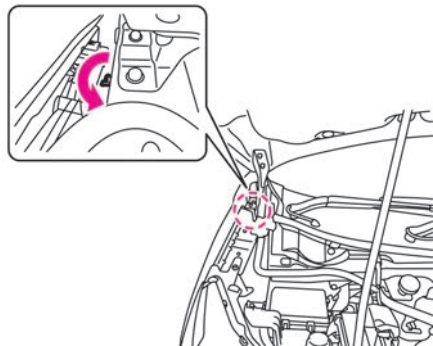
1. ボンネットを開けます。
👉 WEB

緊急時の対処法

トラブルがおきたときは



2. お手持ちの工具（プラスドライバーまたはマイナスドライバーなどの細い工具）を準備します。
3. 充電ポート上部にあるレバーを矢印の方向に約60度回すと、ロックが解除されます。



アドバイス

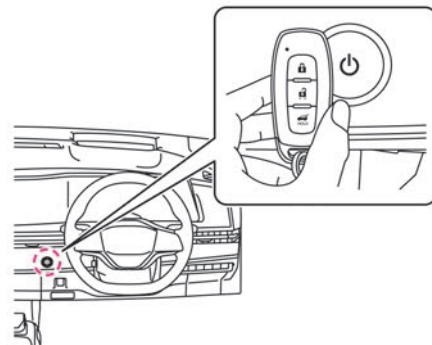
- この手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは行わないでください。
- 故障の原因になるため、矢印と逆方向には回さないでください。

EVシステムを始動できないときは

キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でEVシステムを始動してください。

始動のしかた

1. <パワースイッチ>を押してから、キーのロゴの裏面を<パワースイッチ>に接触させます。
(ブザーが“ピピッ”と鳴ります)



2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を押します。
- ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）(WEB) をご使用ください。
 - キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
- WEB

アドバイス

- 上記の手順でEVシステムを始動できない場合は、早めに日産販売会社に連絡してください。

停止のしかた

EVシステムを停止するときは、<パワースイッチ>を長押ししてください。

12Vバッテリーがあがったときは

12Vバッテリーがあがり、EVシステムの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

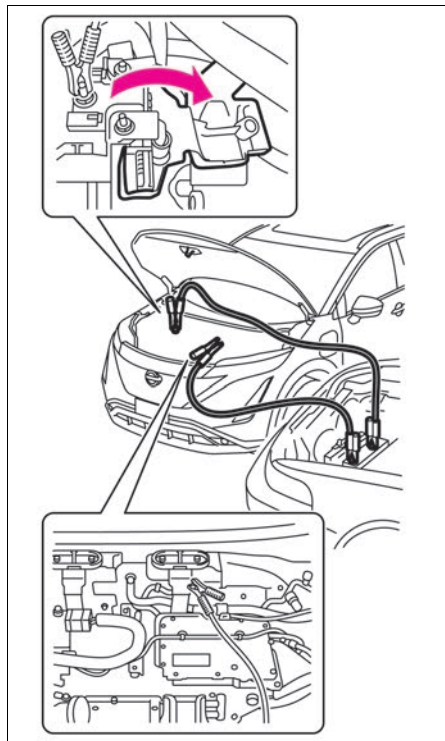
警告

- ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。

緊急時の対処法

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。**
- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**
火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
しっかりと固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。



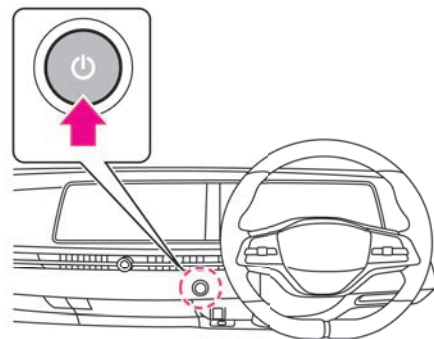
ジャンプスタートのしかた

⚠ 注意

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**
救援車のエンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**
ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

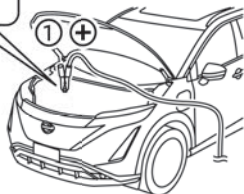
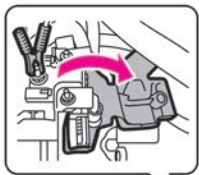
1. 自車と救援車の<パワースイッチ>をOFFにします。

👉 WEB

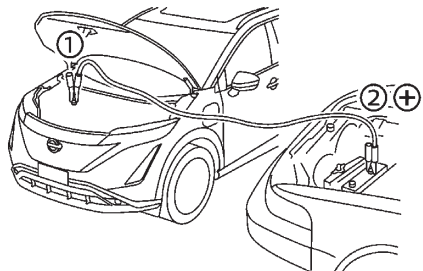


緊急時の対処法

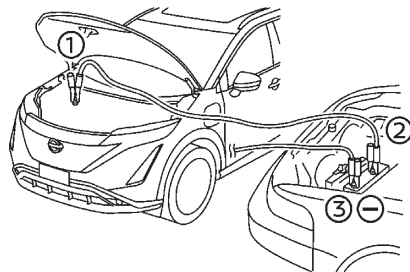
2. ブースターケーブルを自車のヒューズボックス横の⊕端子に接続します。



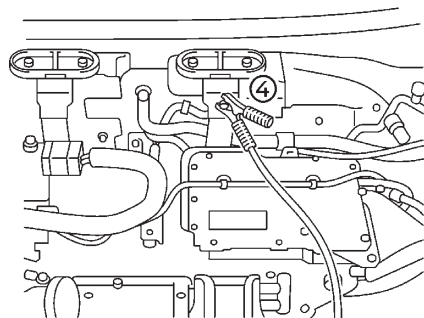
3. 手順2のケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



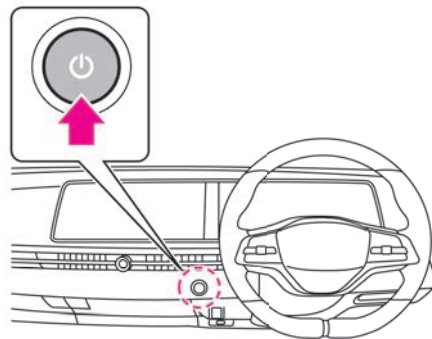
4. もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。



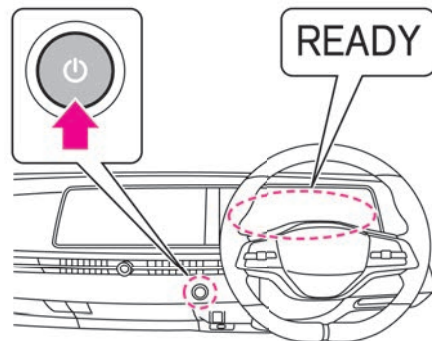
5. 手順4で接続したケーブルの反対側を自車の車体（2の手順で接続した⊕端子から離れたステーなど）に接続します。



6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
7. 自車のブレーキペダルをしっかりと踏みながら、＜パワースイッチ＞を一回押します。



8. 走行可能表示灯が点灯したことを確認し、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。



- ジャンプスタートを行ったあと、メーターに「ヘッドランプ警告」が表示された場合は、パワースイッチをOFFにして運転席ドアを一度開閉し、そのまま何も操作せず3分以上経過してから、もう一


緊急時の対処法

度パワースイッチをONにすると警告を消灯できます。






アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- ジャンプスタートを行うときは、充電ケーブルを取り外してください。車両または充電機器を破損するおそれがあります。

出力制限表示灯が点灯したときは

外気温が高いときや連続で高速走行や登坂走行をしたとき、また、急速充電を繰り返したときは、リチウムイオンバッテリーの温度が上がり、出力制限表示灯 [] が点灯する場合があります。

出力制限表示灯が点灯したときは、加速性能や回生ブレーキ性能が制限されることがあるため、次の対処方法に従ってください。

点灯したときの状況	対処方法	注意事項
走行中に出力制限表示灯 [] が点灯したとき	<p>高速道路を走行しているとき 80km/h以下で走行してください。次のパーキングエリアまたはサービスエリアで車両を止め、出力制限表示灯 [] が消灯するまで待ちます。</p> <p>一般道を走行しているとき 安全な場所に停車し、出力制限表示灯 [] が消灯するまで待ちます。</p>	出力制限表示灯 [] が消灯しないときは、日産EVカスタマーセンター (0120-230-834) にご連絡ください。
急速充電で出力制限表示灯 [] が点灯したとき	リチウムイオンバッテリーを冷やすため、<パワースイッチ>をOFFにし、出力制限表示灯が消灯するまで待ちます。(可能な場合、日かげで照り返しのない場所に移動してから待ちます。)	

リチウムイオンバッテリーの残量がなくなったときは

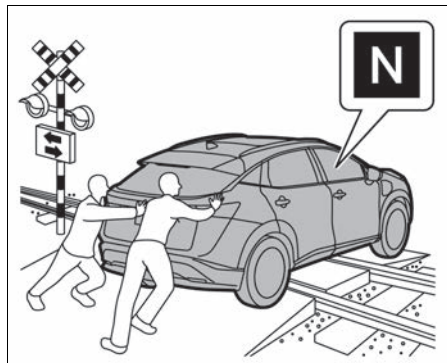
リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなると、メーター内の走行可能表示灯 [READY] が消灯し走行できなくなります。

バッテリーの残量が完全になくなったときの対処のしかた


リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなったときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産EVカスタマーセンター (0120-230-834) にご連絡ください。

万一、安全な場所に移動する前に走行できなくなったときは、付近の人に応援を求め、車両を手で押して安全な場所に移動してください。

このとき、<パワースイッチ>をONにして、シフトポジションをNにします。



アドバイス

- 救援を待つ間は、<パワースイッチ>をOFFにしてください。<パワースイッチ>をONのままにしておくと、12Vバッテリーがあがるおそれがあります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなると、メーター内の走行可能表示灯 [READY] が消灯し、シフトポジションも自動的にNに切り替わるため、自力での走行ができなくなります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなり、車両が停止するときに振動が発生することがありますが、異常ではありません。
- リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなったときは、リチウムイオンバッテリー残量警告灯 [] (黄色) が消灯 (白色) するまで充電してください。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ... (数秒間)	ドアハンドルのセンサーに触れたとき	走行可能表示灯 [READY] が点灯していないか キーを車室内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアハンドルのセンサーを触れていないか、またはバックドアのスイッチを押していないか
		バックドアのスイッチを押したとき	走行可能表示灯 [READY] が点灯していないか キーを車室内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか
		キーの<ドア施錠スイッチ>を押したとき	走行可能表示灯 [READY] が点灯していないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に<ドア施錠スイッチ>を押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアハンドルのセンサーを触れていないか、またはバックドアのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ (3回)	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯 [READY] が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
	ピッピッピッ... (約30秒)	充電コネクタを接続したとき	充電コネクタが正しく接続されているか
	ピピピピ... (数秒間)	大雨もしくは洗車で大量の水がドアハンドルにかかったとき	インテリジェントキーを車両から2m以上離すと鳴りやむか スリープモード (🔌WEB) を作動させると鳴りやむか
キー (金属音)	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド (摩擦材) が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。	

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ポロポロポロ (3回)	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯 [READY] が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
		<パワースイッチ>を押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ポロポロポロ... (繰り返し)	運転席ドアを開けたとき	<パワースイッチ>がONのままになっていないか シフトポジションをPにしているか

窓ガラスがくもったときは

フロントガラスのくもりの取りかた

⚠ 注意

- <デフロスタースイッチ>をONしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。
フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。
 - <デフロスタースイッチ>を押すとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。(<デフロスタースイッチ>がオレンジ色に点灯)
<パワースイッチ>がONのとき使えます。
 - 止めるときは、もう一度スイッチを押します。(<デフロスタースイッチ>が白色に点灯)
- デフロスタースイッチ (👉WEB)

アドバイス

- <デフロスタースイッチ>をONしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。
- <デフロスタースイッチ>は、連続して長時間ONにしないでください。消費電力が多いため、航続可能距離が減少する原因になります。

バックドアガラスのくもりの取りかた

- <リヤデフォグスイッチ>を押すと約15分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。(<リヤデフォグスイッチ>がオレンジ色に点灯)
<パワースイッチ>がONのとき使えます。
 - 止めるときは、もう一度スイッチを押します。(<リヤデフォグスイッチ>が白色に点灯)
- リヤデフォグスイッチ (👉WEB)

アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため12Vバッテリーあがりの原因になります。
- <リヤデフォグスイッチ>を押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

■ ワイパーデアイサー★

- フロントガラスを温めて、ガラス下端にたまった雪を取り除きやすくします。
<リヤデフォグスイッチ>を押すと約15分間作動します。(<リヤデフォグスイッチ>がオレンジ色に点灯)
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。(<リヤデフォグスイッチ>が白色に点灯)

アドバイス

- ガラスにたまった雪はこまめに取り除き、視界を確保してください。

緊急時の対処法

雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったりしたときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

⚠ 警告

- 周囲の安全を必ず確認する。
周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何も無いことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- 必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。
急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。
タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1. VDCをOFFにします。
➡ WEB
2. 車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。

3. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。

🚗 アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

⚠ 警告

- 水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車室内に入り、ケガをするおそれがあります。

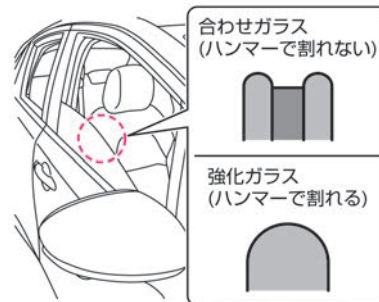
緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

- フロントウインドーガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。バックドアガラスを割って脱出してください。
- ドアガラスは車種によって、合わせガラスを使用しています。ただし、車両の仕様変更により合わせガラスの位置が異なる場合があります。合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。

ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法



- ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。

Eマーク



■ 合わせガラス：XI、V-XI
■ 強化ガラス：無印、V

JISマーク



■ 合わせガラス：L
■ 強化ガラス：T

緊急時の対処法

※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない、またはガラスの種類を示す表示の位置が異なる場合があります。

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- <パワーウィンドウスイッチ>を押しても窓ガラスが開かない場合、次の方法で脱出してください。
 - ー 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
 - ー 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。（車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます）
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

外装ランプが点灯しないときは

外装ランプが点灯しないときは、日産販売会社にご相談ください。

- 外装ランプはすべてLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は日産販売会社で点検を受けてください。
- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。またヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもると同様の現象で、機能上の問題ではありません。またレンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

ヒューズが切れたときは

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。

MEMO

トラブルがおきたときは

電気自動車の機能

安全にご利用いただくために	P.66
便利なサポート機能	P.66
充電に関する注意事項	P.67
充電する	P.69

安全なドライブのために

運転する前に	P.70
シートベルト	P.71
エアバッグ	P.72
お子さまの安全のために	P.74

メーターの見かた

ヘッドアップディスプレイ★	P.81
---------------	------

各部の操作

キー	P.82
ドアの施錠と解錠	P.82
シート・ハンドルの調節	P.84
ミラーの調節	P.85
窓ガラスの開閉	P.85
エアコンの操作	P.86
NissanConnectインフォテインメントシステム	P.87

運転のしかた

始動する	P.88
運転する	P.88

ランプをつける、ワイパーを使う	P.89
-----------------	------

運転支援機能	P.90
--------	------

駐車支援システム	P.107
----------	-------

室内装備

収納装備	P.112
------	-------

その他の室内装備	P.112
----------	-------

電気自動車の機能

安全にご利用いただくために

電気自動車 (EV) の取り扱いに関する注意事項

⚠ 警告

- **高電圧部位には触れない。**
最大で約400Vの直流高電圧が使用されているため、高電圧ケーブルやコネクタ、高電圧部品（走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなど）には触れないでください。感電すると生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。車両のモータールーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。
- **高温に注意する。**
走行直後は走行用モーター、インバーターなど高電圧部品が高温になっている可能性があります。車両のモータールーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

電気自動車 (EV) が事故にあったときの注意事項

⚠ 警告

- **高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れない。**
高電圧部品および高電圧ケーブルの位置は、(👉WEB)を確認してください。
- **リチウムイオンバッテリーから液漏れが見られる場合は、すみやかに日産販売会社に連絡する。**
火災が発生するおそれがあります。
- **車室内や車外に液体が漏れているときは絶対に触れない。**
万一、リチウムイオンバッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。

- **走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷が無い点検する。**
床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずすみやかに日産販売会社にご連絡ください。
- **リチウムイオンバッテリーや高電圧部品から火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れる。**
火災を消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BCまたはCタイプ）を使用してください。消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。不適切な消火作業は危険なため、絶対に行わないでください。
- **けん引が必要なときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE (4WD) 車は4輪を持ち上げてけん引する。**
けん引時に前輪 (2WD車) または4輪 (e-4ORCE (4WD) 車) が接地しているとき、走行用モーターが損傷するおそれがあります。

👉WEB

- **事故などで車両が損傷した場合は、車両から離れ日産販売会社に連絡する。**
- **事故などで車両が損傷し、板金・塗装による修理が必要な場合は、必ず日産販売会社に連絡する。**

便利なサポート機能

V2L (普通充電ポート) ★

⚠ 警告

- **お客さまが接続される電気製品の取扱説明書や製品に記載の警告・注意事項を守って使用する。**
火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

- **故障した電気製品や破損した電源プラグ、水没や浸水した、またはそれらのおそれのある電気製品は使用しない。**
火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。
- **アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子を備えたコンセントにプラグを差し込み、アース線をアース端子に接続して使用する。**
使用する電気機器のプラグ形状が、車両側コンセントのプラグ形状と一致しない場合は、市販の変換アダプタを使用してアース線を接続してください。

⚠ 注意

- **お子さまだけではV2Lシステムの電源コンセントに触らせない。**

V2L (普通充電ポート) について

⚠ 警告

- **家庭内のコンセントや配電盤にV2L (普通充電ポート) を接続し、電源として使用しない。**
- **V2L (普通充電ポート) を使用するときに濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
感電のおそれがあります。
- **V2L (普通充電ポート) を使用するときは、コンセントに水をかけないように注意する。**
感電のおそれがあります。
- **V2L (普通充電ポート) を使用するときに金属製の鋭利なもの (針、ワイヤーなど) をコンセントに差し込まない。**
感電のおそれがあります。
- **V2L (普通充電ポート) に関連する部品の分解や修理、改造は行わない。**
感電のおそれがあります。

電気自動車の機能

- 車の外で電気製品を使用しているときは、雷が鳴ったらすぐに使用を中止してコンセントから抜く。
感電や火災の危険があります。

⚠ 注意

- V2L（普通充電ポート）を使用するときは、車両から離れない。
- V2L（普通充電ポート）をONにするときは、接続されている電気機器の電源がOFFになっていることを確認する。
電気製品の電源が入っていると、電気製品が突然動作することがあります。
- V2L（普通充電ポート）を使用して電気自動車やプラグインハイブリッド車などへの充電はしない。
- 接続する電気製品のプラグを、確実にコンセントの根元まで挿入して使用する。
- コンセントに接続できる電気器具は1つだけです。
- ACアダプター付プラグを直接コンセントに取り付けない。
ACアダプターの重さにより、プラグが抜けかかると、場合によっては発熱のおそれがあります。
- 電化製品に電源スイッチがない場合は、まず電化製品を電源コンセントに接続してから、V2L（普通充電ポート）の電源を入れる。
- 急な停車による機器の損傷やデータの損失（ノートパソコンや外付けハードドライブなどから）については、保証の対象外です。
- 電源コンセントに接続された外部機器による車両の損傷は保証の対象外です。
- V2L（普通充電ポート）の電源コンセントやプラグが熱くなることがあるため、デバイスを取り外すときは注意する。

- 外部電源（ソーラーパネルや外部バッテリーなどから）をコンセントに接続しない。
- 車室内で電気製品を使用するときは、転倒防止のため、安定した場所に設置する。
けがのおそれがあります。
- V2L（普通充電ポート）を使用して車外で電気製品を使用するときは、ドアや窓に電源コードを挟まないように注意する。
- V2L（普通充電ポート）を使用しないときは、コンセントのふたを閉める。
- EVシステム警告灯が点灯しているときは、V2L（普通充電ポート）を使用しない。
👉 WEBをお読みください。（V2L内部）
- コンセントに電気製品のプラグを差し込んだときに、緩いと感じた場合は日産販売会社に問い合わせる。
- 電源コンセントにほこりや汚れがたまらないようにする。
漏電の原因となります。
- タコ足配線をしなない。

AC外部給電コネクタ（V2L（普通充電ポート））の使いかた

⚠ 警告

- AC外部給電コネクタは分解、修理、改造、塗装などをしない。
AC外部給電コネクタが破損した場合は、日産販売会社にお問い合わせください。
- AC外部給電コネクタに強い衝撃や落下を与えない。
- AC外部給電コネクタを水で洗ったり、水やその他の液体に浸したりしない。

内部に水が入ると、使用中に火災や感電が発生し、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- AC外部給電コネクタにステッカーなどを貼らない。
- AC外部給電コネクタは子供の手の届かないところに置く。
- AC外部給電コネクタにほこりや汚れが付着しないようにする。
汚れた場合は固く絞った布で汚れを拭き取り、乾いた布で拭き取ってください。
- AC外部給電コネクタは他の車両に接続しない。また、日産純正以外のAC外部給電コネクタを車両に接続しない。
- AC外部給電コネクタにガソリン、酸、アルカリなどの溶剤を使用しない。
- 鋭い金属物（針、ワイヤーなど）をAC外部給電コネクタに挿入しない。
- 晴天時でもコンセントカバーをしっかりと閉めて使用する。
- AC外部給電コネクタの排水用の穴がふさがっていないか確認する。
この穴がふさがっているときは、AC外部給電コネクタを使用せず日産販売会社にご連絡ください。

⚠ 注意

- AC外部給電コネクタを使用しないときは、直射日光や湿気を避けて保管する。

充電に関する注意事項

充電に関する注意事項

⚠ 警告

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、機器におよぼす影響に

電気自動車の機能

ついて医療電気機器製造業者に確認してから充電作業を行う。(WEB)

- 異臭、煙、異音など充電中の異常、故障に気づいたときは使用を中止する。火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。
- 雷が鳴ったら、車両、6kW普通充電器(壁掛型)、急速充電器、充電ケーブル(コントロールボックス付)★に触れない。落雷により感電するおそれがあります。
- 濡れた手でプラグを触ったり、抜き差ししたりしない。感電のおそれがあります。
- 延長ケーブルや変換アダプターなどは絶対に使用しない。火災ややけどのおそれがあります。
- 雨や雪の日での充電は次のことを必ず守る。火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。
 - 一 大雨などでコンセント周辺が浸水するおそれがあるときは、充電専用のブレーカーを落としてください。
 - 一 万が一、充電ポートキャップ裏や内部が濡れた場合はふき取ってから充電を行ってください。
- 6kW普通充電器(壁掛型)、または充電ケーブル(コントロールボックス付)★の分解、修理、改造は絶対に行わない。火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- コードやケーブルを引っ張る、ねじる、折り曲げる、踏みつける、引きずるなどの行為をしない。コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- コードやケーブルを充電コネクタやコントロールボックスなどに巻きつける行為をしない。コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。

- プラグの本体部分を持ってコンセントに対してまっすぐに根元まで確実に差す。確実に差さないと異常発熱し、発火するおそれがあります。
- コードを引っ張ってプラグを抜かない。コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- 深い傷、割れ、破損、プラグが錆びているときなどの異常、故障時には使用しない。火災や感電のおそれがあります。
- プラグやコードを動かすと通電しなかったり、充電中に時々停止したりするときはただちに使用を中止する。コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- 異臭、煙、異音など充電中の異常、故障に気づいたときはただちに使用を中止する。コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- 電気工事の資格を持つ専門の業者が施工したEV専用コンセントを使用する。正しく使用しないと感電のおそれがあります。
- 内線規程に準拠したアースが繋がっているEV専用コンセントを使用する。正しく使用しないと感電のおそれがあります。
- コンセントの差し込みがゆるいとき、プラグがコンセントにロックされないとき、またはコンセント側に破損や変色などがある場合は使用しない。異常発熱し、発火するおそれがあるため、電気工事の資格を持つ専門の業者へ、コンセントの確認を依頼してください。
- 充電ケーブル(コントロールボックス付)★の定格電圧/電流(充電ケーブルのラベルに記載)に対して建屋側のコンセントや配線の容量が十分であるか確認する。建屋側の容量を超えて使用すると、配線が異常発熱し、発火するおそれがあります。
- 建屋配線の容量が不明な場合、電気工事士に確認する。

- 充電ケーブル(コントロールボックス付)★は日本国内でのみ使用する。

⚠ 注意

- 子供だけで使わせない。重大な事故につながるおそれがあります。
- 充電中は、ボンネットを開けない。モータールーム内の冷却用ファンが突然回転し始め、手足や衣類・アクセサリ類などが接触したり、巻き込まれたりするおそれがあります。
- 充電するときは、充電コネクタが根元まで差されていることを必ず確認する。充電コネクタが根元まで差されていないと、車両が充電コネクタを認識できずEVシステムを始動できてしまうため、車両が発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 充電ケーブル(コントロールボックス付)★を落下させない、強い衝撃を与えない、または水没させない。火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- プラグや充電コネクタへ異物を挿入したり、定格以外のコンセントに接続したりしない。火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 充電ケーブル(コントロールボックス付)★を保管するときは次のことに気をつける。
 - 一 直射日光を避けて保管してください。
 - 一 雨風にさらされないように保管してください。
 - 一 充電コネクタの端子部にゴミ、ホコリが入らないようキャップをして保管してください。
 - 一 コードやケーブルをコントロールボックスに巻き付けて保管しないでください。

電気自動車の機能

- コードやケーブルがねじれたままで保管しないでください

充電する

充電の種類

急速充電の注意事項

警告

- **必ずCHAdeMO（チャデモ）仕様の急速充電器を使用する。**
対応していない急速充電器を使用すると、火災や故障などのおそれがあります。

安全なドライブのために

運転する前に

運転前の準備

正しい運転姿勢について

⚠ 警告

- ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転するときに注意すること

⚠ 警告

車室内に人やペットを残さない

- お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意ください

- 診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けしないでください。12Vバッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れな

い。また、床やシートのすき間に落としたままにしない。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- ワイヤレス充電器付近にはガスライターなどを置かない。操作部が露出しているガスライターをワイヤレス充電器付近に置くと、電動センターコンソールボックスを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- 事故などでランプが破損したまま走行しない。内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ウィンドーにアクセサリを取り付けない。視界の妨げになったり、吸盤がレンズの動きをしたりして火災を起こすおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときアクセサリが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- 日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ハンドルの取り外しや交換を適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

⚠ 警告

充電について

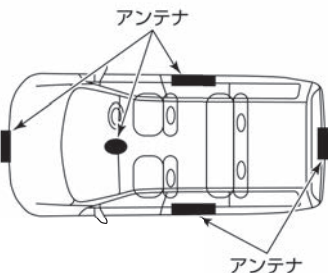
- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器 (ICD) などの医療電気機器を使用している方は、機器におよぼす影響について医療電気機器製造業者に確認してから充電作業を行う。
- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器 (ICD) などの医療電気機器を使用している方は、充電ケーブル (コントロールボックス付) ★から約15cm以下の範囲に装着部位を近づけない。充電ケーブル (コントロールボックス付) からの電波が機器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器 (ICD) などの医療電気機器を使用している方は、急速充電器には近づかない。操作する必要がある場合は他の方へお願いしてください。充電中の急速充電器からの電磁波が機器などに一時的な影響を与える場合があります。

インテリジェントキーについて

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器 (ICD) を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのセンサー操作時、電気自動車の始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器

安全なドライブのために

(ICD) の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器 (ICD) 以外の医療電気機器を使用している方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

SOSコールについて

- SOSコールは無線通信機能を利用しているため、心臓ペースメーカーやその他医療用電気機器を使用する場合は、当該の各医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響について必ず確認する。

☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備 WEB：取扱説明書（電子）を参照願います

SOSコールの電波が医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。



シートベルト

3点式シートベルト



注意

- プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。誤って作動したり、正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

プリテンショナーシートベルトについて



警告

- SRSエアバッグ警告灯が点灯しているときは走行しない。
<パワースイッチ>をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。



注意

- 廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。

シートベルトの着用のしかた



警告

- ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 後席中央席のシートベルトを使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトガイド（後席）



注意

- シートベルトガイドを使用するときは、確実に取り付けられていることを確認する。ベルトが滑ってケガをするおそれがあります。

シートベルトの注意事項



警告

- 走行する前に全員がシートベルトを着用する。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。
シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
一 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。

安全なドライブのために

- 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
- 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身が拘束できないことがあります。
- クリップなどで故意にベルトにたるみを付け、身体から浮いた状態で調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果が発揮できないことがあります。
- シートの背もたれを倒したまま走行しない。
シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。
シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- 妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。
ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。
お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、

お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。
② WEB
- 事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。
一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。
ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮できないことがあります。
シートベルトの清掃は中性洗剤がぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

エアバッグ

SRSエアバッグ

SRSエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。
 - <パワースイッチ>をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
 - SRSエアバッグ警告灯が点灯または点滅し続けるとき
- SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

- 正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。
SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けられない。
SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

② WEB



- 必ず次のことを守る。
SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。
 - SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。SRSエアバッグ（前席）の格納場所は② WEBをお読みください。

安全なドライブのために

SRSサイドエアバッグ（前席）の格納場所は（➡WEB）をお読みください。
SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➡WEB）をお読みください。

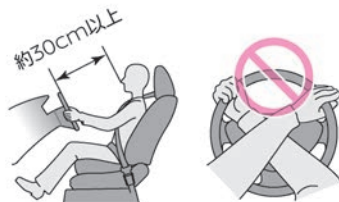
- SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
 - 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。
 - エアロパーツなどの取り付けや、サスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。
- SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。高温になるため、やけどをするおそれがあります。
 - SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

SRSエアバッグ（前席）

SRSエアバッグ（前席）の注意事項

⚠ 警告

- SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



- 不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



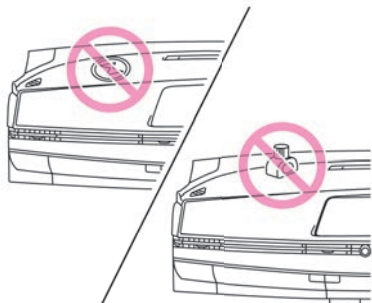
- フロントガラスにアクセサリなどを付けない。SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。



- チャイルドシートは後席シートに取り付ける。SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。
- チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリや芳香剤などを置いたりしない。SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

安全なドライブのために



SRSサイドエアバッグ（前席）

SRSサイドエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。
ドアにもたれるなど、前席の背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席の背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 前席のSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。
- シートカバーは、前席背もたれ側面を覆わないものを使用する。
SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

- ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。

SRSサイドエアバッグ誤作動するおそれがあります。

SRSカーテンエアバッグ

SRSカーテンエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。
万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。
SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。
SRSカーテンエアバッグ誤作動するおそれがあります。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。
お子さまをひざの上に抱えていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

👉 WEB

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。

👉 WEB

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。
固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。
SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。



- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲージルーム（荷室）などに収納する。

安全なドライブのために

車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**
お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。
また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウィンドーなどは大人が操作する

- **ドアやウィンドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。**
開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **チャイルドセーフティドアロック** (🔗WEB) や < **パワーウィンドーロックスイッチ** > (🔗WEB) を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。

窓から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**
急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

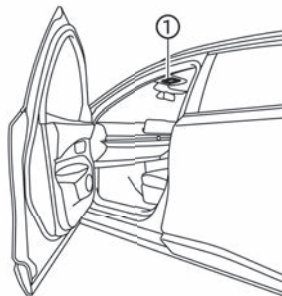
- **車から離れるときは、必ずお子さまと一緒に降ろす。**
炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

チャイルドシート

お子さまの年齢や体格に合わせてチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

⚠ 警告

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

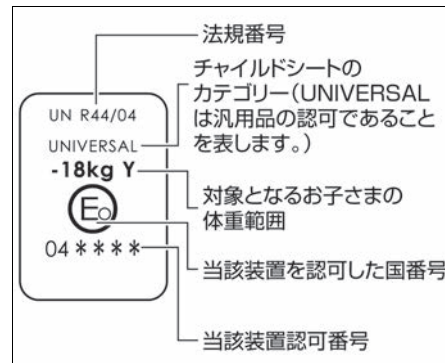


① エアバッグ警告ラベル



チャイルドシートについて

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44またはR129の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。
- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44またはR129の基準に適合したi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置を標準装備しています。



安全なドライブのために

チャイルドシートのカテゴリー (universalは汎用品の認可であることを表します。)



チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使ってチャイルドシートを固定します。

➡ WEB

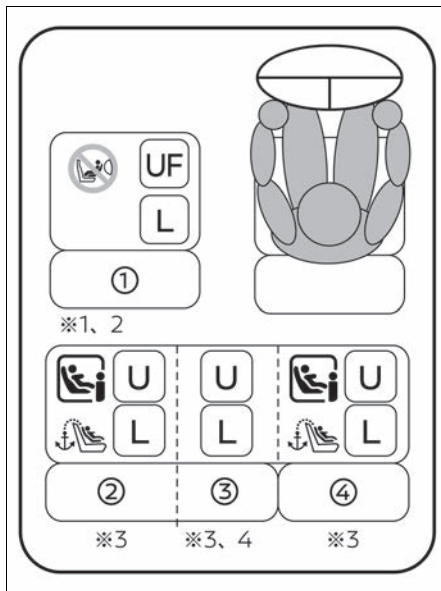
■ i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシート

後席に付属しているi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置で固定します。

➡ WEB

使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。



※1：チャイルドシートを装着する際は、座席のスライドを最も後方に調整してください。

※2：チャイルドシートを装着する際は、座席を最も高い位置に調整してください。

※3：チャイルドシートを装着する際は、前席を干渉しない位置にスライドを動かしてください。

※4：サポートレッグ付きチャイルドシートは装着しないでください。

●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調整してください。上げて安定しない場合には取り外してください。

マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	i-SizeおよびISO FIXチャイルドシートに適している
	後ろ向きチャイルドシート取付禁止
	ISO FIXチャイルドシート上部取付金具（トップテザーアンカレッジ）を装備している座席
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

座席位置	助手席	後席		
	①	②	③	④
汎用ベルト式に適する着席位置 (○/×)	○ (前向きのみ)	○	○	○
i-Size着席位置 (○/×)	×	○	×	○
横向き固定具に適する着席位置 (L1/L2)	-	-	-	-
適する最大の後向き固定具 (R1/R2X/R2/R3)	-	R3	-	R3
適する最大の前向き固定具 (F2X/F2/F3)	-	F3	-	F3
適する最大のブースタ固定具 (B2/B3)	-	B3	-	B3

- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

安全なドライブのために

■ 推奨チャイルドシート

日産自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

年齢 (目安)	体重 (目安)	身長 (目安)	推奨チャイルドシート	座席位置			
				①	②	③	④
0-18か月	<13kg	<100cm	日産i-Sizeチャイルドシート (後向き)	X	○	X	○
9か月-4歳	9-18kg	76-100cm	日産i-Sizeチャイルドシート (前向き、後向き)	X	○	X	○
4-6歳	15-25kg	100-125cm	日産ジュニアシートevo (前向き)	○ (ベルト取付のみ)	○	○ (ベルト取付のみ)	○
6-12歳	22-36kg	125-150cm	日産ジュニアシートevo (前向き)	○ (ベルト取付のみ)	○	○ (ベルト取付のみ)	○

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

安全なドライブのために

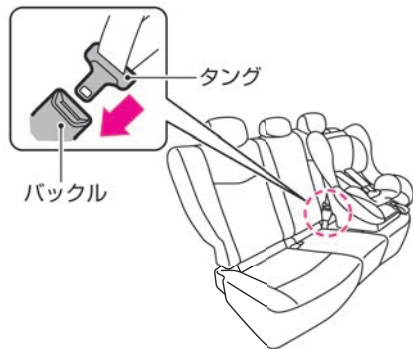
シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。
シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。

👉WEB



2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた

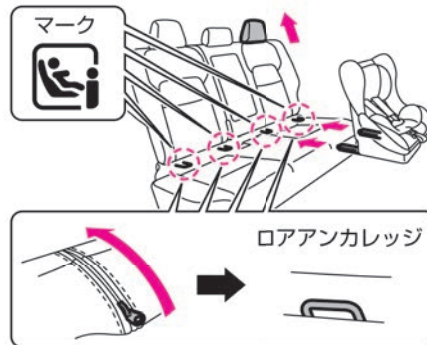
⚠ 警告

- **i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、後席のヘッドレストを取り外す。**（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、アンカレッジ周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**

チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

1. i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIXロアアンカレッジは、後席左右背もたれのマーク下側にあります。使用するときはファスナーを開きます。
ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカレッジに固定します。

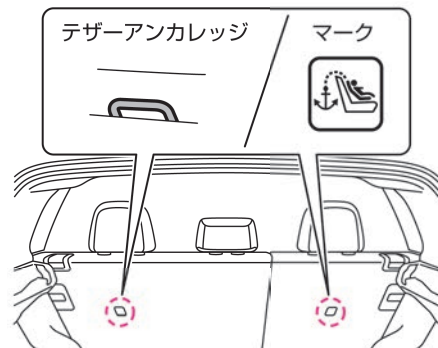
👉WEB



- **i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けない場合は、ファスナーのつまみを隠してご使用ください。**

安全なドライブのために

2. テザーアンカレッジは、後席背もたれ裏側にあります。
テザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

メーターの見かた

ヘッドアップディスプレイ★

各種設定画面

ヘッドアップディスプレイの注意事項

⚠ 注意

- ヘッドアップディスプレイの明るさ、および表示位置を適正に調整する。
運転者の視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイを見続けない。
車両、歩行者、障害物などが見えにくくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイの調整は、必ず走行前に行う。
走行中に調整すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

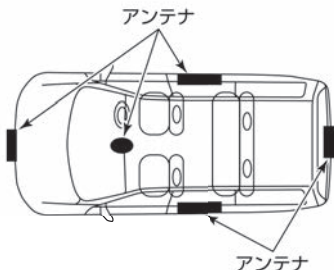
各部の操作

キー

インテリジェントキーに関する注意事項

⚠ 警告

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器 (ICD) を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。
ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのセンサーおよびスイッチ操作時、EVシステム始動時などにキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器 (ICD) の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器 (ICD) 以外の医療電気機器を使用している方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。
キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- 航空機内ではキーのスイッチを押さない。
万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の連航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

ドアの施錠と解錠

ドア

ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- ドアの開閉はお子さまにはさせない。
手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。

後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- 走行する前にドアを確実に閉める。
走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

バックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- バックドアの開閉はお子さまにはさせない。
手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- バックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。
後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- 走行する前にバックドアを確実に閉める。
走行中に突然バックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲジールーム (荷室) に人を乗せて走行しない。
急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- バックドアや車体側に手を触れたままバックドアを閉めない。
手を挟まれてケガをするおそれがあります。
- バックドアを閉めるときは、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。
手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押し開けてください。
- バックドアを開ける前に、バックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重荷物を取り除く。

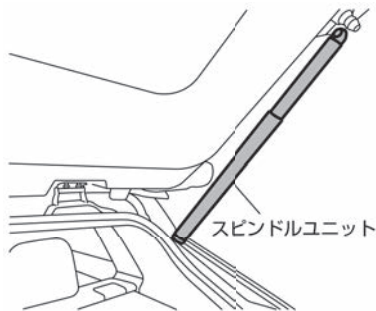
各部の操作

重量物が付いたままバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。

- 風が強いときにバックドアを開ける場合は特に注意する。風にあおられ、急に閉まることがあります。
- バックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。

バックドアスピンドルユニットについて

- バックドアのスピンドルユニットは、バックドアの重量を支えるために取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。
 - スピンドルユニットに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
 - ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- スピンドルユニットを持って、バックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。



リモコンオートバックドア

挟み込み防止機構について

⚠ 注意

- 手などを挟まないように十分注意する。挟まれる物や挟まれたかたによっては、挟み込み防止機構が作動しない場合があります。

オートクローザーについて

⚠ 注意

- バックドアを閉めるときは、バックドアや車体側に手を触れていたり、ドアグリップを握ったりしない。また、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。手を挟まれてケガをするおそれがあります。バックドアを閉めるときは、必ず外から押し閉めてください。

ガレージモードの設定のしかた

⚠ 注意

- バックドアの止まる位置を1/3以下の高さには設定しない。バックドアの止まる位置を1/3以下に設定しても、自動的に1/3の高さに設定されます。設定した高さよりも開くため、思わぬケガや破損につながるおそれがあります。

リモコンオートバックドアに関する注意事項

⚠ 注意

- 確実に停車している状態で開閉操作をする。
- 開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を十分確認する。バックドアに当たり、ケガをしたり物を損傷したりするおそれがあります。
- 車が大きく傾いている状態ではオート作動をしない。
- オート作動中にバックドアを押したり引いたりしない。反転して挟まれたり、バックドアに当たりケガをしたりするおそれがあります。

ハンズフリーセンサーについて

- 足以外でも、インテリジェントキーを携帯したままハンズフリーセンサーに物を近づけると、バックドアが開閉することがあるため注意する。ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。
- 洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けたときなどは、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で【パワーバックドア】をOFFにする。ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。
- バックドア付近にインテリジェントキーを携帯した人がいた場合、キーを携帯していない人がハンズフリーセンサーを使用して、バックドアを開閉できる場合があるため注意する。思わぬケガをするおそれがあります。
- 坂道や未舗装路、凍結した路面などで足を出し入れするときは注意する。

各部の操作

転んで思わぬケガをするおそれがあります。

シート・ハンドルの調節

前席シート

シートの調節のしかた

⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。挟まれてケガをするおそれがあります。
- シートの下に手を入れるときは注意する。車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

ヘッドレストの調節のしかた

⚠ 警告

- ヘッドレストを外したまま走行しない。

万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

後席シート

シートの調節のしかた

⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。挟まれてケガをするおそれがあります。

- 背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

シートの折りたたみかた

⚠ 警告

- シートは必ず固定する位置で使用する。

⚠ 注意

- シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。
- 背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれで挟み込んでいないことを確認する。挟み込まれていると、シートベルトが正しく着用できません。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

各部の操作

- 後席シート中央席のヘッドレストは、ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認する。
格納状態では機能が十分に発揮できません。

ハンドル

ハンドル位置の調節のしかた

⚠ 警告

- ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ミラーの調節

インテリジェントルームミラー

インテリジェントルームミラー使用時の注意事項

⚠ 警告

- 走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。
ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、インテリジェントルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。
- インテリジェントルームミラーモードのときに作動表示灯が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。
再度インテリジェントルームミラーにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

- あらかじめ死角範囲を確認する。
インテリジェントルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。
- ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。
異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し日産販売会社にご相談ください。
- 走行中に操作しない。
走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。
破損や車両火災の原因となります。

⚠ 注意

- モニターを凝視しない。
 - 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。
- 太陽や後方車両のヘッドランプなどの強い光源がカメラに入ると、インテリジェントルームミラーのモニターに光のズジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。

ドアミラー

ドアミラーの注意事項

⚠ 警告

- ミラーの調節は、必ず走行前に行う。
走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ミラーが動いているときは手を触れない。
手を挟む、またはミラーが故障するおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しない。
後方確認ができないため危険です。

窓ガラスの開閉

パワーウィンドー

パワーウィンドーの注意事項

⚠ 警告

- 乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。
 - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながったりするおそれがあります。
 - 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。
 - お子様にはパワーウィンドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、<パワーウィンドーロックスイッチ>を押し込んでください。
 - 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
 - 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

各部の操作

⚠ 注意

- 指などを挟まれないように注意する。窓ガラスには挟み込み防止機構がありますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

挟み込み防止機構

⚠ 警告

- 窓ガラスを閉める前に乗員の手や顔などが窓から出ていないことを確認する。挟み込み防止機構を解除すると、自動開動作と挟み込み防止機構が作動しません。確認せずに窓ガラスを閉めると重大な傷害につながるおそれがあります。

パノラミックガラスルーフ★

パノラミックガラスルーフの注意事項

⚠ 警告

- 乗員の操作を含めすべてのガラスルーフやサンシェード開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。
 - 一 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
 - 一 閉めるときは、ガラスルーフから手や顔などを出していないことを確認してください。手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。
 - 一 お子さまには操作させないでください。お子さまの誤った操作により事故につながるおそれがあります。お子さまや他の人がガラスルーフやサンシェード

に挟まれ重大な傷害につながるおそれがあります。

- 一 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 一 故意に挟み込み防止機構を動かさないでください。万一、手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 一 インテリジェントキーでガラスルーフやサンシェードを操作する機能があるときは、ガラスルーフから手や顔などを出していないことを確認してください。お子さまや他の人が挟まれ重大な傷害につながるおそれがあります。また、お子さまにはインテリジェントキーによる操作をさせないでください。

⚠ 注意

- 指などを挟まれないように注意する。ガラスルーフには挟み込み防止機構がありますが、確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。
- 運転中はパノラミックガラスルーフの開閉操作を行わない。前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。
- ルーフに水や雪などがあるときは開けない。突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エアコンの操作

エアコンを使うときに注意すること

エアコンに関する注意事項

⚠ 注意

- <A/Cスイッチ>OFF時に内部循環で長時間使用しない。窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。
- 吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- <デフロスタースイッチ>をONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

タイマーエアコンの設定のしかた

⚠ 警告

- お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。タイマーエアコンを設定していても、システムの自動停止などの理由で車室内が高温または低温になることがあり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

各部の操作

NissanConnectインフォテインメントシステム

安全上のご注意

運転中のご注意

⚠ 注意

- 操作または画面を注視する際は、必ず安全な場所に停車してください。
- 運転中にオーディオなどを使用するときは、車外の音が聞こえる音量でご使用ください。外部の音が聞こえない状態で運転すると、安全運転の妨げになります。

NissanConnectインフォテインメントシステムについてのご注意

⚠ 警告

- 本体および接続機器を分解・改造・取り外しなどしないでください。感電・故障などの原因となります。
- 故障の原因となりますので、本体およびUSBメモリやHDMIなどの挿入口に異物を入れないでください。
- 画面が表示されない、音が出ないなど、異常が発生したときは使用を中止してください。お客さまご自身で修理を行わずに必ず日産販売会社にご相談ください。
- 挿込み型心臓ペースメーカーおよび挿込み型除細動器（ICD）を使用している方は、Telematics Control Unitアンテナから約15cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。サービスご利用時などにTelematics Control Unitの電波が挿込み型ペースメーカーおよび挿込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそ

れがあります。医療電気機器製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。



アドバイス

- ディスプレイの清掃は、車を安全な場所に停車して行ってください。
- ディスプレイの清掃は、システムの電源をOFFにして行ってください。電源がONのまま清掃すると誤操作の原因となります。
- 水や芳香剤などの液体をかけないでください。本体内部に液体が入り込むと、故障の原因になります。
- 低温時や高温時に一部の機能が動作しない場合があります。
- 本製品の故障、誤作動または不具合により本体に保存されなかった場合、データおよび消失したデータの補償は致しかねます。あらかじめご了承ください。
- ETCユニットを改造すると電波法により罰せられることがあります。
- 本システムは、複数のアプリケーションやスイッチ操作を同時に処理しますが、それらによるシステムへの負荷のため、動作が遅くなったり、システムがフリーズしてしまう可能性があります。コントロールパネルスイッチやステアリングスイッチ操作は、一つ一つゆっくりと行ってください。システムの反応が遅い場合、少々お待ちいただくか、お待ちいただいても現象が解消しない場合は、コントロールパネルの < VOL >ダイヤルを約10秒以上押し続けてシステムを再起動してください。
- 本システムは、< パワースイッチ > をONにした後、全てのアプリケーションが起動し使用可能になるまでに、約1分程度がかかります。ただし、以下の機能は操作可能です。
①オーディオのボリューム調整
②音楽再生

本製品は、電波法と電気通信事業法に基づく適合証明を受けております。

Model name : CCS2SBXQ

  201-240604

  D 24 0099 201

電波法により5.2 (W52)/5.3 (W53) GHz

帯は屋内使用に限ります。

本製品の改造は禁止されています。（適合証明番号などが無効となります。）

USB電源ソケット

⚠ 注意

- USBデバイスを接続口に無理やり押し込まないでください。故障の原因になります。

USB・iPodを使う

再生する

⚠ 警告

- 接続するオーディオ機器のUSBケーブルを、エアバッグの作動を妨げるような場所に設置しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時に接続機器が飛ばされるなどにより、死亡・重傷に至ることがあります。

⚠ 注意

- 本体に接続するオーディオ機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定するなどしてください。運転に支障をきたし、交通事故の原因になることがあります。

運転のしかた

始動する

パワースイッチ

⚠ 警告

- EVシステムを始動する前にペダルの位置を確認する。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。
- EVシステムを始動するときは、必ず運転席に座る。運転席以外から行くと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーの操作は必ず走行可能表示灯 [READY] が始動したことを確認してから行う。走行可能表示灯が点灯する前にセレクトレバーを操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- EVシステムを始動したあとは、e-Pedal StepのON・OFF状態を確認してから走行する。e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なるため、走行前に確認してください。

非常停止のしかた

⚠ 警告

- 非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。

非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

運転する

セレクトレバー

⚠ 警告

- セレクトレバーの操作は必ず走行可能表示灯 [READY] が点灯したことを確認してから行う。走行可能表示灯 [READY] が点灯する前にセレクトレバーを操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- セレクトレバーには物を掛けない。車両が突然発進するなど、事故の原因になるおそれがあります。

電動パーキングブレーキ

電動パーキングブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- 車両を離れるときは、電動パーキングブレーキを掛けたあと、シフトポジションを **R** に切り替える。
- 非常時以外は、電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキを掛けたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。

す。作動しなくなった場合は、約1分間経過してから再度操作してください。

オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

- 急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。急な坂道などでオートブレーキホールド機能を作動させたとき、運転者にブレーキペダルを踏むよう警告メッセージが表示されることがあります。
- オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。警告メッセージ (👉 WEB)
- 次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。
 - 洗車機を使用するとき
 - 車両にけん引されるとき
 - 車両のけん引時
 - 過積載のとき
- 次の場合はシフトポジションを **P** にしてパーキングブレーキを確実にかけられているか確認する。車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。
 - 駐車するとき
 - 人が乗降するとき
 - 荷物の積み下ろしをするとき
- **VDC**警告灯 [🚨] (👉 WEB)、ブレーキシステム警告灯 (黄色) [(🔔)] (👉 WEB)、電動パーキングブレーキ警告

運転のしかた

灯 [(P)] (WEB)、またはマスターウォーニング [Δ] (WEB) が点灯し、シャシー制御表示の警告メッセージ (WEB) が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。

- オートブレーキホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながら<オートブレーキホールドスイッチ>を押す。急な坂道では、オートブレーキホールド機能での停止状態からアクセルペダルを踏んでもオートブレーキホールド機能が解除できない場合があります。

⚠ 注意

- オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、オートブレーキホールド表示灯 [(P)] (緑色) が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは、車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、オートブレーキホールド表示灯 [(P)] (緑色) は点灯しません。

発進・走行

発進するときの注意事項

⚠ 警告

- 発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。

急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

走行するときの注意事項

⚠ 警告

- e-Pedal StepがOFFのときは、下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用する。ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。坂の勾配に応じて回生ブレーキを併用してください。

WEB

- e-Pedal StepがOFFのときに、回生ブレーキの効きが弱くなった場合は、ブレーキペダルを踏んで減速する。
- e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効が強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- 走行中はシフトポジションをNに切り替えない。回生ブレーキが作動しないため、事故につながるおそれがあります。

停車・駐車

停車・駐車時の注意事項

⚠ 警告

- 駐車するときは、ガスライターなどに注意する。操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたりまましたりしないでください。荷物を押し

こんだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- ワイヤレス充電器付近にはガスライターなどを置かない。

操作部が露出しているガスライターをワイヤレス充電器付近に置くと、電動センターコンソールボックスを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるため注意する。

ランプをつける、ワイパーを使う ライトスイッチ

アダプティブLEDヘッドライトシステムの注意事項

⚠ 警告

- システムを過信しない。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
- 次のようなときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。
 - 一 悪天候のとき (雨、霧、雪など)
 - 一 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが十分なきとき

運転のしかた

- カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
- カメラの向きがずれているとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
- 対向車または先行車が無灯火のとき
- 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
- 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
- 歩行者など光を発しないものとき
- 明るさの急激な変化が連続しているとき
- 段差や起伏のある道路を走行しているとき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
- トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
- バンクやけん引などで車両が傾いているとき

センサー上部のフロントガラスに手で触れたり、水分を含んだ布などを近づけたりしない。
ワイパーが作動しケガやワイパーの破損につながるおそれがあるため、注意してください。また、洗車時にはスイッチ位置を必ず<OFF>にしてください。



フォグランプスイッチ★

リヤフォグランプの注意事項

⚠ 警告

- 晴天時は使用しない。
後続車の視界を悪くするおそれがあります。

ワイパー・ウォッシャースイッチ

雨滴感知式ワイパーの注意事項

⚠ 注意

- <パワースイッチ>がONでスイッチ位置を<AUTO>にしているとき、雨滴感知

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

- 寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。
寒冷時は、ガラスに吹き付けられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転支援機能

e-Pedal Step

e-Pedal Stepに関する注意事項

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
走行・道路状況に応じてブレーキペダルを踏んでください。
- メーターに【現在e-Pedalシステムは使用できません 減速する際はブレーキを踏んでください】と警告メッセージ (WEB) が表示されたときは、e-Pedal Stepの機能が一時的に使用できない状態になっているため、安全な場所に停車し、一度<パワースイッチ>をOFFにしてから再始動してください。再始動後もメッセージが表示されるときは、システムの異常が考えられるため、日産販売会社で点検を受けてください。
- 極低速は回生ブレーキを作動させずe-Pedal Step OFF同様のクリーブ現象が発生します。
停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- 減速中の減速度合いが足りない場合は、ただちにブレーキペダルを踏む。
車両が動きだしたり、止まりきらなかったりして、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
- 過積載、急勾配、氷結路などの制動力が低下する条件では、減速度が十分でない場合があるため、必要に応じてブレーキペダルを使用する。
- 長い下り坂ではe-Pedal StepをOFFにして、シフトポジションをDまたはRに切り替える。
e-Pedal StepをONにしたままで、下り坂を走行し続けると、ブレーキの過熱を防

運転のしかた

ぐため、e-Pedal Stepが自動的にOFFに切り替わることがあります。

- けん引中は、**e-Pedal Step**をOFFにする。

ドライブモードセレクター

ドライブモードセレクターの注意事項

⚠ 注意

- 走行中に<ドライブモードセレクター>や画面を注視しない。
前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

e-4ORCE (4WD) 車★の扱い

⚠ 警告

- e-4ORCE (4WD) 車は万能ではないため、走行するときは次のことを必ず守る。
 - 渡河などの水中走行はしない
 - 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
 - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない

ABS (アンチロックブレーキシステム)

ABSに関する注意事項

⚠ 警告

- カーブの手前では十分に減速する。

ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。

- でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分に取る。ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。このような道を走行するときは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとって運転してください。

- タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。

ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

VDC (ビークルダイナミクスコントロール)

VDCに関する注意事項

⚠ 警告

- 滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。
この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。
- 次の場合、VDC警告灯 [見] が点灯し正常に作動しないことがあるため注意する。

- サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
- サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき

- VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。

シャシー制御

⚠ 警告

- インテリジェントトレースコントロール (コーナリング安定性向上システム) の機能を過信しない。
インテリジェントトレースコントロール (コーナリング安定性向上システム) は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

ヒルスタートアシスト

⚠ 警告

- ヒルスタートアシストの機能を過信しない。
凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。
緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキを掛けてください。
- 停車するときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ブレーキペダルを踏み続ける。
この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にシフトポジションをPに入

運転のしかた

れ、パーキングブレーキを掛けてください。

車両接近通報装置

警告

- 車両接近通報装置の音が聞こえないときは、日産販売会社で点検する。車両接近通報装置の音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションを[R]にし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

走行支援機能

走行支援機能

警告

- 走行支援機能は、自動で運転する装置ではありません。運転者は交通法規を遵守し、常に周囲の状況に注意して運転してください。道路・交通・自車の状況に応じてハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。
- レーダー、カメラ、ソナーの性能には限界があります。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

➡ WEB

プロパイロット

プロパイロットに関する注意事項

警告

- プロパイロットは自動で運転する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。運転者はシステムを過信せず、常に周囲に注意し、道路・交通・自車両の状況に応じて確実にハンドル、アクセル、ブレーキを操作して、安全な運転を行う責任があります。
- プロパイロットは高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。
- プロパイロットは同一方向に走行する車両を検出し、車間距離を保つようアクセル、ブレーキを制御します。対向車両、前方を横切る車両、車線外（路肩など）いる車両、歩行者、自転車、工事用のパイロン、落下物などの車両以外のものに反応しません。
- プロパイロットは車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方から車両が近づいてきても反応しません。交通法規を遵守する責任は運転者にあります。走行している地域や道路の交通法規を遵守し、安全な走行を行ってください。
- プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がける。自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づいたりすることがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の

位置、周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。

- プロパイロットを解除せず降車しないでください。車両を停止し続ける能力をもっていません。降車する場合は<プロパイロットスイッチ>を押してシステムをOFFにし、セレクトレバーにあるⓍスイッチを押しシフトポジションを[D]に切り替え、電動パーキングブレーキを作動させてください。
- 次のような状況では適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
 - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - 急カーブや曲がりくねった道を走行しているとき
 - 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
 - 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
 - 料金所を通るとき
 - タイヤの空気圧が適正ではないとき
 - 摩耗しているタイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
 - 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
 - フロントレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
 - マルチセンシングフロントカメラおよびその前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、泥などの付着物があるとき
 - マルチセンシングフロントカメラおよび、その前方のフロントガラスにくもりや結露があるとき

運転のしかた

- サイドレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- レーダー、カメラ、ソナー、GPSアンテナの視界を妨げるものを取り付けたとき
- 極端に重い荷物を積んでいるとき
- けん引しているとき

システム構成

⚠ 警告

- **プロパイロットは次のような障害物に反応しません。**
 - 歩行者、動物など
 - 落下物
 - 工事などで設置されるパイロンなど
 - 特殊な形状をした車両
- **次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルやハンドルを操作してください。**
 - 前方に急な割り込みがあったとき
 - 停止車両など自車速よりも極端に遅い車両がいたとき
 - 見通しの悪いカーブを走行しているとき
 - 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき
 - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
 - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
 - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
 - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- **次のような状況では正しくレーンマーカの検出ができず車線維持機能（ハンドル支援）、車線変更支援機能が使用できないことがあります。**
 - レンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき

- レンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
 - レンマーカーが多重に描かれているとき
 - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
 - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
 - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
 - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
 - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
 - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
 - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
 - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
 - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
 - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
 - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
 - トンネルの出入り口や日陰などで急に変化する光の変化が起こったとき
 - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
 - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき
- **次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。**
 - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき
 - 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき

- 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき
 - 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
 - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
 - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
 - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- **次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。**
 - 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
 - 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
 - サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき
 - 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
 - ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
 - 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
 - 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしていたりしているとき
 - **フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
- ➡ WEB

運転のしかた

- フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、水などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

👉 WEB

- ドライバーモニターカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはドライバーモニターカメラが汚れていても判定できない場合があります。またドライバーモニターカメラに汚れ、汚れや指紋が付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またドライバーモニターカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

👉 WEB

プロパイロットの使いかた

■ 車間距離設定のしかた

⚠️ 警告

- プロパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

⚠️ 警告

- アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。通常、車間制御中は先行車の速度に合わせ自動的に加速、減速を行います。車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

■ プロパイロットの解除のしかた

⚠️ 警告

- プロパイロットをOFFにせずに降車しないでください。降車する場合は<プロパイロットスイッチ>を押してシステムをOFFにし、電動パーキングブレーキを 작동させ、シフトポジションをPにしてください。

ルート減速支援機能★

⚠️ 警告

- ルート減速支援機能の性能には限界があります。ルート減速支援機能は、すべての走行状況、交通環境、天候、路面状況で動作するわけではありません。運転者は周囲の状況に応じて自らアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。
- ルート減速支援機能は、車両のブレーキにより走行を止める機能ではありません。減速が必要なときは必ず運転者が自ら適切なブレーキ操作を行ってください。

- 運転者は走行している道路の制限速度を確認し、設定車速を適切に設定し、安全運転を心がけてください。

- 次のような状況では、ルート減速支援機能が適切に作動しない場合があります。路面状況や交通環境に応じてアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

- NissanConnectインフォテインメントシステムが地図サーバーから地図データを取得できないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムが新しいルートを探索しているとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの位置検出が正しく行えないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図にない道路を走行しているとき
- 工事中の道路や車線規制がある道路を走行しているとき
- 車線の分岐・合流のある道路、または交差点付近を走行しているとき
- 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）や、道路状況の悪い場所を走行しているとき

- アクセルペダルを踏み込んでいる場合、ルート減速支援機能を行いません。プロパイロットの車速・車間制御機能の設定や、先行車の検出状態によっては、システムが作動しない場合があります。

制限速度支援機能★の作動

⚠ 警告

- 次のような場合は、標識検知機能が最高速度標識を検出しても、設定車速に反映されない場合があります。
 - 標識検知機能が適切に作動していないとき
 - システムをOFFに設定しているとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムの位置検出が正しく行えないとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムの地図にない道路を走行しているとき
 - 高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき
 - 自車の路線と並行する路線があるとき（インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなど本線から出る路線）
 - 自車の路線と並行する側道の両車線に最高速度標識が表示され、それぞれが異なる制限速度を検出しているとき
 - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と走行している道路の種別が一致しないと判定したとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムが地図サーバーから地図データを取得できないとき

車線維持機能（ハンドル支援）について

⚠ 警告

- 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方の車両が近づいても反応しません
- 手放し運転はしない。
プロパイロット2.0★で手を離して走行できる時を除き、必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

車線維持機能（ハンドル支援）の解除（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。

運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 運転者は常に前方に注意し、運転してください。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

⚠ 警告

- プロパイロット2.0の表示が緑色のときは、必ずハンドルを持って運転してください。

側方注意検知

⚠ 警告

- 側方の車両が近づいてきても反応しません。
合流部、カーブを走行するとき、また大型車両が隣の車線を走行しているときは特に周辺車両に注意し、必要に応じてハンドル操作をしてください。

車線変更支援機能について（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。
車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- 車線変更支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。
車線変更をするときは、必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。

運転のしかた

追い越し支援機能について（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- 追い越し支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。車線変更をするときは必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

⚠ 警告

- 車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット2.0付車）

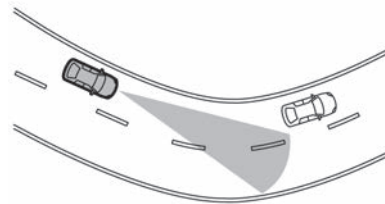
⚠ 警告

- 車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。

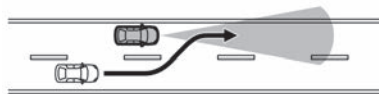
プロパイロット2.0に関する注意事項

⚠ 警告

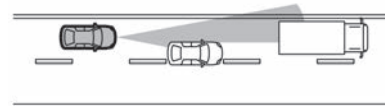
- プロパイロット2.0は次のような障害物に反応しません。
 - － 歩行者、動物など
 - － 落下物
 - － 工事などで設置されるパイロンなど
- 次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキやハンドルを操作してください。
 - － 前方に急な割り込みがあったとき



- － 前方の車両が車線変更した後で、さらに前方に停止中の車両や自車速よりも極端に遅い車両がいたとき

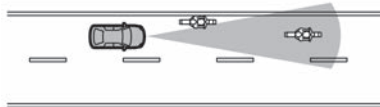


- － 見通しの悪いカーブを走行しているとき



- － 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき

運転のしかた



- フロントレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき

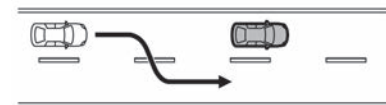
- **カーブを走行しているときや車線変更を行っているときなど、道路形状や自車の状況によっては、隣の車線の車両や周辺のものを検出して減速したり、警報が作動したりする場合があります。**
- **高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上で車速・車間制御機能により設定車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などにより、自車線上に先行車を検出しないことにより設定車速まで自動的に加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **次のような状況では正しくレーンマーカ－の検出ができず車線維持機能（ハンドル支援）・車線変更支援機能が使用できないことがあります。**
 - レーンマーカ－が消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき

- レーンマーカ－が路面の色と似ており見えにくいとき
 - レーンマーカ－が多重に描かれているとき
 - 消されたレーンマーカ－が、まだ薄く残っているとき
 - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカ－があるとき
 - 料金所や交差点手前などでレーンマーカ－が大きく変化しているとき
 - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
 - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
 - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
 - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差ししている路面を走行しているとき
 - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
 - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
 - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
 - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
 - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
 - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
 - トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
 - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
 - 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき
- **次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。**

- 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき
- 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき



- 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき



- サイドレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- 放送局・レーダー搭載車両など周囲の電波源により影響を受けているとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき

運転のしかた

- 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき

⚠ 注意

- 次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。
 - 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
 - 太陽光の入り込みと影になることが繰り返るとき
 - サンングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき
 - 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
 - ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
 - 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
 - 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしていたりしているとき
- フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
➡ WEB
- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺の塗装修理はできません。誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。

適切な修理をおこなうため、日産販売会社にご相談ください。

➡ WEB

- フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
➡ WEB
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

定速制御機能について

⚠ 警告

- 定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

インテリジェントディスタンスコントロール

インテリジェントディスタンスコントロールに関する注意事項

⚠ 警告

- インテリジェントディスタンスコントロールシステムは運転者を支援するための補助装置であり、衝突警告または回避装置ではありません。常に注意を払い、安全運転をし、車両をコントロールするのは運転者の責任です。
- インテリジェントディスタンスコントロールシステムを使用するときは、常に注意して運転してください。インテリジェントディスタンスコントロールシステムを使用する前に、取扱説明書をよく読んで理解してください。重大な人身事故を避けるために、事故を防止したり、緊急時に車両の速度を制御するためにシステムに依存したりしないでください。インテリジェントディスタンスコントロールシステムは、適切な道路および交通状況以外では使用しないでください。
- インテリジェントディスタンスコントロールにはパフォーマンスの限界があるため、インテリジェントディスタンスコントロールシステムだけに依存しないでください。このシステムは、不注意運転、脇見運転、または漫然運転を是正したり、雨、霧、その他の悪天候での視界不良を解消するものでもありません。前方車両との距離や周囲の状況に応じて、ブレーキペダルを踏み込み、車速を減速し、安全な車間距離を維持してください。
- インテリジェントディスタンスコントロールシステムは、停止中の車両または低速で走行している車両に接近した場合、車

運転のしかた

両の速度を制御したり警告したりしません。前方の車両との適切な距離を維持するために、車両の操作に注意する必要があります。

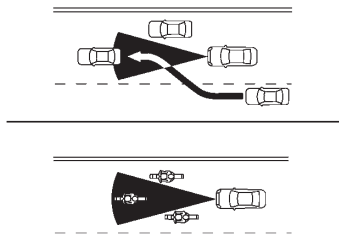
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**は自動的に減速し、運転者が前方の車両からの追従距離を維持するのを支援します。前方の車両が急ブレーキをかけたとき、または前方に車両が急に現れたときに安全な距離を保つために減速が必要な場合は、手でブレーキをかけてください。インテリジェントディスタンスコントロールシステムを使用するときは、常に注意してください。
- 前方の車両が停止した場合、車両はシステムの制限内で停止まで減速する。車両が停止すると、インテリジェントディスタンスコントロールシステムによって車両が停止したままになります。
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**のシステム制限は次の通りです。これらのシステム制限事項に従わずに車両を操作すると、重傷または死亡事故につながる可能性があります。
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**は、主に交通量の少ない、直線が乾燥した開けた道路での使用を目的としています。市街地や混雑した道路での使用は推奨されません。
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**は道路状況に自動的に適応しません。このシステムは、交通の流れが均一な状況で使用してください。急カーブのある道路、凍結路面、大雨、霧の際には使用しないでください。
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**は、運転者の足がアクセルペダルを踏んでいる間はブレーキ制御を行いません。

- 常に車両の運転に注意し、適切な追従距離を手動で制御できるようにしてください。インテリジェントディスタンスコントロールシステムでは、状況によっては、車両間の距離（追従距離）を維持できない場合があります。
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**は、次の物体を検出しません。
 - 停止中または低速走行中の車両（自車が接近している場合）
 - 道路上の物体または歩行者
 - 同じ車線の対向車
 - 走行車線から外れて走行するオートバイ
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**は、特定の道路、天候、または運転条件において前方車両を検知できない場合があります。事故を避けるため、次の状況ではインテリジェントディスタンスコントロールシステムを使用しないでください。
 - 交通量の多い道路、高速道路、カーブの急な道路
 - 氷や雪など滑りやすい路面
 - 未舗装路などの、でこぼこした路面
 - 坂の急な下り坂（頻繁にブレーキをかけるとブレーキが過熱する可能性があります）
 - 上り下りが繰り返される道路
 - 悪天候時（雨、霧、雪など）
 - センサーの検知能力が低下しているとき（雨、雪、霧、砂嵐、砂嵐、他車両からの飛沫など）
 - レーダーセンサーエリアに土、氷、雪などの物質が付着しているとき
 - 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
 - 他のレーダー源による干渉を受けているとき
 - 車両の後部座席または荷室に過度に重い荷物を積載しているとき
 - トレーラーや他の車両をけん引しているとき

- 道路または交通状況によっては、車両または物体が予期せずセンサー検出ゾーンに入り、自動ブレーキが作動する場合があります。常に注意を払い、この警告セクションで推奨されていない場所ではインテリジェントディスタンスコントロールシステムを使用しないでください。
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**は、マルチセンシングのフロントカメラも使用します。以下の状況では、カメラが車両を正しく検出できず、前方の車両の検出が遅れる場合があります。
 - 視界不良（雨、雪、霧、砂塵嵐、砂嵐、他車の飛沫などの状態）
 - フロントガラスのカメラ部分がくもり、または汚れ、水滴、氷、雪などで覆われている
 - フロントカメラに強い光（例えば、対向車からの日光やハイビーム）が入る
 - 光が強いと歩行者の周りが影になって見えにくくなります
 - 明るさが急激に変化する（例：トンネルや日陰への進入時、落雷時など）
- **インテリジェントディスタンスコントロールシステム**は、システムの制限内でレーダーセンサーの動作を自動的にチェックするように設計されています。レーダーセンサーの検知範囲には制限があります。インテリジェントディスタンスコントロールシステムが前方車両との車間距離を維持するには、前方車両が検知範囲に入っている必要があります。前方の車両は、同一車線内での位置により検知範囲外に移動する場合があります。自動二輪車が車線の中心線からずれて走行している場合、同一車線内で検知されない場合があります。前方の車線に進入中の車両は、車両が完全に車線に入るまで検出されない場合があります。このような場合、インテリジェントディスタンスコントロールシステムは表示灯を点滅させ、警報音（ブザー）を鳴らして警告します。運転者は、前方車両との適切な

運転のしかた

車間距離を手動で調整する必要がある場合があります。



曲がりくねった道、坂道、カーブ、狭い道、工事中の道路など、一部の道を走行しているときに、センサーが別の車線の車両を検出したり、前方を走行している車両を一時的に検出しなかったりする場合があります。これにより、システムが適切に作動しない場合があります。

車両の検出は、車両の操作（ハンドル操作や車線内での走行位置など）または車両の状態によっても影響を受けることがあります。

このような場合は、システムの表示灯が点滅し、警報音（ブザー）が鳴ることがあります。

前方を走行する車両との適切な車間距離は、手動で調整する必要があります。

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

システムに関連する表示

警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

- レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

➔ WEB

踏み間違い衝突防止アシスト

システムに関連する表示

警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

- ソナーやマルチセンシングフロントカメラ、インテリジェントアラウンドビューモニターカメラ（リビュウカメラ）の性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

➔ WEB

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

警告

- 故意にアクセルペダルを踏み込まない。車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。また、低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。
- 次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにする。

- ー けん引するとき
- ー トレーラーなどに積載するとき
- ー 点検などでシャシーダイナモを使用するとき

運転のしかた

- 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき
(車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります)
- センサーを妨げるようなバイクラックなどを装着しているとき

- 外部の騒音などにより、警報音(ブザー)が聞こえない場合があります。

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。
低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。
車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。
- アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。

BSW (後側方車両検知警報) / インテリジェント BSI (後側方衝突防止支援システム)

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
BSW (後側方車両検知警報) およびインテリジェント BSI (後側方衝突防止支援シ

ステム) は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防いだりする機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

- レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。



作動するとき・しないとき

⚠ 注意

- 車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。
自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

BSW (後側方車両検知警報) / インテリジェント BSI (後側方衝突防止支援システム) に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるためインテリジェント BSI (後側方衝突防止支援システム) を使用しないでください。
 - 悪天候(雨、雪、霧など)のとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
 - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - 車線の幅が狭い道路を走行するとき

- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
- 純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき

- 次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。

- 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
- 停車状態から検知範囲に居続ける車両
- 後方から速い速度で接近してくる車両
- 自車両が速い速度で追い越した車両
- 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両

- 次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。

- 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
- 悪天候(雨、雪、霧など)で視界が悪いとき
- 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき

- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。

- 検出しにくいレーンマーカー(不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー)がある道路を走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などが

あるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御したりする場合があります）

- 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
 - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
 - 先行車との車間距離が短く、マルチセンシングフロントカメラの検出範囲が遮られるとき
 - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
 - 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
 - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
 - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリ類の取り付け、追加の塗装をしないでください。
車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

⚠ 注意

- レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。
 - 歩行者、自転車、動物など
 - 対向車

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント Li（車線逸脱防止支援システム）

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント Li（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。
 - マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。
- 🌐 WEB

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント Li（車線逸脱防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェント Li（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返される時
 - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき

- 車線の幅が狭い道路を走行するとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
- 純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき

- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。
 - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
 - 急なカーブのある道路を走行するとき
 - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
 - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります。）
 - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
 - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
 - 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき
 - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
 - 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
 - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
 - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

運転のしかた

インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）

システムに関連する表示

警告

- インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行います。衝突を回避する機能はありません。
- インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

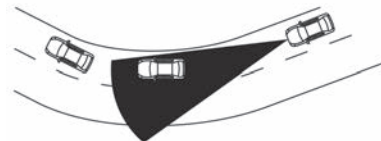


インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

警告

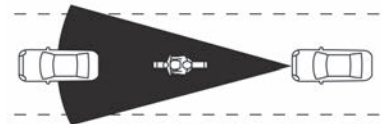
- 次のような障害物は検知しません。
 - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
 - 対向車両
 - 前方を横切って通過する車両
- 次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき

- 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- トンネル内を走行しているとき
- 前方の車両がけん引を行っているとき



- 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）は警報を行わないことがあります。

- 前方の車両との距離が極端に近いとき



- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

- 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき

運転のしかた

RCTA（後退時車両検知警報）

システムに関連する表示

警告

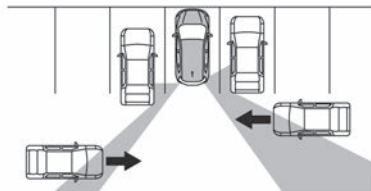
- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
RCTA（後退時車両検知警報）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両と障害物との接触を防いだりする機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼らず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。
- レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

👉 WEB

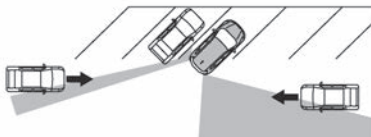
RCTA（後退時車両検知警報）に関する注意事項

警告

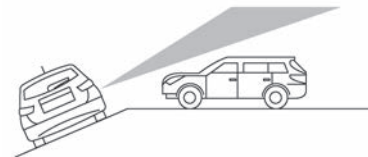
- 後退する前に、必ず目視で周囲の状況を確認してください。レーダーセンサーは接近している（動いている）車両を検知します。次のようなものは検知できません。
 - 歩行者、自転車、動物など
 - 約30km/h以上の速度で通過する車両
 - 約8km/h以下の速度で通過する車両
- 次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できません。
 - 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき



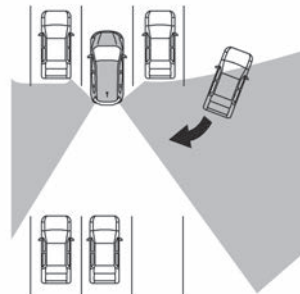
— 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき



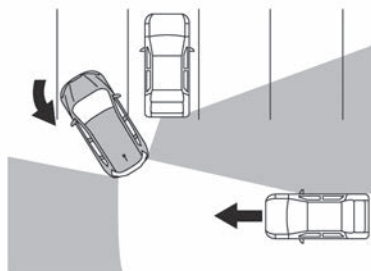
— 傾斜した地面に駐車しているとき



— 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき



— 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき



- 次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがあるため、システムを使用しないでください。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
 - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー付近に付着しているとき
 - 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
- レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないように設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリ類の取り付け、追加の塗装をしないでください。車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

インテリジェント DA（ふらつき警報）

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転を心がけてください。

標識検知機能

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。
標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。
標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。
運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。
- マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

👉 WEB

標識検知機能に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できなかったりすることがあります。
 - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
 - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界がさえぎられているとき
 - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
 - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
 - 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
 - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
 - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
 - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - 勾配の変化があるところを走行しているとき
 - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
 - 隣車線の車両で視界が遮られているとき
 - 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
 - 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
 - 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
 - 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
 - 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき
 - 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき

運転のしかた

- 標識が泥、雪、または霜などで覆われているとき
- 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
- 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
- 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
- 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
- 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
- カメラの向きがずれているとき
- 始動してから約15秒間は標識を検知しません

- 次のような場合は、標識の検知が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）
 - 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）
 - 検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物、案内標識上の数字など）
 - 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）



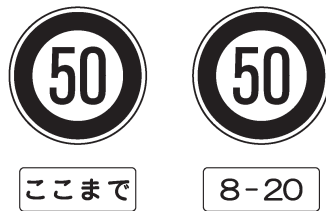
- コントラストが低い電光標識
- 数字が認識しにくい電光標識（遠く離れた位置にある標識、3桁の標識など）
- 標識の近傍に補助標識（区間の始まり、終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムが推奨するルートを走行していないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムが新しいルートを検索しているとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの位置検出が正しく行えないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図に無い道路を走行しているとき

⚠ 注意

- 標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。

標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる表示をしたりする場合があります。運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

- 標識の近傍にある補助標識は検知しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。



ドライバーモニターシステム★

ドライバーモニターシステムについて

⚠ 注意

- ドライバーモニターシステムの機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。
- ドライバーモニターシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険がありますので、運転前に十分に休憩をとり、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターシステムは、脇見運転などの前方不注意での運転を補助するものではありません。

運転のしかた

脇見運転は重大な事故にいたる危険がありますので、常に進行方向の交通状況、道路状況を確認し、安全運転に努めてください。

ドライバーモニターシステムに関する注意事項

⚠ 注意

- 次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。
 - 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
 - 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
 - 眼鏡やサングラス、帽子、マスク、眼帯などを着用している場合など目、鼻、口のいずれかが隠れていたり、顔や頭の形を変える衣服を着用したりしているとき
 - ハンドルや運転者の手、その他の障害物などで目、鼻、口、顔や頭の形が隠れているとき
 - ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
 - 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
 - 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしたりしているとき
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

駐車支援システム

インテリジェントアラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）

インテリジェントアラウンドビューモニターについて

⚠ 警告

- インテリジェントアラウンドビューモニターの機能を過信しない。インテリジェントアラウンドビューモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。
- 実際の距離感を間違えないように注意する。インテリジェントアラウンドビューモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

インテリジェントアラウンドビューモニターの使いかた

⚠ 警告

- ドアミラーを格納した状態で使用しない。ドアミラーを格納すると、一部の表示が欠けるなど正確に表示できません。周辺を直接確認し十分注意して使用してください。使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。

画面表示に関する注意事項

⚠ 警告

- リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせ処理した疑似的な映像のため、トップビューは、障害物を実際より遠く映し出す。
- 囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されなかったりすることがあります。
- カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。
- トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。
- 路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。

画面表示の種類について

⚠ 警告

- ドアミラーの代わりとしては使用できません。
- ドアミラー位置や、車両前方の方向を表示するものではありません。
- 3Dビューに表示される障害物までの距離は、実際の距離とは異なります。

⚠ 注意

- 3Dビューに表示される障害物までの距離は、実際の距離とは異なります。

移動物 検知機能について

⚠ 注意

- 車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。

ソナー機能について

⚠ 警告

- バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。
 - 適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。
 - 純正以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。
 - ソナーの性能には限界があるため、システムだけに頼らず、常に安全を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。
- 🌐 WEB

⚠ 注意

- 気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。
- 次のような障害物には作動しません。
 - 背の低い障害物
 - 幅の狭い障害物
 - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
 - ソナーに非常に近い障害物
 - 急に進行方向に現れた障害物
- 次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。
 - 地面から高い位置に存在する障害物

- スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。
 - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサー部や周辺に付着しているとき
 - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めするとき
 - 周囲に草が生い茂っているとき
 - 車両側面の近くに壁があるとき
 - 路面上に段差や突起物があるとき
 - 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
 - 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
 - 周囲で大きな音が鳴っているとき
 - 車両感応センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
 - 炎天下や寒冷時
 - 表面が一樣でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸な形状の場合）
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があったりしてもソナーが検知しないことがあります。（水が解ければ、正常に復帰します）
- ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。
- 適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。

インテリジェントアラウンド ビューモニターに関する注意事項

⚠ 警告

- カメラはフロントグリル中央部、ドアミラー、リヤナンバープレート上部に装着されています。作動を妨げるような物をカメラ

ラ部分に取り付けないでください。光字式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。

- 距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- 目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。
- サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。
- 上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。
- フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。

プロパイロットパーキング

プロパイロットパーキングについて

⚠ 警告

- プロパイロットパーキングは標準的な駐車場所における運転操作を支援する機能であり、前方不注意状態での運転操作を補助するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にありますので、通常の運転操作と同様に、周囲の状況をミラーや目視で直接確認し、周囲の車両

運転のしかた

や障害物、人などに接触しそうな場合や、走行できる路面を越えそうな場合などは、ブレーキペダルを踏んですみやかに車両を停止してください。

- プロパイロットパーキングはソナーで障害物を検出し駐車位置や切り返し位置を調整する機能がありますが、適切に機能しない場合があります。詳細については、ソナー/インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。
➡WEB
- プロパイロットパーキングは標準的な駐車方法を移動方向、切り返し位置、駐車位置を調整して車両を移動します。移動方向に障害物や走行できない路面に近じた場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、駐車制御の進行方向をシフトポジションを切り替えるなどして、適切な対応をしてください。
- プロパイロットパーキングはハンドルを自動で制御するため、ハンドルに巻き込まれないように注意する必要があります。手や指がスポーク部に巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。また、ネクタイ、スカートなども巻き込まれないように十分注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

プロパイロットパーキング（駐車枠線検出機能）の終了のしかた

⚠ 警告

- 駐車位置検出中の自動終了時はブレーキペダルを踏む。自動でブレーキがかからないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

プロパイロットパーキング（メモリー機能）

⚠ 注意

- メモリー機能は運転操作（アクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジション操作）、もしくは走行状態（移動方向、切り返し位置など）を登録し、制御により再生する機能ではありません。標準的な駐車方法で移動方向、切り返し位置、駐車位置を調整して、目的の駐車位置まで車両を移動します。

ソナーの検知条件と制限

⚠ 警告

- ソナーの性能には限界があります。詳細についてはソナーの検知条件と制限をお読みください。
➡WEB

インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

⚠ 警告

- インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの性能には限界があります。詳細についてはインテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。
➡WEB

プロパイロットパーキングの注意事項

⚠ 警告

- 画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。障害物に接触したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。
- 周囲の車両や人の動きに十分注意してください。検出された通路幅を有効に使うって駐車支援を行っています。対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意して駐車制御の操作を行ってください。
- プロパイロットパーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロットパーキングを終了してください。プロパイロットパーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車を降りる前に、電動パーキングブレーキが作動していること、およびシフトポジションがPであることを確認してください。
- 縁石や車止めは検出できません。縁石にホイールが接触しそうな場合や車両が車止めを越えそうな場合にはブレーキペダルを踏み車両を停止させてください。車両が損傷することがあります。
- プロパイロットパーキングを使用する前に、車両周辺に切り返しなどの駐車操作ができるスペースが十分あることを直接確認してください。
- 状況によっては車両内外の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。
- 駐車制御中は周囲へ車両の進む方向を知らせるために方向指示器を作動させてください。
- 次のような状況ではプロパイロットパーキングを使用しないでください。
— 人や車両などの通行量が多い場所

運転のしかた

- 停車および駐車が禁止されている場所
- 車両が入らないほど狭い場所
- 穴や溝などがあるような駐車できない場所
- 通路幅が狭い場所
- 急な勾配のある場所
- 砂地や砂利地などの整備されていない路面
- 雪や凍結などでスリップしやすい路面
- 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
- 道幅と駐車位置に十分なスペースがないとき
- 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
- 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
- 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
- 過積載のとき
- 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
- タイヤの空気圧が適正ではないとき
- けん引フックなどを取り付けているとき
- カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
- カメラが汚れや西日、影などで見にくいとき
- ドアミラーが開き切っていないとき
- カメラが正常に取り付けられていないとき
- パンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
- パンパーにへこみなどがあるとき
- ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき
- 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

プロパイロット リモートパーキング★

プロパイロット リモートパーキングについて

⚠ 警告

- プロパイロット リモートパーキングの操作は運転行為の一部です。必ず有効な運転免許証を保持した運転者が操作してください。特に小さなお子さまが誤って操作することがないようにしてください。
- プロパイロット リモートパーキングの性能には限界があります。周囲の安全を確認し、事故を防ぐために必要な操作を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、通常の運転操作と同様に、周りの状況を目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合はプロパイロット リモートパーキング用インテリジェントキーのスイッチを離して車両を停止させてください。

プロパイロット リモートパーキングに使用するソナーセンサーについて

⚠ 警告

- 車両のソナーセンサーが進行方向に障害物を検知し衝突のおそれがあると判断したときは、自動的にブレーキをかけますが性能には限界があります。障害物を検知できない場合には衝突するおそれがあります。過信せず周囲の安全確認を心がけてください。自動ブレーキをかけたあと、プロパイロット リモートパーキングは終了します。再開は状況が改善されたことを確認してから行ってください。

プロパイロット リモートパーキングを使って駐車する

⚠ 警告

- プロパイロット リモートパーキングを使用する際は、車室内に人やペットが残らないようにしてください。ハンドルやアクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が行われると、車両は停止しプロパイロット リモートパーキングは自動的に終了します。
- 安全な場所でプロパイロット リモートパーキングの操作を行ってください。プロパイロット リモートパーキングの操作をするときは、周囲の車両や人の動きに注意し安全を確保してください。
- プロパイロット リモートパーキングの操作をするときは自車の進路上にいないでください。
- プロパイロット リモートパーキング用インテリジェントキーだけを見ながら操作することは絶対にしないでください。
- 運転者が停車位置を定め、停車位置でプロパイロット リモートパーキング用インテリジェントキーのスイッチを離して車両を停止させてください。停車する場所や周囲の障害物などの位置を考慮して自動で停車するシステムではありません。

プロパイロット リモートパーキングの注意事項

⚠ 警告

- 周囲の車両や人の動きに十分注意してください。対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意してプロパイロット リモートパーキングの操作を行ってください。

運転のしかた

- プロパイロットリモートパーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロットリモートパーキングを終了してください。
プロパイロットリモートパーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 以下のような状況ではプロパイロットリモートパーキングを使用しないでください。
 - 人や車両などの通行量が多い場所
 - 停車および駐車が禁止されている場所
 - 車両が入らないほど狭い場所
 - 穴や溝などがあるような駐車できない場所
 - 急な勾配のある場所
 - 砂地や砂利地などの整備されていない路面
 - 雪や凍結などでスリップしやすい路面
 - 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
 - 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
 - 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
 - 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
 - 過積載のとき
 - 摩耗しているタイヤ、スベアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
 - タイヤの空気圧が適正ではないとき
 - けん引フックなどを取り付けているとき
 - トレーラー等をけん引しているとき
 - バンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
 - バンパーにへこみなどがあるとき
 - ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき

- 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき
- 充電コネクタを充電ポートに接続しているとき

室内装備

収納装備

グローブボックス

グローブボックスの使いかた

⚠ 注意

- グローブボックスを開けたまま走行しない。
ブレーキを掛けたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。
ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。

電動センターコンソールボックス

電動センターコンソールボックスの使いかた

⚠ 警告

- 電動コンソールボックスは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器付近にはガスライターなどを置かない。
操作部が露出しているガスライターをワイヤレス充電器付近に置くと、電動センターコンソールボックスを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- センターコンソールボックスを開けたままにしない。

開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

カップホルダー/ボトルホルダー

カップホルダー/ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- 運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。
- ピンなどの硬いものは入れない。
側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 熱い飲物を置かない。
熱い飲物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。
- 飲物をこぼさないように注意する。
飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- 車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。
故障や火災のおそれがあります。

オーバーヘッドコンソール

オーバーヘッドコンソールの使いかた

⚠ 警告

- 炎天下で駐車するときは、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしない。
炎天下での駐車は大変高温になるため、サングラスやメガネが変形したり、ライターが爆発したりするおそれがあります。

⚠ 注意

- オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しない。また、重いものを入れない。
収納物が落下して思わぬケガをするおそれがあります。開閉は停車中にを行い、重いものを入れないでください。

その他の室内装備

先進事故自動通報システム

先進事故自動通報システムの使いかた

⚠ 警告

- <SOSコールスイッチ>を押すときは、安全な場所に停車してから行う。
走行中に運転者がスイッチを押そうとすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- SOSコールは無線通信機能を利用しています。心臓ペースメーカーなどの医療用電気機器を使用している場合は、当該の医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に

室内装備

電波の影響について必ず確認してください。

ヒーターシート

⚠ 注意

- 長時間の連続使用はしない。
低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。
- 硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。

前席ベンチレーションシート★

⚠ 注意

- 長時間の連続使用はしない。
長時間の連続使用は冷やしすぎの原因となります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意して使ってください。
- 硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。

電源ソケット

電源ソケットの使いかた

⚠ 警告

- 電源ソケットを使うときは、次のことを守る。
電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

合、車両火災ややけどのおそれがあります。

- 複数の電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんの機器を接続しないでください。
- 消費電力120W以下のものを使ってください。
- 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入してください。
- 使用中や使用後はソケットやプラグの取り扱いに十分注意してください。
- シガーライターをソケットに差し込まないでください。
- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

USB電源ソケット

USB電源ソケット（センターコンソール後方）の使いかた

⚠ 警告

- SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。
SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- USB電源ソケットを使用するときは、次のことを守る。
USB電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
- 複数のUSB電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない
- 消費電力15W以下のものを使用する
- ケーブルはしっかり奥まで挿入する

- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない
- ソケットの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

⚠ 注意

- モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。
運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ワイヤレス充電器

ワイヤレス充電器の使いかた

⚠ 警告

- 充電エリアとスマートフォンの間にコインなどの金属物を置かない。
車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。
ワイヤレス充電器の電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- 充電中はスマートフォンに布などをかぶせない。
車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
- スマートフォンが濡れた状態で充電しない。
故障、火災または感電のおそれがあります。
- 金属物やインテリジェントキー、メモリードライブなどを充電エリア内に置かない。
- 充電エリアに水や飲物などの液体をこぼさないように注意する。

室内装備

故障、火災または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- 充電エリアにほこりや汚れが付着した状態で使用しない。
- 充電エリアの表面を叩かない。
- 充電エリアの清掃にはグリース、オイルを使用しない。

フロアカーペット

固定のしかた

⚠ 警告

- この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。
フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなったりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。
 - 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない。
 - フロアカーペットでペダルを覆わない。
 - フロアカーペットを重ねて敷かない。
 - 運転席専用のフロアカーペットを使用する。
 - フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない。
- 運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。
- 運転に支障がないことを確認する。
運転する前、＜パワースイッチ＞がOFFの状態でごペダルをいっばいに踏み込み、

フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

- タバコの火種をフロアカーペットなどに落とさない。
火災につながるおそれがあります。

アシストグリップ/コートハンガー

アシストグリップ/コートハンガーの注意事項

⚠ 注意

- アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。
アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。
- コートハンガーにハンガーなど先のとがった物を掛けない。
SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

フレキシブルラゲッジ★

フレキシブルラゲッジに関する注意事項

⚠ 注意

- ラゲッジボードの前端部に強い力を掛けない。
ボードが開き、手を挟むなど思わぬケガをするおそれがあります。
- 背もたれを前方に倒して走行するときは、ラゲッジボードを通常位置に置いた状態で使用する。

急ブレーキや衝突時などにボードの上に置いたものが飛び出し、ケガをするおそれがあります。

トノカバー

⚠ 警告

- i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、トノカバーとテザーベルトが干渉していないことを必ず確認する。
干渉するときは、トノカバーを取り外してください。衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- トノカバーの上に重い物を載せない。
急ブレーキ時に思わぬケガをしたり、トノカバーが破損するおそれがあります。

メンテナンスの前に

点検整備について	P.116
----------	-------

工具・ジャッキ

工具・ジャッキ★について	P.117
--------------	-------

点検と整備

モータールーム	P.120
ウォッシュ液の補給	P.122
寒冷時の取り扱い	P.123
タイヤ	P.124
タイヤ空気圧警報システム	P.127
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.128
ワイパー	P.129
インテリジェントキーの電池交換	P.130
12Vバッテリー	P.131

清掃・お手入れ

外装のお手入れ	P.133
内装のお手入れ	P.138

サービスデータ

点検値	P.141
交換油脂類	P.141
車両仕様	P.143
イベントデータレコーダ (EDR)	P.145
車両状態記録機能	P.146

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

警告

- 充電インジケーターが点灯・点滅しているときは、整備作業を行わない。高電圧システムが作動しているため、感電するおそれがあります。
➡ WEB
- 整備作業を行うときは、車両から充電コネクタを取り外す。
- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。
- 日常点検
- 走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。いつもと違うことに気がいたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油漏れなど）
- 定期点検
1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。
- その他の点検
新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

アドバイス

- 充電インジケーターが消灯しない場合は、次の処置をしてください。
 - ー <パワースイッチ>を2秒以上長押しして、充電インジケーターが消灯したことを確認する
 - ー 運転席ドアを開け、車外に出てから運転席ドアを閉め、5分以上待つ
※充電インジケーターが1秒間隔で緑色に点滅しているときは、12Vバッテリーが充電されています。
- 次の場合は、整備作業を行わないでください。
 - ー 充電ケーブルによるリチウムイオンバッテリー充電時
 - ー 12Vバッテリー補充電時
 - ー リモートエアコンまたはタイマーエアコン作動時
 - ー ソフトウェア自動更新作動時

車検、点検整備のとき

- 車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

工具・ジャッキ★について

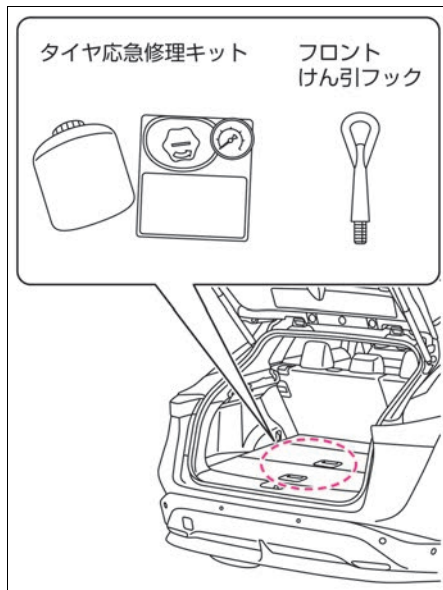
ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

車両の仕様変更または装備変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

工具、タイヤ応急修理キットの格納場所

⚠ 注意

- 工具を使ったあとは、元の場所に収納する。
車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。



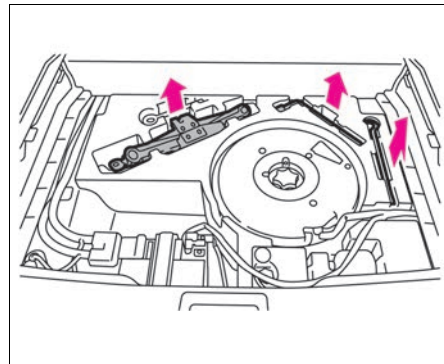
- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 工具の種類や発炎筒（🔥WEB）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。
- 工具・タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内のフロアカバー★またはラゲッジボードの下に格納されています。
🔥WEB

ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーの取り出し（ディーラーオプション）

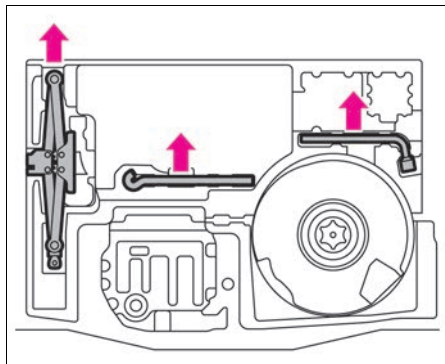
⚠ 注意

- ジャッキを取り出すときは、手をぶつけないように注意する。
金属部などに手をぶつけると、ケガをするおそれがあります。
- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。
- ラゲッジルームのフロアカバー★またはラゲッジボードを持ち上げて取り出します。

2WD車



e-4ORCE (4WD) 車



- この車両には、ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- ジャッキとフロアカバー★またはラゲッジボードが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。

ジャッキの使いかた

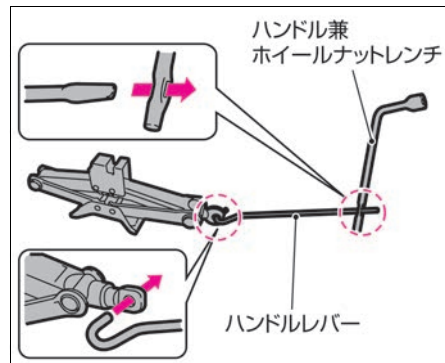
警告

- ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

注意

- 工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドル兼ホイールナットレンチを回すときは、ハンドルレバーをしっかりと握って回す。ハンドルレバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- ハンドルレバーは、確実にハンドル兼ホイールナットレンチの穴に差し込む。ハンドルレバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- ジャッキアップ中はEVシステムを始動しない。車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- ジャッキにハンドルレバーとハンドル兼ホイールナットレンチをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。



ジャッキアップポイント

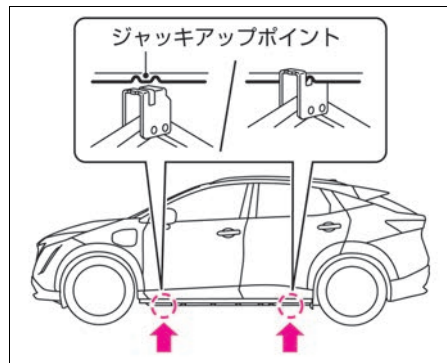
注意

- ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。
 - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使用しないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使用しないでください。
 - ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
 - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
 - 使用前にパーキングブレーキを掛け、シフトポジションをPにしてください。
 - 輪止めなどで車を固定してください。
 - ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。

工具・ジャッキ

— 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。



🚗 アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体に変形するおそれがあります。

ジャッキアップのしかた

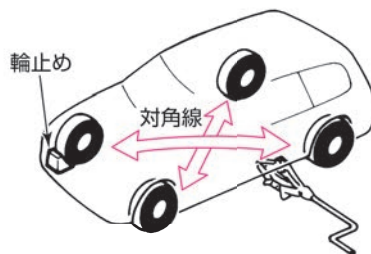
⚠️ 注意

- 柔らかい地面の上ではジャッキアップしない。ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- やむをえず傾斜地で作業するときは、ジャッキをかける位置と対角線の位置

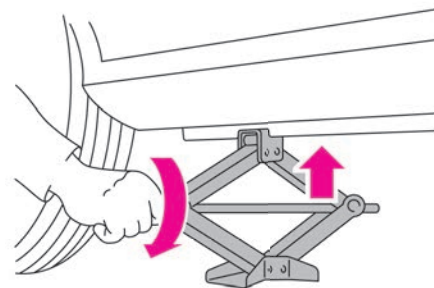
にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

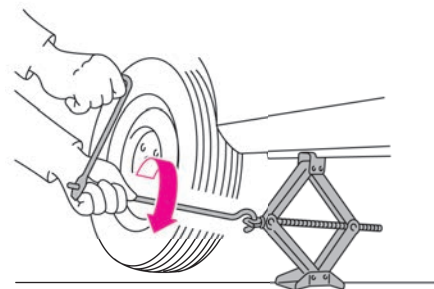
1. 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。
👉 WEB
2. ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。前輪をジャッキアップするとき：後輪の後ろ側
後輪をジャッキアップするとき：前輪の前側



3. ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。



4. ハンドル兼ホイールナットレンチを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。



モータールーム

モータールーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

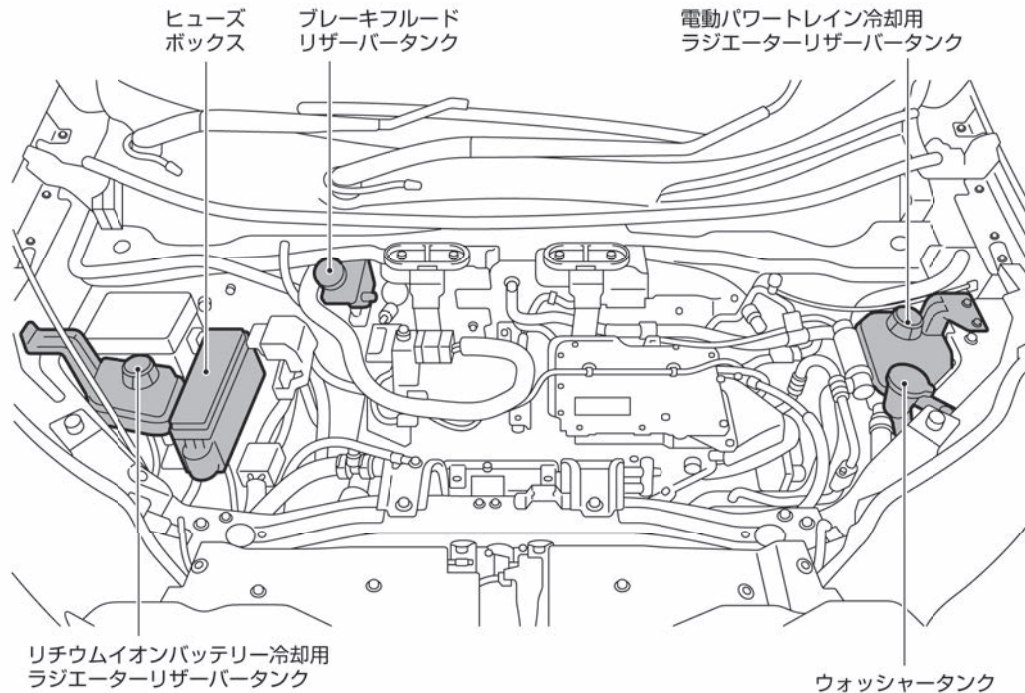
モータールーム内の配置図

警告

- 点検や整備に使用した工具や布などをモータールーム内に置き忘れない。故障や車両火災につながるおそれがあります。

注意

- モータールーム内の作業をするときは、<パワースイッチ>をOFFにする。EVシステム作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。



点検と整備

アドバイス

- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

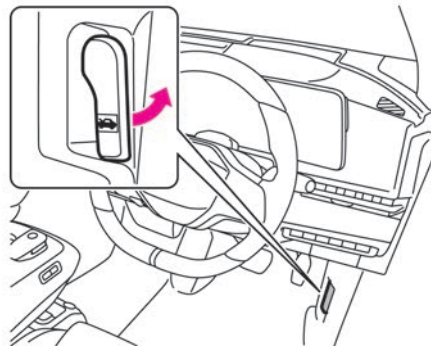
警告

- 走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

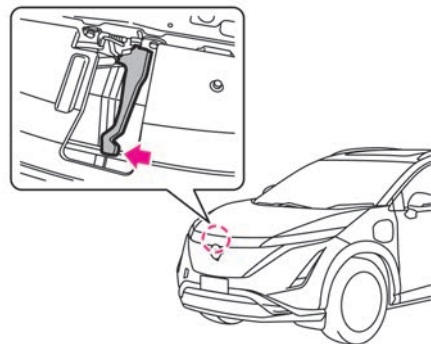
注意

- 風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。
- ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。
- ラジエーターなどの高温部には触れない。やけどをするおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。

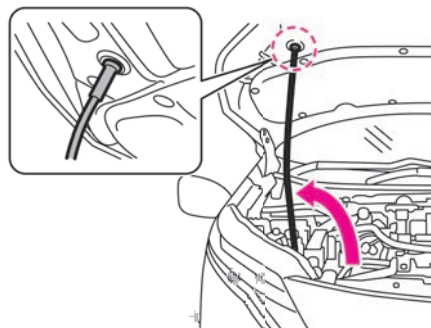
1. 運転席の右下にあるオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。



3. ステーをフックから外し、ボンネット裏側の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。



4. 閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm～30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押しと、ボンネットがへこむおそれがあります。

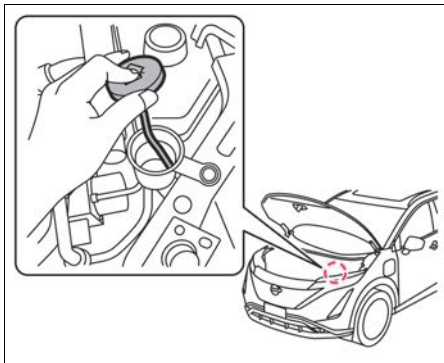
ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

⚠ 注意

- ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部につけない。出火するおそれがあります。
- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。
- ウォッシャータンクのふたの穴を押さえ、引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が確認できます。



- ウォッシャー液の残量を確認したとき、ウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。
- 日産純正ウインドウォッシャー液をおすすめします。
ウォッシャータンク容量 (👉WEB)
- 減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。

☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備 WEB：取扱説明書（電子）を参照願います

- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。

🚗 アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
50%	約-35℃

- 冷却水を補充・交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。
サービスデータ（冷却水） (👉WEB)

🚗 アドバイス

- 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

- 冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。
- タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった日産純正品をおすすめします。
- 20インチタイヤ★にはチェーンを装着できません。冬用タイヤやその他タイヤ滑り止めについては、日産販売会社にご相談ください。

■ ウォッシャー液の濃度点検

- ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

⚠ 警告

- ルーフに積もった雪は落とす。窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- アンテナに雪が積もっている場合は、雪を落としてください。受信感度が低下し、雑音が入るおそれがあります。

- ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使って、ガラスを傷付けないように雪を取り除いてください。
- 足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
- 車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。
- 寒冷時にドアミラーが正常に作動しない場合は、ドアミラー内部が凍結している可能性があります。無理に動かしたりせず、ドアミラー本体にぬるま湯をかけて凍結を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。

アドバイス

- ルーフから雪を落とすときは、アンテナに強い力をかけないようにしてください。アンテナが破損したり、車体がへこんだりするおそれがあります。
- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムをはがれたり損傷したりするおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウィンドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。
- ドアミラーが凍結するような寒冷時は、ドアロック連動格納機能をOFFにしてください。凍結したまま作動を繰り返すと、故障の原因となります。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
👉 WEB

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなる場合があります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- シフトポジションをPにし、パーキングブレーキを掛けずに輪止めをしてください。パーキングブレーキを掛けると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。

- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。

日常的に点検を行ってください。

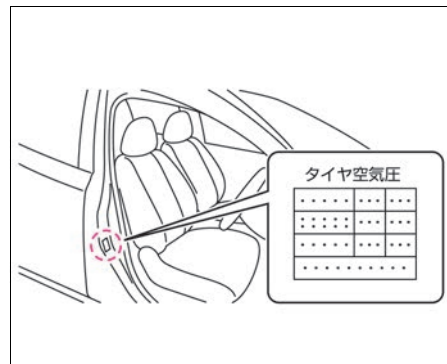
タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。

詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。



点検と整備

- タイヤ空気圧の調整後は、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、メーター内のタイヤ空気圧警告灯と警告表示が消灯します。

👉 WEB

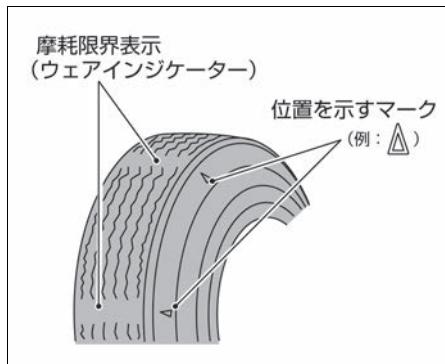
- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- 走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がることがあります。

タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れているか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。



タイヤ・ロードホイールを交換するときは

- タイヤ交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。ロードホイールのサイズは巻末のサービステータに記載してあります。
- タイヤまたはロードホイールを交換したときは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。

👉 WEB

🚗 アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限があるため、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。
- バルブキャップは工具などを使用して締め付けると、破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N・m (11kg・m) です。

タイヤ空気圧警報システムについて

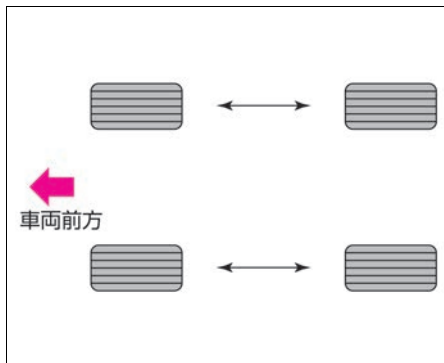
- タイヤ空気圧センサーが付いていないロードホイールを装着すると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。元のタイヤ空気圧センサーが付いているロードホイールを取り付けたあとは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯は消灯します。
- 新しいタイヤ空気圧センサーを取り付けた場合は、専用のIDコードを登録する必要があります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

点検と整備

- タイヤ空気圧センサーのコア、キャップはセンサーの付け替えと一緒に交換してください。摩擦などで劣化すると、タイヤのエア漏れの原因となります。
- タイヤ空気圧の確認や調整をするときは、バルブを曲げないでください。バルブや空気圧センサーを破損するおそれがあります。
- バルブキャップを正しく取り付けてください。バルブキャップがないと、バルブや空気圧センサーを破損するおそれがあります。
- ホイールを保管するときや、ホイールに別のタイヤを取り付けるときは、バルブや空気圧センサーを傷つけないように注意してください。

タイヤローテーションのしかた

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
 - タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。
 - タイヤの位置交換をしたときは、タイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
- ➔ WEB

タイヤに関する注意事項

警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**
気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **5～7年を目安に必ず点検する。**
タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。
- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**
不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時にを行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**
特にe-4ORCE（4WD）車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。
 - 摩耗差の大きいタイヤの装着
 - 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
 - サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着
- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**

注意

点検と整備

車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

タイヤ空気圧警報システム

タイヤ空気圧警報システムは、タイヤ空気圧が不足していることを知らせるシステムです。

タイヤ空気圧警報システムについて

- 25km/h以上で走行したときに、作動します。
- タイヤ空気圧が低下すると、メーター内のタイヤ空気圧警告灯が点灯し、警告を表示します。
- 4輪すべてのタイヤ空気圧を正しく調整したあと、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯 (👉WEB) と警告表示 (👉WEB) が消灯します。
- 気温や高度の変化により、タイヤの空気圧が減少し、タイヤ空気圧警報システムが作動する場合があります。
- パースト（破裂）や急激な空気圧低下をした場合は、メーター内の警告表示がすぐに作動しないことがあります。
- システムに異常があるときは、タイヤ空気圧警告灯 (👉WEB) が約1分間点滅したあとに点灯を続けます。なお適正な空気圧に設定しない限り、その後EVシステムを始動するたびにこの動作が繰り返されます。
- 走行中にタイヤ空気圧警告灯が点灯した場合は、急ハンドル・急ブレーキを避け、

車速を下げて安全な場所に退避し、できるだけすみやかに停車してください。

⚠ 警告

- **タイヤ空気圧警告灯が点灯し、警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認する。** 放置して走行し続けると、タイヤがパースト（破裂）したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯を続けたときは、日産販売会社に点検を受けてください。**
- **パンク修理剤を使用する場合は、必ず日産純正品を使用する。**
- 温度による空気圧の変化や自然に空気圧が減少したときにもタイヤ空気圧警告灯が点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。
👉WEB
- 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。
- 走行するとタイヤ空気圧は指定空気圧よりも上昇しますが、運転後にタイヤ空気圧を下げないでください。
- 外気温が低いとタイヤ内部の空気温度が低下することで、タイヤの空気圧が指定空気圧よりも低下する可能性があります。


🚗 アドバイス

- タイヤ空気圧警報システムは、日常点検を補助するものです。必ず日常点検でタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤ空気圧が不足すると、電費悪化やタイヤ寿命の低下、ハンドル・ブレーキ性能に悪影響を与えることがあります。
- タイヤ空気圧センサーは、日本の電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
 - ― 日本国内のみで使用する。
 - ― 正しい使用方法以外では使用しない。
 - ― 分解や改造はしない。（分解や改造したものを使用することは法律で禁止されています。）
- タイヤ空気圧センサーにはお客様の車に適合する固有のIDコードが登録されています。他の車のタイヤ空気圧センサーを使用すると、システムが作動しません。
- タイヤを修理・交換するときはタイヤ空気圧センサーの取り付けやIDコードの登録をする必要があるため、日産販売会社へご相談ください。
- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しない場合があります。
 - ― タイヤ交換後や空気圧調整後に、タイヤ空気圧警報システムのリセットを行っていないとき
 - ― タイヤチェーンを装着しているとき
 - ― 日産純正品以外のロードホイールを使用したとき
 - ― 日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用したとき

- 近くと同じような無線周波数を使っている施設や器具があるとき
 - 車両、特にロードホイールハウスの周りに多くの雪や氷などが付いたとき
 - タイヤ応急修理キットを使用したとき
 - タイヤ空気圧センサーのIDコードがシステムに登録されていないとき
 - この車両の指定の空気圧センサーが取り付けられていないとき
 - タイヤ空気圧センサーが装着されていないホイールを装着したとき
 - タイヤ空気圧センサーの電池が消耗したとき
 - 窓ガラスに金属性の部品を装着しているとき
- タイヤ空気圧センサーには、車両と通信するための電池が内蔵されています。走行中は、常時車両と通信しているため電池を消耗しており、電池が切れると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。電池が消耗したときは、日産販売会社にご相談ください。電池単品での交換はできません。
 - 凹凸のある道路を走行するときは注意して走行してください。タイヤ空気圧センサーを破損させるおそれがあります。
 - 次の場合は、電波の障害を受けるため正しく作動しない場合があります。
 - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
 - 無線機や携帯電話などの無線通信機器と一緒に携帯しているとき


- 近くで電波式リモートコントロールエントリーを使用しているとき
- パソコン（または同様の装置）やDC/ACコンバータなどの電化製品が、車室内または車両の近くにあるとき
- 近くに本システムと同じような周波数を使っている施設、器具がある場合、または地域にいるとき
- 同じような周波数を使った無線機や器具を使用しているとき
- 電子情報機器を車室内で使用しているとき

タイヤ空気圧警告システムのリセットのしかた

1. 安全な場所に停車します。
2. パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにします。
3. 4輪すべてのタイヤを指定の空気圧に調整し、タイヤエアゲージを使用して確認します。
4. ブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押して、ONにします。EVシステムは始動させないでください。
5. アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定 [] ⇒ [TPMS設定] ⇒ [TPMSリセット] を選択し、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセット画面が表示されます。[[はい]]を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとタイヤ空

6. 空気圧警告システムをリセットできます。
 - リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯と警告表示が消灯します。その後、しばらく走行することでデータが更新されます。

アドバイス

- 次の場合はタイヤ空気圧警告システムのリセット操作が必要となります。
 - タイヤ空気圧を調整したとき
 - タイヤまたはホイールを交換したとき
 - タイヤの位置交換（ローテーション）をしたとき
- リセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
タイヤ空気圧警告灯 ( WEB)

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

⚠ 注意

- タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

点検と整備

- 冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。e-4ORCE（4WD）車も前2輪に装着してください。
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
- 20インチタイヤ★にはチェーンを装着できません。冬用タイヤやその他タイヤ滑り止めについては、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバーやアルミホイールに傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、e-4ORCE（4WD）車は車の性能が十分に発揮できなくなる場合があります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備 WEB：取扱説明書（電子）を参照願います

- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行しないでください。また、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

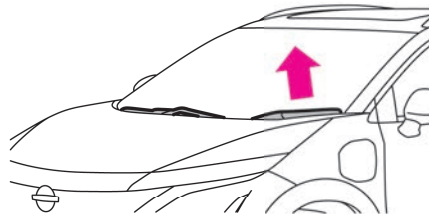
ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷付けたりします。

定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

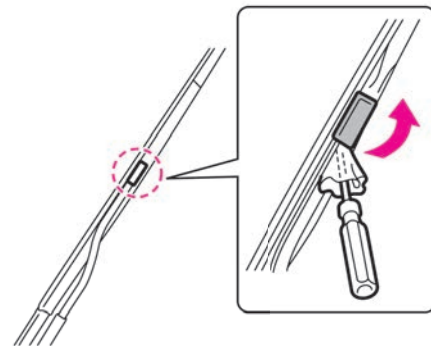
ワイパーブレードの交換のしかた

- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。

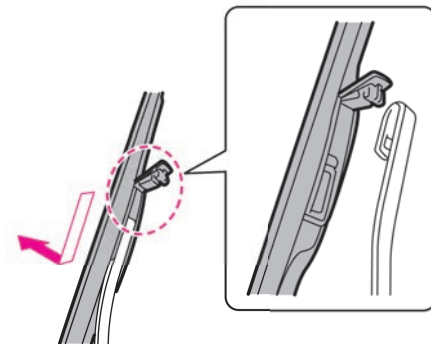
1. ワイパーアームを起こします。



2. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、ストッパーを起こします。



3. ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。



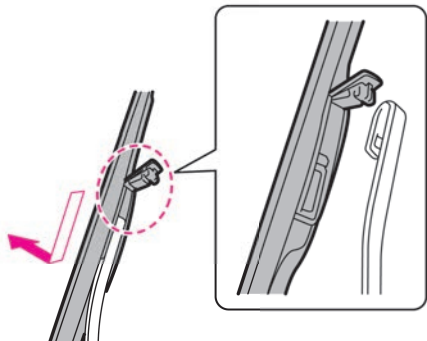
4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。

🚗 アドバイス

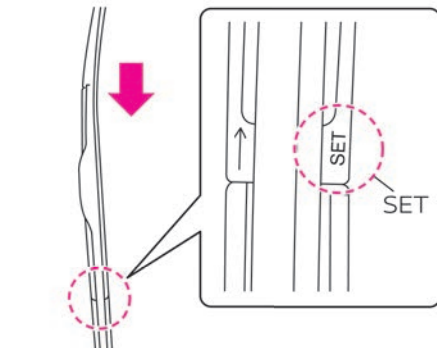
- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気を付けてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

ワイパーゴムの交換のしかた

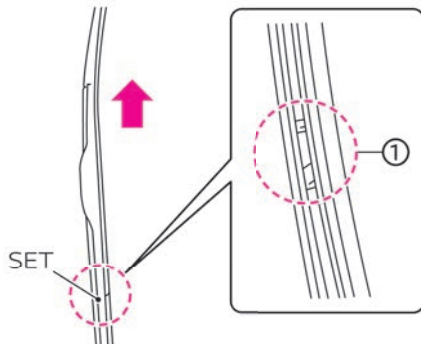
- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。
1. ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。



2. ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。



3. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。ワイパーゴムの①部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。



インテリジェントキーの電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。次の手順に沿って、電池を交換してください。

電池交換のしかた

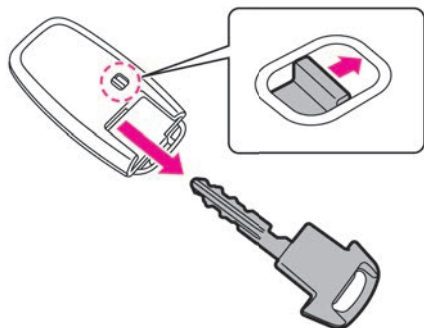
⚠️ 警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。インテリジェントキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。
- 電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、直ちに医師の診察を受ける。

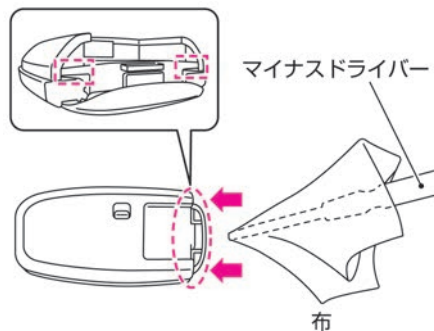
⚠️ 注意

- カバーがしっかりと閉まらない場合は、インテリジェントキーの使用を中止する。インテリジェントキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。

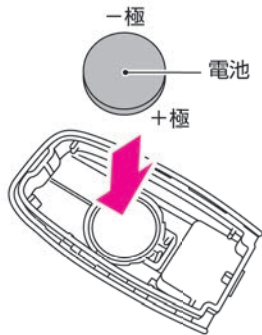
点検と整備



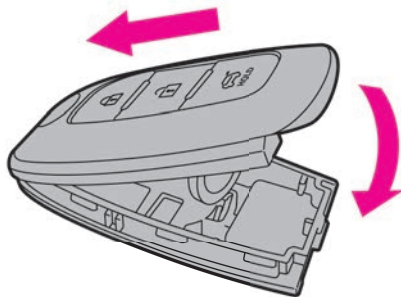
2. 左右のすき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。(カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください)



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。(新しい電池は、+極を下にして取り付けてください)
使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。



アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。

- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリー

12Vバッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリーに関する注意事項

警告

- 12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

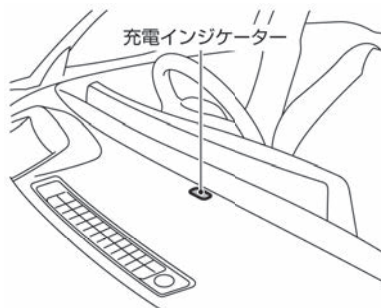
注意

- 12Vバッテリーの+側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12V

点検と整備

バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。



上記処置後に、充電インジケータが消灯していること、パワースイッチがOFFになっていることを確認してください。

アドバイス

- 12Vバッテリーを交換するときは、次のことを確認し、その後運転席ドアを閉めた状態で5分以上待ってから60分以内に実施してください。
 - <パワースイッチ>がOFFになっている
 - 充電コネクタが接続されていない
 - 充電インジケータが消灯している
 - ソフトウェア自動更新が作動していない
- 充電インジケータが消灯しない場合は、12Vバッテリーが充電されています。次の処置をしてください。
 - 一度<パワースイッチ>をONにし、その後<パワースイッチ>を2秒以上長押しする

外装のお手入れ

塗装面の変色や錆などを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色や錆の原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
 - ばい煙、虫の死がいや鳥の糞、樹液、鉄粉、コールトールなどが付着したとき
 - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ほこり、汚れがひどいとき

■ 水洗いするときは

- 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
- 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
- はん点が残らないように水をふき取りま

洗車時の注意

⚠ 注意

- 下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。
- 洗車するときは、モータールーム内に水をかけない。

電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。

- **モータールーム内を水で洗ったり、洗剤やワックスなどを直接スプレーしたりしない。**

EVシステムの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあります。

水や洗剤、ワックスなどの製品、もしくはその他シリコンを含む製品を使用する場合は、布に塗布してからモータールームをふいてください。

- **洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディーカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるなど、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で「パークバックドア」をOFFにする。**

ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

➡ WEB

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷付けるおそれがあります。

- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。
- 洗車をするときに、車体に体重を掛けるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは

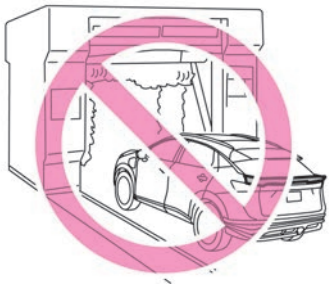
- ドアミラーを格納してください。
➡ WEB
- 充電ポートリッドを完全に閉めてください。
➡ WEB
- 高圧洗浄機を使用するときは、高圧ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。高圧ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めたりすることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。
- 自動洗車機で洗車すると、リヤワイパーを破損するおそれがあります。
- 洗車機の種類によってはスポイラーが引っ掛かり、洗車できないことがあります。

清掃・お手入れ

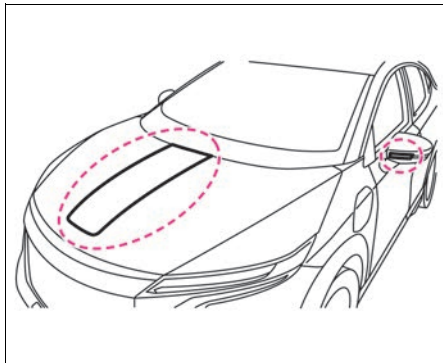
- アンダーカバーを外した状態で高圧洗浄機を使用しないでください。電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
- 高圧洗浄機を使用するときは、アンテナのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。
NISMO仕様車はフードステッカー★、ミラーステッカー、NISMOエンブレムのお手入れ (👉WEB) を参照してください。
- NISMO仕様車は、自動洗車機を使用しないでください。洗車機を使用すると、リアデッキスポイラーが破損するおそれがあります。



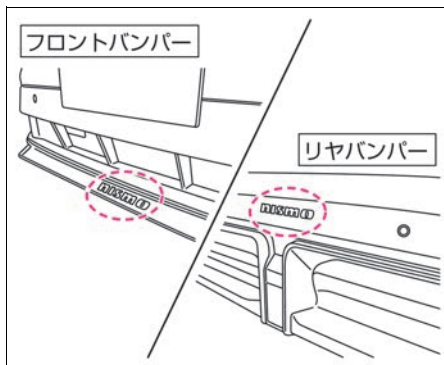
フードステッカー★、ミラーステッカー、NISMOエンブレムのお手入れ (NISMO仕様車)

- 表面の汚れをとるときは、水洗い後柔らかい布で拭き取ります。強くこすると、傷がつくことがあります。

- 高圧洗浄機を使用するときは、フードステッカーまたはミラーステッカーのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。ステッカーが剥がれるおそれがあります。



- 高圧洗浄機を使用するときは、NISMOエンブレムのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。NISMOエンブレムが剥がれるおそれがあります。



ワックスをかけるときは

- ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

- ① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。
- ② 塗装面が冷えているとき (体温以下が目安) にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

- コンパウンド (研磨剤) の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド (研磨剤) の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けしないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミホイールのお手入れ

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正ク

清掃・お手入れ

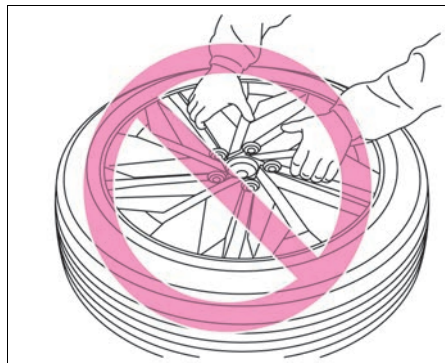
リーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷を付けたりするおそれがあるため、次のことをお守りください。
 - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
 - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
 - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
 - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

樹脂加飾付ホイール★の取り扱いについて

- ホイールに装着されている樹脂加飾を取り外さないでください。ホイールや樹脂加飾を損傷するおそれがあります。樹脂加飾の取り外しが必要な場合は、日産販売会社にご相談ください。
- 樹脂加飾を持ってホイールを持ち上げたり、持ち運んだりしないでください。



- ホイールの樹脂加飾にガタつきがあったり、走行中にホイール周辺から異音が聞こえたりするときは、日産販売会社で点検を受けてください。

軽い補修のしかた

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を 방지、塗装面を長持ちさせます。
 - フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイントを含め塗装修理はできません。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。
- ➔ WEB

レーダーセンサー/カメラ類の取り扱い注意

警告

- センサー、カメラ部に強い衝撃を与えない。
精密機器のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災、または感電のおそれがあります。
- レーダーセンサーの技適認証について
以下の装置は日本の電波法（電波法）に基づいて認可されています。本製品の改造は禁止されています。（適合証明番号などが無効となります。）



フロントレーダー



サイドレーダー

⚠ 注意

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺に誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

🚗 アドバイス

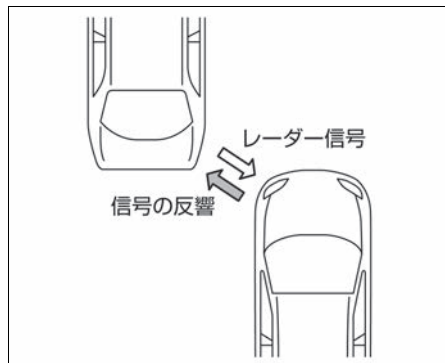
- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷を付けしないでください。映像へ影響が出る場合があります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

バンパーの修理

バンパーにはレーダーセンサーが内蔵されているため、修理には細心の注意が必要です。

■ レーダーセンサーの仕組み

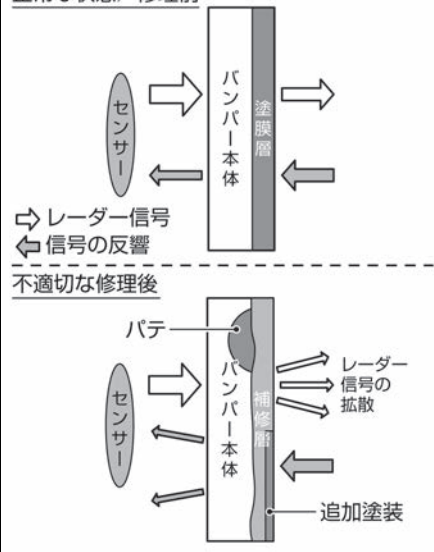
レーダーセンサーからレーダー信号を発生させ、その信号の反響により障害物を検出します。



■ バンパーの修理

不適切なバンパー修理（異なる素材のパテ使用や追加塗装など）を行うと、レーダー信号が弱まったり、正しく発信できなかったりするため、障害物を正しく検出する事ができなくなります。

正常な状態／修理前



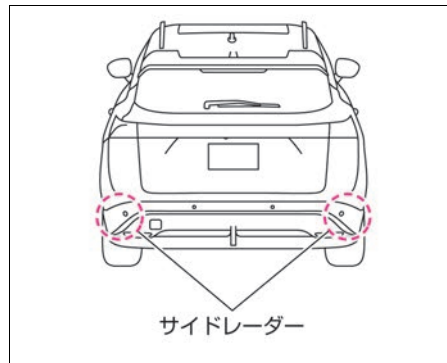
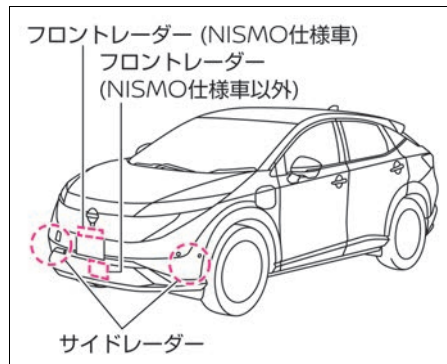
レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- レーダーセンサーの性能が発揮できない可能性があるため、以下は行わないでください。
 - － レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
 - － お客様の手による塗装、修理
 - － フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着

清掃・お手入れ


- レーダーセンサー周辺の鳥糞、虫、泥などの付着の放置
- 衝突などによるレーダーセンサー周辺の破損、傷つきの放置

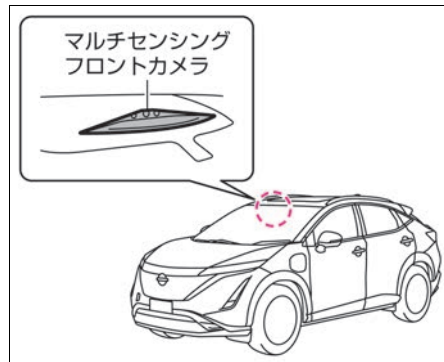


- フロントバンパー、リヤバンパーを塗装、修理する場合は必ず日産販売会社にご相談ください。

マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

システムを正しく動作させるため、次のことをお守りください。

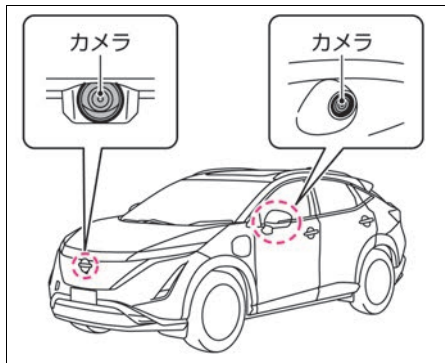
- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- インストルメントパネル上に鏡や白い紙などの光を反射しやすいものを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響が出るおそれがあります。
- カメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- フロントガラスが汚れていたり、マルチセンシングフロントカメラの前が障害物でふさがれていたり、カメラが前方を撮像できないとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイに【ヘッドランプ警告】の警告メッセージ（WEB）が表示されることがあります。カメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してください。



フロントビュー／サイドビューカメラの取り扱い

システムを正しく動作させるために、次のことをお守りください。

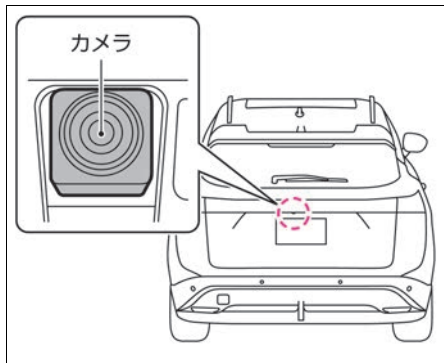
- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



リヤビューカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをご守りください。

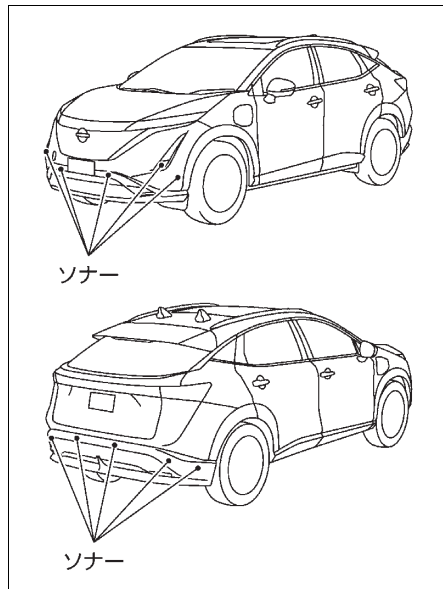
- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 光が反射するため、ナンバープレートにアクセサリを取り付けしないでください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社にご相談を受けてください。



ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをご守りください。

- ソナーはいつもきれいにしておいてください。
汚れているときは、柔らかい布で傷付けないように注意してふき取ってください。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリなどを取り付けしないでください。故障、誤作動の原因になります。



内装のお手入れ

内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがある

ります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。

- オーディオやスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。
- 消臭剤・芳香剤、化粧品・日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤・芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。



布、合成皮革の汚れ取り

中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

ナッパレザーシート★のお手入れ

- ナッパレザーシートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日産販売会社にご相談ください。

通常のお手入れ

- ガーゼなど柔らかい布でふきます。

水溶性の汚れを取るとき

- 柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

油性の汚れを取るとき

- ① ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度2～3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。
- ② 真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。
- ③ 乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

アドバイス

- ナッパレザーシートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- ナッパレザーシートが水などで濡れたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

- 塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色したりする原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

ガラスの汚れ取り

- バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。
- ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

インテリジェント ルームミラーのお 手入れ

- ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。
- ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっとふいてください。
- 清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部をふかないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布でふいてから乾いた柔らかい布でふいてください。
- カメラ前面のバックドアガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
- カメラ前面のバックドアガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。

サービスデータ

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル※	床板とのすき間 走行可能表示灯 [READY] が点灯時に約490N (50kg) で踏んだとき	95mm以上

※ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの高さの調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。
記載の規定量は目安です。実際の量とは異なることがあります。
交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。

減速機オイル

適用	規定量 (ℓ)	指定銘柄
全車	0.87	日産純正GEAR oil NFX 75W※

※：必ず日産純正GEAR oil NFX 75Wを使用してください。日産純正GEAR oil NFX 75W以外のオイルを使用すると減速機が損傷するおそれがあります。

リヤファイナルドライブオイル

適用	規定量 (ℓ)	指定銘柄
e-4ORCE (4WD) 車	0.75	日産純正GEAR oil NFX 75W※

※：必ず日産純正GEAR oil NFX 75Wを使用してください。日産純正GEAR oil NFX 75W以外のオイルを使用するとリヤファイナルドライブが損傷するおそれがあります。

ブレーキフルード

適用	規定量 (ℓ)	指定銘柄
全車	-	日産純正ブレーキフルードNo.2500 (DOT3)

☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備 WEB：取扱説明書（電子）を参照願います

電動パワートレイン冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
2WD車	3.8 ※1	日産純正スーパーロングライフクーラント ※2
e-4ORCE（4WD）車	5.8 ※1	

※1：リザーバタンクの容量を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

リチウムイオンバッテリー冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	2.9 ※1	日産純正スーパーロングライフクーラント ※2

※1：リザーバタンクの容量を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

ウォッシャー液

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	2.0	日産純正ウインドウォッシャー液※

※：外気温に応じて濃度を調節してください。

車両仕様

6kW普通充電器（車載用）／急速充電

項目	内容
入力電圧	AC 100V ～ 200V
定格周波数	50Hz／60Hz
最大定格電流	30A（6kW普通充電器（車載用））
漏電遮断器の検知電流	建屋側のブレーカーや接続している充電ケーブルによって異なります。（日産純正品充電ケーブル：15mA）
EV充電モード／接続タイプ	Mode 2／Case B（普通充電、日産純正品充電ケーブルとの組み合わせ） Mode 3／Case B/C（3kW普通充電、6kW普通充電、公共充電スタンドなど） Mode 4／Case C（急速充電、V2H）
施工要求（短絡保護電流、保護機器の情報）	過電流、過電圧対策手段は、国内の法規、基準に従うことが必要です。家屋、ビルの配線に適切な過電流保護装置を必ず設置してください。
IP等級	IP44：充電中の充電ケーブル（コントロールボックス付）★と充電ポート結合部（日産純正品充電ケーブルとの組み合わせ）
動作温度	車両の動作温度
保管温度	車両の保管温度
適合規格	SAE J1772 / EN61851-1 / EN61000-6-1 / EN61851-21 / EN61000-6-3/ IEC61851-1/ IEC61851-21
アダプタ	充電ポート部にアダプタを使用しないでください。

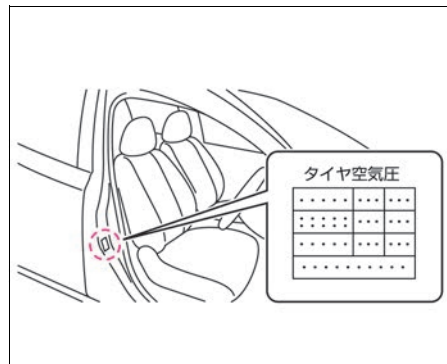
外装ランプ

- 次の外装ランプはすべてLEDです。
 - － 前照灯（ヘッドランプ）
 - － 前部霧灯（フォグランブ）
 - － 後部霧灯（リヤフォグランブ）★
 - － LEDデイトタイムランニングランプ
 - － イルミネーションエンブレム
 - － 車幅灯
 - － 番号灯
 - － 尾灯
 - － 制動灯
 - － ハイマウントストップランプ
 - － 後退灯
 - － 方向指示器 兼 非常点滅表示灯

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
235/55R19 101V	19 × 75J	114.3mm (5穴)	40mm
255/45R20 101V	20 × 8J		45mm
255/45R20 105W XL	20 × 8.5J		42mm

タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあるため、確認してください。



イベントデータレコーダ (EDR)

車両データの記録・蓄積について

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。
- 氏名、性別、年齢などの個人情報には記録しません。

この車両に装備されている次のシステムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備 WEB：取扱説明書（電子）を参照願います

次のシステムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に次の車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 車速などの車両情報

■ プロパイロットシステム★

プロパイロットは次の車両データを記録・蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況
- 車速などの車両情報
- プロパイロットの作動に関する情報
- プロパイロットの故障診断情報

- マルチセンシングフロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェントエマージェンシーブレーキ作動時）

■ プロパイロット2.0システム★

プロパイロット2.0システムは車両データを記録・蓄積します。

🌐 WEB

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、次の車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコードとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元の確かなサービスを提供することができます。

データの取り扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

MEMO

MEMO